

# i C o T o B a 年 報

愛知県立大学 iCoToBa（多言語学習センター）年報



第 1 号

2014（平成 26）年 3 月

愛知県立大学

# i C o T o B a 年 報

愛知県立大学 iCoToBa（多言語学習センター）年報



第 1 号

2014（平成 26）年 3 月

愛知県立大学



## 目 次

はじめに .....	1
1 iCoToBa 概要 .....	3
2 iCoToBa ガイダンス .....	7
3 iCoToBa の授業 .....	11
4 iCoToBa のイベント .....	77
5 e-Learning プログラムの導入と概要 .....	85
6 グローバル関連行事 .....	89
7 アドバイジング .....	93
8 iCoToBa Supporters Club の発足 .....	97
9 教材開発・教育実践 .....	99
10 広報活動 .....	105
11 資料 .....	109



# はじめに

宮谷 敦美(iCoToBa 委員長・国際関係学科)

2012 年度に採択された文部科学省「グローバル人材育成推進事業」の中核を担う施設として、2013 年4月、iCoToBa(多言語学習センター)が開設された。

iCoToBa の開設にあたり、iCoToBa 委員会の前身となる多言語学習センター準備委員会は、5 ヶ月弱という短期間に、教員人事をはじめ、センターの空間デザインや語学授業デザイン、2013 年度ガイダンスの準備まで突貫作業で取り組んでいた。その中で、センターを本学学生にとって親しみやすく、かつ外国語学習が楽しくなる「場」になることを願い、「iCoToBa」という名称をつけた。

iCoToBa には、さまざまな想いと意味が込められている。

i(あい)	...	愛知県立大学、 <u>私</u> 自身、 <u>i</u> ndependent
Co(こ)	...	<u>c</u> ommunication、 <u>c</u> ooperation、 <u>c</u> ommunity
To(と)	...	<u>t</u> ogether、仲間 <u>と</u> 共に 目標に向 <u>か</u> って
Ba(ば)	...	人々が出 <u>会</u> い、つどい、学 <u>ぶ</u> 場

iCoToBa は、「学生が自主性を持ち、コミュニケーションや仲間と協働して学ぶ場」を目指した教育と交流のための施設なのである。

目次を見ていただくとお分かりのように、iCoToBa の活動は多岐にわたる。本報告書では、iCoToBa 開設1年目の取り組みについて、教員と職員が走りながら作り上げてきた内容について報告する。上記の iCoToBa が目指す場としての役割が、少しでも果たせていたらうれしく思う。

ご高覧いただき、次年度に向けての改善点など、忌憚ないご意見をいただければ幸いである。



# 1 iCoToBa 概要

宮谷 敦美(国際関係学科)

## 1. はじめに

iCoToBa(多言語学習センター)は、2013 年4月に本学の外国語学習支援と異文化交流推進を目的に開設された。iCoToBa では、英語2名、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語各1名の外国人教員が、バラエティ豊かな語学授業を提供している。また、留学アドバイザーと語学学習アドバイザーによる個別指導を行い、学生の外国語能力養成と計画的な学修ができるようにサポートしている。

また、iCoToBa では、定期的に異文化理解イベントなども開催しており、「県大生にとって一番身近な異文化体験の場」となることを目指している。

ここでは、iCoToBa が果たしている役割を概観した上で、語学授業と施設、運営体制について説明する。

## 2. iCoToBa の役割

iCoToBa は、以下の役割を果たしている。

### ① 語学授業の提供

英語 45 時間(90 分×30 コマ)、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語は、各 15 時間(90 分×10 コマ)の語学授業を開講している。語学授業は、専攻外国語と第2外国語の授業や外国語学部必修科目の時間帯を調査し、できるだけ学生が履修しやすい時間帯に設定するように工夫している。(pp.11-75 参照)

### ② 語学学習アドバイジングと自律学習支援

iCoToBa では、専任の語学学習アドバイザーが、TOEFL や IELTS など、英語圏の留学に必要な検定試験の準備など、個別相談に応じている。また、e-Learning を用いた語学学習に学生が自主的に取り組めるよう、「TOEIC7」などイベントを計画したり、インターネット・ポートフォリオシステム manaba(後述)を活用した遠隔指導も行っている。(pp.94-96 参照)

### ③ 留学アドバイザーによる相談業務および留学サポート

専任の留学アドバイザーが、国際交流室との協働のもと、個別に留学準備のための相談に応じている。加えて、留学体験をした学生の体験談を聞くイベントなど、学生への留学への動機づけを目指したイベントを計画・実施している。(p.93 参照)

### ④ 異文化理解、異文化交流を促進させるイベントの開催

外国の文化を紹介・体験するイベント(Australian Cooking、餃子パーティ、Halloween Party など)や、本学留学生や近隣に住む外国人との交流イベントなどを開催している。本学の学生にとって、異文化を理解し、実際に外国語でコミュニケーションする機会にもなっている。また、これらの多くのイベントは、教員が企画運営するのではなく、企画段階から学生も参加



することで、学生の自主性や行動力、マネジメント能力育成も目指している。(pp.77-83 参照)

⑤ 学生活動のサポート

の活動を契機に、学生自身が「ともに創りだす楽しさ」を発見することも多い。これを成長の機会ととらえ、iCoToBa では、学生自身が企画を作成し実施することも推奨、サポートしている。現在では、学生の自主グループ iCoToBa Supporters Club (通称 ISC)が組織化され、iCoToBa の運営に積極的に参画している。(p.97 参照)

⑥ 「グローバル人材育成推進事業」の促進

2012 年9月に採択された本学の「グローバル人材育成推進事業」の促進のため、グローバル人材育成推進室やキャリア支援室と協働して事業を実施している。(pp.89-92 参照)

⑦ 情報発信

ホームページや manaba を活用し、外国語学習や留学に関する情報提供を行っている。また、学生の自主的な活動のサポートとして manaba コミュニティを立ち上げ、運営している。(pp.105-107 参照)

加えて、iCoToBa で取り組んでいる語学授業や、教育手法について、学会発表や、教材発行も行っている。(pp.99-103 参照)

iCoToBa では、2013 年度より外国語学部で導入したインターネット・ポートフォリオシステム manaba(まなば)を、iCoToBa の科目履修システムや学生指導などのコミュニケーションツールとして積極的に活用している。学習記録を蓄積する機能をもつ manaba 導入により、学生が大学生活でどのような学びを積み上げているかを可視化し、指導に役立てることを目指している。

### 3. iCoToBa の語学授業の目的

iCoToBa では、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語の5言語とこれらの言語圏の文化について、学生のレベルに応じ、4種類の授業を開講している。

① 総合的な語学能力養成

「話す、聞く、読む、書く」の4技能に基づいた授業、および、留学生活に必要となる場面でのコミュニケーション能力養成を目指した授業

② 言語圏の社会や文化について理解を深める

視聴覚教材やインターネット、レアーリア(実物教材)を取り入れ、ディスカッションや学生による調査を取り入れた授業

③ グループで課題を決め、外国語を用いてプロジェクトワークを行う授業

学生自身がリサーチし、外国語でまとめ、発表する、情報リテラシーについても学べる授業

④ 語学検定対策

「グローバル人材プログラム」で指定されている語学検定対策授業、および英語圏への留学に必要となる TOEFL、IELTS の授業

なお、iCoToBa 開講の「日本紹介」、「比較文化セミナー」、「留学前リサーチ発信プロジェクト」、「学生共同プロジェクト」は、「グローバル人材プログラム」の指定科目である。

#### 4. 施設の特徴

iCoToBa は、交流スペースである「iLounge」、パソコンを利用し e-Learning コンテンツなどを学習できる「Self Study Space」、語学授業やミーティングに活用できる「Activity Space」からなる。

##### ① iLounge

学生が自由に会話を楽しめるスペースで、昼休みにはいつも多言語が飛び交っている。  
Visual-Study スペースでは、海外のテレビ番組を視聴したり、海外映画を楽しむことができる。  
また、語学学習や留学のための雑誌や書籍なども自由に閲覧できる。

##### ② Self Study Space

Self Study Space は、パソコンが 14 台設置され、自由に使うことができる。すべてのパソコンには、ロゼッタストーンソフトがインストールされており、e-Learning システムなども活用して自分のペースで語学学習に取り組むこともできる(受付でヘッドホンの貸し出しも行っている)。また、場に縛られない自由な学習のために、貸出用の iPad も 10 台、ノートパソコンを 5 台設置している。

##### ③ Activity Space

可動式のテーブルと椅子が配置され、特大サイズホワイトボードとインターネット対応電子ホワイトボードを完備している。このスペースでは、プロジェクト型の授業やピア学習など、さまざまな形態の授業を行うことができる。

#### 5. iCoToBa 運営体制

2013 年度の iCoToBa は、以下のスタッフにより運営された。

##### 【iCoToBa】

専任講師	英語担当	Fern EDEBOHLS
専任講師	英語担当	Brett HACK
専任講師	フランス語担当	Morgan DALIN
准教授	スペイン語担当	Susana DIEGO (2013 年 8 月 31 日まで)
准教授	ドイツ語担当	Morten HUNKE
准教授	中国語担当	曲 明
准教授	留学アドバイザー	大山 守雄
専任講師	語学学習アドバイザー	寺澤 君江
事務職員	iCoToBa 受付	岡崎 まどか(グローバル人材育成推進室)

##### 【iCoToBa 委員会】

委員長	宮谷 敦美 (国際関係学科)
委員	石原 覚 (英米学科)
委員	長沼 圭一 (ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)
委員	糸魚川 美樹 (ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)
委員	四ツ谷 亮子 (ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)
委員	中西 千香 (中国学科)

委員	福岡 千珠 (国際関係学科)
委員	大山 守雄 (iCoToBa 留学アドバイザー)
委員	寺澤 君江 (iCoToBa 学習アドバイザー)
担当事務職員	水野 淑子 (グローバル人材育成推進室)

## 2 iCoToBa ガイダンス

2013 年4月に、2種類の iCoToBa ガイダンスを実施した。外国語学部的全学生に iCoToBa の存在を知り、身近に感じてもらうことを目的とした iCoToBa Welcome ガイダンスと、新入生を対象に実施した外国語学習の動機づけと主体的な学びを促すことを主眼に置いた iCoToBa 新入生ガイダンスである。以下では、ガイダンスの実施内容を紹介し、次年度の課題や検討事項について述べる。

### 2.1. iCoToBa Welcome ガイダンス

大山 守雄 (iCoToBa 留学アドバイザー)

4 月第 2 週の学科ガイダンス時の CASEC テストを受けたあと、新入生は iCoToBa に移動し、6 人の外国人教員による授業紹介ガイダンスに参加した。それぞれの教員が別々の場所にコーナーを設け、自己紹介と自分が教える iCoToBa 科目の紹介を行った。各教員が学科ごとに約 10 分ずつセッションを行った。

大勢の学生がいっせいに iCoToBa に押しかけたので、最初は混乱が生じた学科もあったが、コーナーの回り方を工夫してからはスムーズに運んだ。所要時間は 1 時間強（ゴルフ大会のように全てのコーナーで同時スタートして、同時に次のコーナーに移動した場合）～2 時間弱（自動車生産のように全員が A コーナーからスタートし Z コーナーで終わるベルト・コンベア式の場合）であった。

第 3 週は Welcome Week と称し、昼食時間帯を中心に外国人教員との交流タイムを設定した。学科内での周知の仕方の差なのか、各学科の性格差なのか特定できないが、初期の学科間の差がそのまま年間を通した利用率の差にもつながったように思われる。また在校生への周知にも工夫が足りなかったようで、留学していた学生が戻った後期までは訪問者は圧倒的に 1 年生が多かった。



## 2.2. iCoToBa 新入生ガイダンスについて

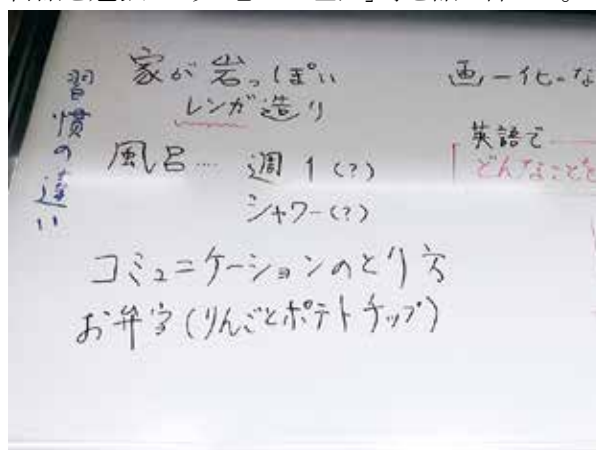
福岡 千珠(国際関係学科)

2013年度、グローバル人材育成プログラムが始まり、iCoToBaも開設されたばかりの4月に、二度にわたり新入生ガイダンスが行われた。この時点では、スタッフもiCoToBaが学生にとってどのような場となるのか、またe-Learningプログラムや教育支援システムであるmanabaをどのように活用しうるのかなど、まだまだ具体像は見えてこず手探りの状態であった。しかし、どんなによりプログラムや設備があっても、学生が主体的にそれらを活用しようという意識を持って取り組まない限り、学習効果は生まれない。その意識のもと、スタッフは、新入生ガイダンスを単なる施設やカリキュラムの説明に終わらせず、外国語学習について新入生とともに考える場としたいと考え、学科ごとにそれぞれ二回にわたってディスカッションも含む双方向的なガイダンスを実施した。

第一回目のガイダンスは、「外国語学習についてともに考える」をテーマに行われた。このガイダンスの目的は、大学で外国語を学ぶその目的をもう一度認識し、その目的のために活用しうる手段として、iCoToBaやe-Learningを知ってもらうことであった。

第一回目のガイダンスは、二つの学科・専攻が一つの教室に集まる形で始められた。まず、なぜ外国語を学ぶのかという議論に導くためのウォーミングアップとしてとして、教員から新入生に「みなさんは、みなさんが学ぶ言語について、どんなイメージを持っていますか?」「また、その言語が話されている国、その言語を話す人々、その文化についてどんなことを知っていますか?」という問いを投げかけた。その問いをもとに学生同士グループで議論してもらい、その後発言をフロア全体でシェアする形をとった。「英語圏は岩で作られた家が多い」「英語はなまりが多い」など、学生は非常に自由に自分のイメージについて語った。その後、さらにそのイメージをヒントに「それぞれの言語を使ってできること」「それぞれの言語を勉強しようと思った理由」等を話し合った。

その後、グローバル人材育成プログラムにおいて、世界で活躍するために必要だと考えられている以下の8種の能力(①高度な語学力、②国際教養、③プレゼンテーションスキル、④情報リテラシー、⑤広義のコミュニケーション能力、⑥異文化適応能力、⑦課題発見・解決力、⑧マネジメント能力)について学生に議論させた。それぞれ具体的にはどのような能力なのか、それぞれの能力は自分に本当に必要なのかを考えてもらったのだが、この部分のディスカッションはなかなか難しかったようである。



(英米学科、国際関係学科の議論)

最後に、これまでの外国語学習を振り返らせ、愛知県立大学で外国語学習をするうえで、また上記の能力を身につける上で、iCoToBaやe-Learning、manabaの活用が有効な手段であることを述べ、第一回目のガイダンスは終わった。

第二回目のガイダンスの目的は主に、学生が教育支援システムmanabaの操作に慣れ、各種のe-Learningに一度は触れてみる機会を持ってもらうことであった。パソコン上の操作を伴うため、

第二回目のガイダンスは学科ごとに LL 教室(言語実習室)で行われた。学生はまず manaba の ID、パスワードを受け取り、ログインし、与えられたレポートを提出するなど一通りの課題を行った。また、同じ ID で各種の e-Learning システムにログインし、どのようなものか試してみた。

以上のように 2013 年度のガイダンスは、外国語を学ぶ意味を考えさせ、またそのために活用しうる手段を認識させることを目的として行われた。今年度は4月に実施したが、4月は学生にとっては入学直後であり、同様のガイダンスが連続して行われる時期でもある。ガイダンスが「考えさせる」ことを第一の目的とする場合、学生生活が軌道に乗り始めた5月、6月以降に実施してもよいかもしれない。



### 3 iCoToBa の授業

iCoToBa では、外国語学部の特攻外国語である英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語の語学授業を開講している。レベル別(CEFR A1~C1)・目的別(4技能、留学準備、グローバル人材プログラム対象科目)に設定し、正課の授業で身につけた言語知識をもとに、実際的な運用能力を身につけることと、学習言語が話されている地域の文化や社会について、学習言語を使って調べ、発信することを目指した教室活動となっている。

以下では、下記の項目にしたがって iCoToBa で実施された授業について報告する。開講クラス一覧については、「11 資料」(pp.109-129)を参照いただきたい。

<凡例>

授業名／Title of the class

- ① 担当者／Teacher's name、時間／Period、受講人数／Number of students
- ② 授業の目的／Aim of the class
- ③ 授業内容／Course content
- ④ 今期の総括と課題／General overview and agenda

#### 3.1. 2013 年度前期開講授業

##### 【英語】

##### Academic Listening & Note-taking

- ① Fern Edebohls, Monday 3<sup>rd</sup> period, 23students
- ② To learn techniques to prepare for more successful listening.  
To be able to identify important information within a speech.  
To begin developing an effective personal note-taking style.
- ③ Each week students studied a different audio-text. Students practiced pre-listening techniques to improve their chances of understanding, and looked at discourse markers to help them identify important information. Students were also taught useful note-taking tips and began to develop their own note-taking style.
- ④ The disparity in ability levels in this class (1<sup>st</sup> to 4<sup>th</sup> grade) made it difficult to find listening materials appropriate to all students. Low-level students struggled to deal with academic language at all, while older students were sometimes frustrated attempting to discuss their ideas with lower level students. Tasks which allowed students to locate their own listening materials were successful in addressing this issue, but made it difficult to teach cohesive classes. Finding authentic yet level-appropriate listening materials is the greatest challenge in developing this course.



## Academic Listening & Note-taking

- ① Fern Edebohls, Thursday 4<sup>th</sup> period, 8students
- ② To learn techniques to prepare for more successful listening.  
To be able to identify important information within a speech.  
To begin developing an effective personal note-taking style.
- ③ Each week students studied a different audio-text. Students practiced pre-listening techniques to improve their chances of understanding, and looked at discourse markers to help them identify important information. Students were also taught useful note-taking tips and began to develop their own note-taking style.
- ④ The small class size facilitated a closer group of students, and students displayed greater confidence in speaking out and sharing ideas than in the larger class. There was however a large discrepancy in learner abilities, with some students unable to comprehend even the simplest academic listening texts. A peer-teaching environment was encouraged and proved effective in ensuring that all learners were able to gain from the class, but the presence of lower level learners did limit the use of genuinely authentic listening texts. Some degree of gate-keeping may be necessary for this course.

## Debate

- ① Fern Edebohls, Tuesday 6<sup>th</sup> period, 5students
- ② To learn persuasive speaking techniques.  
To become familiar with Asian-style parliamentary debate.  
To be able to formulate and express opinions clearly.
- ③ Each class introduced a new debating technique. Students practiced persuasive speaking and critical thinking as they analysed a range of issues to identify possible merits and demerits. Students spent time each class discussing and debating current controversial issues, leading up to a final full-length modified Asian Parliamentary debate.
- ④ Ideally 6 students were needed to run this course. It ran with five, with the teacher substituting where pairs were needed. Students enrolled in this course were all diligent in preparing, and were of equal enough abilities to be able to achieve true debates with a focus on meaning rather than language. Students improved greatly in their ability to consider an issue from both sides and discuss it objectively. The high utility value of the course motivated students, who became a tight-knit group and all expressed a desire to take part in a “Debate 2” type class in the future.

## Email, Letter & Blog Writing

- ① Fern Edebohls, Wednesday 1<sup>st</sup> period, 4students
- ② To become familiar with common acceptable correspondence styles.  
To acquire set phrases and vocabulary used in correspondence.
- ③ Each session introduced a new correspondence genre. Students examined example texts and identified good and bad writing techniques. They learned useful set phrases, formats, and appropriate register. Students completed weekly writing assignments to practice each style, and developed their own individual blogs in the final weeks of the course.
- ④ This class was held in a computer lab, and apart from occasional technical issues, students seemed to enjoy the chance to practice real digital correspondence. Activities that allowed students to email among themselves were a useful way to maximize output and exposure to other writing styles, without overdependence on the teacher. The chief difficulty to overcome in designing lessons was the diverse expectations and needs of the students. To meet this need, the course aimed to cover a wide range of digital writing styles and situations.

## Email, Letter & Blog Writing

- ① Fern Edebohls, Friday 5<sup>th</sup> period, 10students
- ② To become familiar with common acceptable correspondence styles.  
To acquire set phrases and vocabulary used in correspondence.
- ③ Each session introduced a new correspondence genre. Students examined example texts and identified good and bad writing techniques. They learned useful set phrases, formats, and appropriate register. Students completed weekly writing assignments to practice each style, and developed their own individual blogs in the final weeks of the course.
- ④ This class was held in a computer lab, and students seemed to enjoy the chance to practice real digital correspondence. Activities that allowed students to email amongst themselves were a useful way to maximize output and exposure to other writing styles. The chief difficulty to overcome in designing lessons was the speed at which students were able to work. Fourth grade students tended to complete tasks in far less time than first graders. This was balanced by setting extra tasks, or by devoting the last portion of each class to writing and allowing students to leave as they completed the task. This worked fine, but did leave a somewhat unfinished feel to each class, and would benefit from re-thinking in a future class.

## J-Ambassador

- ① Fern Edebohls, Wednesday 3<sup>rd</sup> period, 17students
- ② To reflect upon Japanese truths and stereotypes, and attempt to identify possible foreign perspectives.  
To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and things.  
To be able to communicate information about Japan clearly.
- ③ Each class addressed a different element of the Japanese lifestyle that students are likely to be questioned about overseas. Students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. The course culminated in a group blog project to develop an online J-Dictionary.
- ④ Participants in this course were almost all of similar English-speaking ability, making for smooth interesting discussions. Throughout the course students showed great improvement in their ability to critically examine their own culture, and respond to suggestion or questions about it. Unfortunately this was not well-reflected in the final project, where students showed a tendency to resort to lighter topics and stereotypical ideas about Japan. This final task needs to be re-evaluated in designing newer versions of the course.

## J-Ambassador

- ① Fern Edebohls, Wednesday 4<sup>th</sup> period, 14students
- ② To reflect upon Japanese truths and stereotypes, and attempt to identify possible foreign perspectives.  
To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and things.  
To be able to communicate information about Japan clearly.
- ③ Each class addressed a different element of the Japanese lifestyle that students are likely to be questioned about overseas. Students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. The course culminated in a group blog project to develop an online J-Dictionary.
- ④ The tendency of students in this class to want to work in friend groups made it challenging to establish a good overall group dynamic. This was partly due to ability and grade differences between students. Nevertheless, students did show improvement in their critical thinking and problem solving skills. As was evident in the other J-Ambassador class run this semester, the final project task needs to be reconsidered.

## One Minute Speech

- ① Fern Edebohls, Tuesday 5<sup>th</sup> period, 8students
- ② To gain confidence speaking in front of an audience.  
To be able to deliver clear, interesting, effective speeches.
- ③ Each class began by focusing on a speech writing/presentation skill (structure, body language, eye contact, etc.). Students practiced short tasks related to the skill. Students were then assigned a simple topic and given ten minutes to prepare a brief speech. Each student presented a speech while other students listened actively and provided feedback after the speech. The course culminated in students' composing and delivering a longer original speech.
- ④ The nature of this course allowed students to speak at their own level, meaning that the range of abilities in this class was not a problem. The number of participants allowed plenty of time in each class for speech presentations. Students showed great improvement over the course of the semester and were all successful in writing, practicing and delivering a 2 minute speech upon completion of the course. The greatest challenge to overcome in order to achieve a successful course in this area lies in creating a comfortable class atmosphere, to ensure that all students feel comfortable speaking out.

## One Minute Speech

- ① Fern Edebohls, Thursday 5<sup>th</sup> period, 8students
- ② To gain confidence speaking in front of an audience.  
To be able to deliver clear, interesting, effective speeches.
- ③ Each class began by focusing on a speech writing/presentation skill (structure, body language, eye contact, etc.). Students practiced short tasks related to the skill. Students were then assigned a simple topic and given ten minutes to prepare a brief speech. Each student presented a speech while other students listened actively and provided feedback after the speech. The course culminated in students' composing and delivering a longer original speech.
- ④ Attendance was irregular in this group, which in such a small group made it difficult to move forward. Students who attended regularly were sometimes frustrated at having to review, but the class was unable to continue when only half the members had completed previous tasks. The students who attended every class saw real improvement in their abilities to speak in front of a group. Other students saw less improvement. Finding a way to encourage real commitment to the class is important for all iCoToBa classes.

## Report Writing

- ① Fern Edebohls, Monday 1<sup>st</sup> period, 2students
- ② To gain an understanding of appropriate composition structure.  
To acquire set phrases and vocabulary used in correspondence.  
To be able to compose simple communications in English.
- ③ Students study appropriate structure, flow and language to use in simple academic writing and practice composing and editing their own essays.
- ④ The small number of students made discussion tasks difficult, but allowed a great deal of tailoring of the course to meet the needs of the individuals. Unfortunately there was a significant ability gap between the two students, however both students were diligent in terms of attendance and homework completion, and were able to improve their academic writing over the course of the semester.

## Survival English

- ① Fern Edebohls, Tuesday 4<sup>th</sup> period, 22students
- ② To develop effective strategies for dealing with new situations.  
To acquire useful situation-specific English expressions.  
To enhance natural communication skills.
- ③ Each lesson looked at a different social situation that students might encounter abroad. Students were presented with possible strategies and useful expressions to help them navigate such situations, and practiced speaking in pairs and small groups.
- ④ Student attendance in this class was very unpredictable, making it difficult to appropriately plan lessons. The huge range in ability levels (from first grade to fourth grade) also made lesson planning a challenge. Classes in which students spent most of the time talking were the most successful classes. Some students commented that they would have liked more time talking with the teacher. Unfortunately the number of students in the class did not allow that to happen. In developing the new syllabus, consideration needs to be given to ways to encourage students of different abilities to feel comfortable speaking out. Also requiring attention is student commitment in terms of attendance and homework completion.

## Survival English

- ① Fern Edebohls, Friday 3<sup>rd</sup> period, 32 students
- ② To develop effective strategies for dealing with new situations.  
To acquire useful situation-specific English expressions.  
To enhance natural communication skills.
- ③ Each lesson looked at a different social situation that students might encounter abroad. Students were presented with possible strategies and useful expressions to help them navigate such situations, and practiced speaking in pairs and small groups.
- ④ Student numbers dropped off drastically in this class after the first few weeks. This raised questions as to the appropriateness of material. The large class size and range of abilities across all grades and departments perhaps made it inevitable that material would not be suited to all students, however students seemed to prefer to choose class by time rather than topic or level. Students who persisted to the end seemed to enjoy the role-playing tasks, but also displayed some lowering of morale as their number grew steadily smaller. Starting with a smaller number of students who are genuinely interested in the material would be more beneficial for group morale and relationship-building important in achieving a comfortable speaking environment.

## CV Writing

- ① Brett Hack, Thursday 3<sup>rd</sup> period, 9 students
- ② To write one's own CV and cover letter in English and to understand how to apply for a job in English.
- ③ Students learn the basic structure and language of job-related documents in English. There are modules on CVs and cover letters. We also go over the basic flow of applying for a job in English, including some points about etiquettes. There is also an opportunity for students to discuss their own CVs with the teacher.
- ④ The course had a total of 5 general modules: 1) talking about your skills, 2) chronological CVs, 3) skill-based CVs, 4) cover letters, and 5) interview tips. Each module had accompanied pre-reading (homework) and in-class worksheets that lead into a free writing workshop. Unfortunately, four first-year students stopped coming after the first few weeks because of the difficulty of the material. However, the remaining students were highly motivated and took the class seriously. All of them were able to complete the two styles of CV and a cover letter for the type of employment that most fit their career goals at that time.

## English Improv.

- ① Brett Hack, Wednesday 4<sup>th</sup> period, 7students
- ② To be able to express oneself openly and with confidence, to gain natural speaking and response patterns in English, and to be able to respond to new information or situations quickly.
- ③ This is a mini-drama club in English. Students learn how to "show" character through facial expression and natural responses, then act out scenes provided by the teacher. Students also do improvisation and role-play activities.
- ④ As this class was on a Wednesday afternoon, it suffered competition from club activities, standardized tests, and other activities that often get scheduled during this time. Because of this, attendance was irregular for all students. To respond to this, I focused exclusively on improvisational comedy exercises in English. These have the advantage of being non-cumulative. They are also easy to learn and are fun for all skill levels of English. Students who came enjoyed the activities in their own idiom, and became skilled at communicating not only verbally, but also through using gestures and facial expressions. For each class, I chose a set of improv exercises. I would either model them to the students myself or show demonstrations from Youtube, and then we would practice as a group. In the final lesson, I showed a TED talk given by a famous improviser in which he discusses how "improv" skills can also improve quality of life.

## The English-Speaking World 1 (A1-B1)

- ① Brett Hack, Tuesday 4<sup>th</sup> period, 18students
- ② To learn more about the English-speaking world and to increase interest in travel and global involvement..
- ③ Each week focuses on a different country or region. Students enjoy an interactive presentation complete with audiovisual sources and interspersed with discussion questions. In the final week, students are given an interactive review quiz.
- ④ I structured the lectures in the manner of Japanese edutainment shows such as *Manaberu News*. To increase participation I included a competitive point system, where students got points by answering "quick questions" and "thinking questions." Students were able to convert these points into prizes. As this was the beginner version of the class, I kept the questions and discussions fairly basic, focusing more on the students imagining themselves visiting or living in the featured location rather than on the social issues present there. The class was composed mostly of younger students with little confidence in their English ability and little desire to stand out in a crowd. As such, points were dominated by the few active speakers in the class. However, as we conducted discussions in pairs or groups of three, the shyer students were able to express their reactions to the sources there freely.

## The English-Speaking World b (B2-C1)

- ① Brett Hack, Monday 6<sup>th</sup> period, 12students
- ② To learn more about the English-speaking world and to increase interest in travel and global involvement.
- ③ Each week focuses on a different country or region. Students enjoy a presentation interspersed with discussion questions and activities, while getting ideas for a country/region they wish to investigate. In the final week, students are given an interactive review quiz.
- ④ This was a preliminary course for what would become the global requirement class “Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World” in the second semester. I featured 12 separate regions in the manner described above. As this was the advanced version of the class, I increased the complexity of language and topics during the lecture. Also, discussion topics included social issues present in that featured location. I also allotted more time to pair discussion here than in the “a” class, which the students enjoyed. Student attendance was consistent, and students seemed interested in the class. There was a large level gap in this class, with most students being level-appropriate but with a significant minority of first-year students. I solved this problem by strategically pairing talking partners, at first on the basis of level so that the first-year students could build confidence amongst each other, while the advanced students could speak freely. This tactic proved successful.

## Group Discussion (B2)

- ① Brett Hack, Friday 4<sup>th</sup> period, 20students
- ② To be able to quickly form and express one's opinion about a topic, to be able to agree, disagree, and ask questions, to be able to lead/moderate a discussion in English.
- ③ Each week highlights an accessible topic: food choice, the environment, fame, etc. Each unit includes light vocabulary and extensive training in a new discussion skill, followed by free discussion. Discussion skills taught included: giving opinions, agreeing/disagreeing, support an opinion, interrupting, changing the subject, asking for clarification, asking hypothetical questions, and moderating a discussion. One unit teaches the skills and phrases needed to moderate a discussion. In the final lesson, students bring a discussion topic of their choice and moderate group discussion.
- ④ This was a very vibrant and successful class. Even with the significant homework content relative to its status as a non-credited class, the twenty students maintained quite respectable attendance rates, though it did fall short in the weeks approaching final exams. The class had a very mixed competency rate, ranging from A2 freshmen all the way to C1 seniors. However, by rotating groups each week and integrating a short “ice-breaker” activity into the beginning of every class, I was able to help students overcome the awkwardness of these differences. For example, I was pleased to see some advanced students using discussion skills such as asking for clarification in order to help beginner students express their opinions.



## Group Discussion (C1)

- ① Brett Hack, Wednesday 5<sup>th</sup> period, 10 students
- ② To be able to quickly form and express one's opinion about a topic, to be able to agree, disagree, and ask questions, to be able to lead/moderate a discussion in English.
- ③ Each week highlights an accessible topic, with the same basic plan as above.
- ④ Before each class, students completed a pre-reading and homework worksheet, which they used in class to complete the discussion skill activities and have productive discussions. For topics, I attempted integration with the “native world of English” by using Youtube videos, blogs, and other forms of online content as discussion prompts. In the final two weeks, we reviewed our discussion skills and conducted student-led discussions. Though the number of students here was lower than the B2 version of this class, this should be considered in light of the fact it was scheduled late on Wednesday afternoon. In spite of competition from club activities, standardized tests, and other activities that often get scheduled during Wednesday afternoon, the students maintained decent attendance. Furthermore, the dedicated students were all very communicative speakers of English with strong desires towards global citizenship. Once I had set up the discussion activities, students were able to continue speaking on their own, with only minimal help from me.

## Project Work

- ① Brett Hack, Wednesday 3<sup>rd</sup> period, 1 student
- ② To be able to work effectively in a group, to learn how to manage large tasks and set schedules, and to gain experience giving a presentation in English.
- ③ Students learn the skills and tactics needed to manage a group project, including brainstorming, setting a schedule, working with others, and dealing with problems. Later units show how to put together a presentation and do a question and answer session. Students also form groups and create their own project.
- ④ Before each class, students completed a pre-reading and homework worksheet, which they used in class to complete the project activities and have mock-project meetings such as brainstorming sessions, progress reports, and troubleshooting. Modules were categorized into two general skills: “project skills” and “presentation skills.” Although the official registration only noted one student, there were actually a total of four students who joined. These students participated less from a desire to learn how to manage a project than from the fact they had open spots in their schedules and wanted to practice their spoken English. Because of this, we shifted focus away from the ambitious goal of creating a project and towards in-class discussion on work-related issues, including international business styles and cultural attitudes toward work, responsibility, and confidence.

## Pronunciation Profiles a

- ① Brett Hack, Thursday 1<sup>st</sup> period, 24students
- ② To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds, to apply learned pronunciation to natural listening and speaking, and to understand how personality and emotional state affect pronunciation and intonation.
- ③ This is a 45-minute class. Each unit focuses on a famous figure in the English world. Students listen to a talk by that person and isolate a pronunciation point that is difficult for Japanese speakers. After practicing the pronunciation point through drills and games, students return to the featured person's talk and reproduce the day's point in a larger text. Class also includes a short discussion of that person's activities. The final lesson features an in-class review of major pronunciation points.
- ④ Following the course structure described above, I chose twelve famous figures from the English-speaking world who have given either talks or interviews that are available on Youtube. Selected videos were around two minutes in length. These are mostly speakers of North American English, although there are two British English speakers. I had originally set a cap of twelve students, but the high numbers of applicants led me to increase the cap to 24 students. Even with the new cap, I had to drop a few students from class A, as there were not enough seats in the classroom. Student participation was for the most part good, depending very much on individual motivation.

## Pronunciation Profiles b

- ① Brett Hack, Wednesday 2<sup>nd</sup> period, 22students
- ② To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds, to apply learned pronunciation to natural listening and speaking, and to understand how personality and emotional state affect pronunciation and intonation.
- ③ Class description is the same as that of Pronunciation Profiles a.
- ④ General overview is the same as that of Pronunciation Profiles a. I had originally set a cap of twelve students, but the high numbers of applicants led me to increase the cap to 24 students. Even with the new cap, I had to drop a few students from class B, as there were not enough seats in the classroom. Student participation was for the most part good, depending very much on individual motivation.

## Pronunciation Profiles c

- ① Brett Hack, Friday 3<sup>rd</sup> period, 19 students
- ② To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds, to apply learned pronunciation to natural listening and speaking, and to understand how personality and emotional state affect pronunciation and intonation.
- ③ Class description is the same as that of Pronunciation Profiles a.
- ④ General overview is the same as that of Pronunciation Profiles a. Selected talks were mostly speakers of North American English, although there are two British English speakers. When teaching this class, I opted not to focus on phonetic symbols or linguistic terminology. Instead, I concentrated on getting students to understand the physical structure of the mouth and how it moves. In addition, we isolated the personality and/or emotional state of the speaker, then looked at how these circumstances influenced the way they spoke. Student turnout for all four sessions of this class during the first semester was very good. Student participation was for the most part also good, depending very much on individual motivation. The lack of a final speaking test which could ground participation was something I tried to counter in the second-semester version of this course.

## Pronunciation Profiles d

- ① Brett Hack, Friday 5<sup>th</sup> period, 16 students
- ② To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds, to apply learned pronunciation to natural listening and speaking, and to understand how personality and emotional state affect pronunciation and intonation.
- ③ Class description is the same as that of Pronunciation Profiles a.
- ④ General overview is the same as that of Pronunciation Profiles a. Selected videos were around two minutes in length. These are mostly speakers of North American English, although there are two British English speakers. Where possible, I tried to include topics related to issues in the English-speaking world such as stress, racism, and religion. When teaching this class, I opted not to focus on phonetic symbols or linguistic terminology. Instead, I concentrated on getting students to understand the physical structure of the mouth and how it moves. In addition, we isolated the personality and/or emotional state of the speaker, then looked at how these circumstances influenced the way they spoke. The lack of a final speaking test which could ground participation was something I tried to counter in the second-semester version of this course.

## Today's Top News 1 (B1-B2)

- ① Brett Hack, Thursday 4<sup>th</sup> period, 16students
- ② To improve comprehension of news in English, to form and express opinions about current events, and to be able to summarize events and opinions in the news.
- ③ Each week presents a current story in the news using written and audiovisual samples. Each lesson includes vocabulary study, listening and reading comprehension exercises, and discussion.
- ④ I structured each class around a current topic or issue, for example destruction of antiquities or the Edward Snowden story. I selected both the written article and the AV sample to show different examples or aspects of this story. Students pre-read the article for homework, chose five vocabulary of their choice to write examples sentences, and wrote down their personal response to their article. In-class work commenced with vocabulary and comprehension exercises. After that, students would discuss first their own responses followed by topics provided by the teacher. The students in this class were of varying skill levels. In addition, many of them admittedly did not watch the news. Because of this, they needed a lot of background information to understand the details of the stories we covered. I added a short lecture section to the class, which highlighted the day's issue in an explicit way that utilized photographic images from news sites. This subtracted a certain portion of student talking time. However, I believe it was a necessary addition that enabled students of all levels to feel comfortable engaging with difficult material in the class.

## Today's Top News 2 (C1)

- ① Brett Hack, Monday 5th period, 6students
- ② To improve comprehension of news in English, to form and express opinions about current events, and to be able to summarize events and opinions in the news.
- ③ Each week presents a current story in the news using written and audiovisual samples. Each lesson includes vocabulary study, listening and reading comprehension exercises, and discussion.
- ④ I structured each class around a current topic or issue, for example destruction of antiquities or the Edward Snowden story. I selected both the written article and the AV sample to show different examples or aspects of this story, for example the bulldozing of a Mayan Pyramid by a company vs. the bombing of world heritage sites during the Syrian civil war. At first, in-class work followed the same pattern as that of Today's Top News 1. The students in this class were level-appropriate, and the small class size enabled them to feel comfortable talking with each other. Because of this, I slowly shortened and eventually did away with the preliminary vocabulary exercises in order to privilege active discussion of news issues. The students responded positively to this change.

## 【検定対策】

### TOEIC Intensive1、2

- ① 寺澤 君江、月曜6限:13人、火曜6限:6人
- ② TOEIC 受験対策
- ③ 以下の3点に重点を置き、授業を進めた。1つめは、TOEIC の試験問題におけるボキャブラリーを強化するため、テーマごとに重要単語を確認する時間を設定し、反復練習により語彙力を定着させた。2つめは、学生が苦手とする、リスニングパートに重点を置き、過去問題を用いてシャドウイングやQ&Aによりリスニング力の強化に努めた。3つめは、時間配分がポイントとなるリーディングパートにおいて、出題方法や問題の傾向を分析することにより、効率よく解答するテクニックが身につくようにアドバイスを与えた。授業の最後には毎回、学習の成果を確かめるため、ミニ模擬試験の時間を設定した。
- ④ 問題の傾向を理解するという点において成果があげられた。リーディングに関しては、時間配分がカギとなるため、練習問題をこなすことにより慣れることが大切である。授業外での継続的な努力が必要である。

### Strategic TOEFL 1、2

- ① 寺澤 君江、水曜4限:5人、木曜6限:5人
- ② アメリカ留学を目指す学生の TOEFL 受験対策
- ③ 英語圏への留学を目指す学生が、試験に対応できる英語力の基礎として、語彙力を強化できるように重点を置いた。4つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)における、それぞれの出題傾向および問題分析を授業で位置づけ、攻略方法を身につけるようにアドバイスした。授業の最後には毎回、過去問題を用いてミニ模擬試験を実施した。学生の苦手とするライティングに関しては、iCoToBaのアドバイジングアワーを利用して授業外においても学習できるよう機会を設定した。
- ④ 問題の傾向に慣れるという点において成果があげられた。目標得点獲得には授業外での継続的な努力が必要である。

## Successful IELTS

- ① 寺澤 君江、金曜4限、4人
- ② イギリスおよびニュージーランド留学を目指す学生の IELTS 受験対策
- ③ 試験に対応できる英語力の基礎として、語彙力の強化に重点を置いた。4つのパート(リスニングセクション・リーディングセクション・スピーキングセクション・ライティングセクション)における、それぞれの出題傾向および問題分析を授業で位置づけ、攻略方法を身につけるようにアドバイスした。授業の最後には毎回、過去問題を用いて、ミニ模擬試験を実施した。学生は IELTS のリスニングパートとスピーキングパートに関して、特に苦手意識が高いため、授業では重点的に扱うことにしていた。また、ライティングに関しては、iCoToBa のアドバイジングアワーを利用して、個人指導の機会を提供した。
- ④ 問題の傾向に慣れ、学生は目標スコアに到達することができた。留学を見通し、講座終了後も継続的に努力することが望ましい。

## 【フランス語】

### ちょっとチャット フランス語 [A1]

- ① ダレン・モルガン、月曜 14:30～15:15 : 8 人、火曜 14:30～15:15 : 13 人、木曜 8:50～9:35 : 26 人
- ② フランス語の音に慣れ、正しい発音を学ぶ。基本的な単語と文法を使ってくりかえし練習し、暗記ではなく、覚えた単語、文法を使って会話が出来るようにする。フランス語に慣れるために、会話、言葉遊び、クイズなどを行った。
- ③ フランス語を楽しむことを大前提として、前回の授業でやったことを皆で思い出して復習したり、フランス語が使われている国、国によって発音が違うこと、フランスの祭日や習慣など、フランスについての一般教養を学んだりした。
- ④ フランス語は学びにくいという印象を取り払うために、まずは、日本人にとって難しい発音があっても、皆の前で発言したり、簡単な会話を通して、フランス語を身近に感じてもらえるよう、明るく楽しい雰囲気を作り、まずは学生との距離を縮めるよう努めた。来年度も、同じように継続したいと思う。ただし、学生 26 名が参加した授業は、全員に発言の機会を与えるように努めたが、少し人数が多いと感じた。来年度は、人数が多い場合に適したゲームや、動詞等の活用を学ぶための教材を作りたいと思う。フランスにも地方によって発音が違ったり、方言があったりする事、また移民も多いので、多少の発音の間違いを恐れずに、積極的に発言する事が大切であることを伝えた。

## フランス語圏なう。[A1/A2]

- ① ダレン・モルガン、月曜 15:15～16:00：5人、金曜 15:15～16:00：7人
- ② フランス語圏のビデオを見たり、音声を聞いたりして、発音の違いを知る。その地域の習慣や文化を知る。
- ③ フランス語圏のフランス語を色々聞くことにより、世界中でどの国がフランス語を使用するのか、また、国による発音や雰囲気の違いなどの知識を深めた。フランス語圏についてのクイズを自作し、学生は文化や習慣をクイズに答える事で知るとともに、正しい発音で答えられるまでくりかえし練習した。初心者クラスだったので、会話は少し難しく、主にクイズやゲームをして、フランス語圏についての知識を増やした。
- ④ フランス語は学びにくいという印象を取り払うために、まずは、日本人にとって難しい発音があっても、皆の前で発言したり、簡単な会話を通して、フランス語を身近に感じてもらえるよう、明るく楽しい雰囲気を作り、学生との距離を縮めるよう努めた。授業の雰囲気はよく、学生達は楽しんでフランス語圏について知識を得ているようだった。来年度は、初心者レベルに合った適当な内容、長さの音声やビデオ教材を用意する。1、2年生は、とにかくフランス語を声に出してみることという事を最優先にし、授業を進めたい。

## ちょっとチャット フランス語 [B1]

- ① ダレン・モルガン、火曜 12:50～13:35：5人、金曜 9:35～10:20：4人
- ② 日常的な出来事について参加者全員で議論する事により、フランス語の知識と話す楽しさを身に付ける。仏検等の試験対策も兼ねる。
- ③ フランス語の記事を渡し、分からない単語や文法などを説明しながら、皆で理解を深めた。記事に基づいた説明、会話をすることによって、読む力、話す力、聞く力、説明する力が総合的に上達した。また、フランス語のことわざ、熟語、フランスの祝日についても学んだ。
- ④ 少人数の授業だったため、発言の機会も多く、学生のモチベーションも高く、楽しんでフランス語を話しているように感じた。授業が進むにつれて、学生のフランス語が上達してくのが、伝わってきた。雰囲気もよく、学生が積極的に学ぶ態度が感じられた。フランス語圏についての、さまざまなトピックスの記事を紹介できた。フランスにも地方によって発音が違ったり、方言があったりすること、また移民も多いので、多少の発音の間違いを恐れずに、積極的に発言する事が大切であることを伝えた。言語の授業では、この授業のように積極的な学生かどうか、とても重要である。

## フランス語圏なう。[B1]

- ① ダレン・モルガン、火曜 13:35～14:20：5 人、金曜 9:35～10:20：4 人
- ② フランス語圏について、時事問題、習慣や歴史等の記事を通して、文化、習慣についてより詳しくなってもらふ。思ったこと、感じたことをフランス語で発言することにより、会話力を身につける。
- ③ フランス語圏のニュース、インタビュー記事を読み、その話題について、自分の意見をフランス語で相手に伝える練習をした。学生がわからない単語や文法について解説しながら、記事について、一問一答式のような質問ばかりでなく、学生が自分の頭できちんと考えて、要約したり、答えたりするような形式をとった。学生一人ひとりが、自分の持っているフランス語能力を最大限使って論理的に説明し、相手を納得させる練習をした。
- ④ 出席した学生のモチベーションも高く、少人数の授業だったため、発言の機会も多く、楽しんでフランス語を話しているように感じた。授業が進むにつれて学生のフランス語が上達していくのが伝わってきた。雰囲気もよく、学生の積極的な学ぶ態度があった。フランス語圏についてもさまざまなトピックスの記事を紹介できた。フランスにも地方によって発音が違ったり、方言があったりすること、また移民も多いので、多少の発音の間違いを恐れずに積極的に発言する事が大切であることも伝えた。

## 聞きトレ フランス語 [A1]

- ① ダレン・モルガン、火曜 15:15～16:00、13 人
- ② いろいろな内容のフランス語の会話を聞いて理解する。基本的な単語と文法の知識を増やす。正しい発音を身に付ける。
- ③ フランス語学科の授業で習った単語を実際に使って会話をし、簡単なゲームを通して単語を覚えた。正しい発音のフランス語を聞いて、それを書き取ったり、学生が発音した文章を皆で書き取ったりして、正しい発音に慣れると共に、単語を記憶し、基本的な文法を学んだ。
- ④ フランス語は学びにくいという印象を取り払うために、まずは、日本人にとって難しい発音があっても、皆の前で発言したり、簡単な会話を通して、フランス語を身近に感じてもらえるよう、明るく楽しい雰囲気を作り、学生との距離を縮めるよう努めた。しかし、この授業に参加した学生は積極性に欠けており、質問しても無反応だったり、声を発するまでに時間がかかったりしたのは、言語の授業をしていて非常に残念な点であった。恥ずかしがる学生が非常に多いが、フランス語が上達すれば自信を持てるようになると思うので、少しずつ知識を増やしていってほしい。



## 聞きトレ フランス語 [B1]

- ① ダレン・モルガン、水曜 12:50～13:35、12 人
- ② 話す力を上達させるのが主な目的だが、学生の仏検対策（準2級）用の会話、文法、熟語、動詞の活用などを身に付ける。
- ③ 会話をメインに練習したが、仏検対策として、穴埋めや熟語、発音など、知らなければ正解できないことについても練習した。また、仏検対策の問題集を参考にして、練習問題やゲームを創造し、楽しみながらフランス語を学んだ。
- ④ 聞く力を向上するために、iCoToBa の Activity Space でフランスの地方、あいさつの仕方、習慣についてのビデオを見て、グループになって問題を解いたり、会話練習をしたことで、フランスについても、一般的な知識も得られたと思う。アフリカやカナダのケベック地方で使われているフランス語の適当なビデオを探し、フランス語の違う発音も紹介したい。

## 書きトレ フランス語 [B1]

- ① ダレン・モルガン、水曜 13:35～14:20、11 人
- ② フランス語を書く力を向上するために、フランス語を聞いて正しく書き取ったり、文章を正しい文法、正しい活用で書いたり出来るようにする。
- ③ 現代では使わなくなった言葉や、文法は正しいが、違う表現を使えばもっと言いたいことが伝わるなど、最適な文章を書くとともに、さまざまなニュアンスについても学んだ。学生が自分で作った文章を読み、他の学生が書き取ることで、発音の再確認や、動詞等の活用についても復習できた。学生にビデオゲームのストーリーを創造してもらい、そのゲームのルールやストーリーをフランス語で適切に伝えるということも学んだ。
- ④ iCoToBa の Activity Space を使用したが、聞き取り、書き取りのトレーニングには最適な教室であった。正しいフランス語を書くためには、単語を知らなければならぬし、語順も大切である。卒業論文を見据えて、フランス語で文章を書くことに慣れてもらいたい。アフリカやカナダのケベック地方で使われているフランス語の適当なビデオを探し、フランス語の違う発音も聞き取って、書き取れるようにしたい。

## 聞きトレ フランス語 [A2]

- ① ダレン・モルガン、水曜 14:30～15:15、11 人
- ② いろいろな内容のフランス語の会話を聞いて理解する。基本的な単語と文法の知識を増やす。正しい発音を身に付ける。
- ③ フランス語学科の授業で習った単語を実際に使って会話をし、簡単なゲームを通して単語を覚えた。2つのグループに分け、どちらがより長い文章を作れるか競ったり、正しい発音のフランス語を聞いてそれを書き取ったり、学生が発音した文章を皆で書き取ったりして、正しい発音に慣れると共に、単語を覚え、基本的な文法を学んだ。
- ④ 全体的に学生のモチベーションが低かったので、活気のある授業ではなかったと思う。できる限り学生に発言する機会を作ったが、恥ずかしがって上手に話すことが出来ない学生も多かったので書く練習も取り入れた。フランスに留学することを想定し、フランスの日常生活の会話の大切な言葉を学んだ。駅、空港やスーパーマーケットのアナウンスを聞いて、全てを理解できなくても、大切なポイントを聞き取る練習も取り入れたい。またフランスに留学すれば、マルシェで買い物することもあると思うので、その場合の店主との会話を想定して、数量、単位、金額など、大切な情報を間違いなく聞き取る練習もしていきたい。

## 書きトレ フランス語 [A2]

- ① ダレン・モルガン、水曜 15:15～16:00、11 人
- ② フランス語を書く力を向上させるために、フランス語を聞いて正しく書き取ったり、文章を正しい文法、正しい活用で書いたりできるようにする。
- ③ フランス語学科の授業で習った単語を実際に使って会話をし、簡単なゲームを通して単語を覚えた。2つのグループに分け、どちらがより長い文章を作れるか競ったり、正しい発音のフランス語を聞いて、それを書き取ったり、学生が発音した文章を、皆で書き取ったりして、正しい発音に慣れると共に、単語を記憶し、基本的な文法を学んだ。
- ④ 全体的に学生のモチベーションが低かったので、活気のある授業ではなかったと思う。出来る限り、学生に発言する機会を作ったが、恥ずかしがって上手に話すことが出来ない学生も多かったので書く練習も取り入れた。フランスに留学する事を想定し、フランスの生活で必要になる可能性があること、例えば、フランス人に誕生日カードを送る、パーティの招待カードを書くなどの練習をしたり、レストラン、スーパーマーケットや映画館などで目にするフランス語についても学んだ。

## 発音サロン フランス語 [A1]

- ① ダレン・モルガン、木曜 9:35～10:20、3 人
- ② 初心者向けの基本的なフランス語を学び、正しい発音が出来るようにし、フランス語の発音に抵抗がないようにする。
- ③ フランス語に慣れるために、会話、言葉遊び、クイズなどを行った。フランス語を楽しむことを大前提として、前回の授業でやったことを皆で思い出して復習したり、フランス語が使われている国、国によって発音が違うこと、フランスの祭日や習慣を知り、フランスについての一般教養を学んだ。
- ④ フランス語は学びにくいという印象を取り払うために、まずは、日本人にとって難しい発音があっても、皆の前で発言したり、簡単な会話を通して、フランス語を身近に感じてもらえるよう、明るく楽しい雰囲気を作り、学生との距離を縮めるよう努めた。来年度も、同じように継続したいと思う。登録した学生は3名だったが、前の時間の授業に出た学生がそのまま継続して授業を受けたので、平均 20 名程度の学生が出席した。全員に発言の機会を与えるように努めたが、少し人数が多いと感じた。来年度は、人数が多い場合に適したゲームや、動詞等の活用を学ぶための教材を作りたいと思う。フランスにも地方によって発音が違ったり、方言があったりすること、また移民も多いので、多少の発音の間違いを恐れずに、積極的に発言する事が大切であることを伝えた。

## ニッポンなう。[B1]

- ① ダレン・モルガン、木曜 14:30～16:00、9 人
- ② 日本の文化、観光スポットなど、自分の国のことについて、留学先で正しいフランス語で上手に説明できるように学ぶ。総合的にフランス語のレベルを向上させる。
- ③ 留学先で、日本について正しいフランス語で上手に説明できるよう、毎週2名が日本の習慣、宗教、考え方、音楽、社会、労働や文化など、各自でテーマを決めてプレゼンテーションをし、その後、皆で議論した。プレゼンテーションと議論のフランス語を、その都度正しいフランス語に直しながら授業を進めた。
- ④ 学生が積極的に発言をし、フランス語を楽しみながら話していた。留学先では、普段日本で生活しているとあまり考えることがない自分の国について質問される事も多々あると思うので、改めて自分の国を知る良い機会になったと思う。初め、フランス語のレベルは決して高くはなかったが、積極的にフランス語を使う学生達だったため、よく上達できたと思う。とてもいい雰囲気で授業を行うことが出来た。

## ちょっとチャット フランス語 [A1]

- ① ダレン・モルガン、金曜 14:30~15:15、7人
- ② フランス語の音に慣れ、正しい発音を学ぶ。基本的な単語と文法を使って繰り返し練習し、暗記ではなく、覚えた単語、文法を使って会話ができるようにする。
- ③ フランス語に慣れるために、会話、言葉遊び、クイズなどを行った。フランス語を楽しむことを大前提として、前回の授業でやったことを皆で思い出して復習したり、フランス語が使われている国、国によって発音が違うこと、フランスの祭日や習慣を知り、フランスについての一般教養を学んだ。
- ④ 学生のモチベーションが低く、積極的に発言をしない学生たちであった。話すレベルも高くなかったので、面白い授業にするために熟語を学んだり、ゲームをしたり、楽しい雰囲気にするよう心がけた。そして、二人組みになって会話をし、とにかく声を出して話す機会を増やした。フランスに留学すれば聞かれるであろう質問やその返答など、実用的なフランス語を練習した。学生の発言が少なければ、二人組みでの会話を積み重ね、フランス語を話すことへの抵抗をなくし、自信を持って話せるようになってもらいたい。

## 【ドイツ語】

### 日常生活に生かすドイツ語〈初級文法篇〉 / Deutsche Alltagssprache

- ① Morten Hunke, Friday 10:30-11:15 :15students, 11:20-12:05 :18students
- ② How to translate your classroom language skills to real live communication? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. There will be a strong focus on spoken language in German. Required: *Und du? Sprechsituationen im Unterricht - NEU!*
- ③ Every lesson started off with short games or other activities repeating vocabulary and structures covered in prior lessons. Where homework tasks had been set, the students themselves in pairs evaluated these. Homework tasks for this class exclusively consisted of haiku or tanka written in German. These writing tasks made use of the vocabulary/expressions lists in the textbook. Students subsequently also received instructor feedback on their finalised haiku/tanka. Then in every lesson new patterns and vocabulary were introduced and practised.
- ④ The agenda was to complete 1-2 (random) units of the textbook each session. Also, students were required to complete at least three haiku/tanka tasks. Understanding German syllable structures as opposed to the Japanese mora format proved sometimes to be difficult. However, the pattern/chunk approach of the book was largely a success helping students to utilise more of their acquired language knowledge actively.

## 日常生活に生かすドイツ語〈ヒアリング篇〉 / Hörverständnisübung

- ① Morten Hunke, Tuesday 8:50-9:35 :18students, 9:40-10:25 :11students)
- ② Using many examples of everyday speech students will practise their listening skills. There will be a focus on common expressions and colloquialisms taken out everyday contexts in Germany. Students will be asked to participate actively.
- ③ Every lesson started off with short games or other activities repeating vocabulary and structures covered in prior lessons. Students frequently performed pair listening/writing activities. Other listening activities were also provided by the instructor or from other sources.
- ④ The agenda was for students to perform 1+ listening tasks per session. Students were also required to make active use of their vocabulary and grammar knowledge from regular classes. Students also gave short presentations usually in group settings.

## 口頭表現につなげる読解、聴解 / Fokus - hören und lesen

- ① Morten Hunke, Thursday 4<sup>th</sup> period, 9students
- ② Simple listening and reading exercises will feature in this class. After checking understanding in a variety of manners even short writing exercises may be employed. The goal of the class is to produce a group presentation including self-designed questions for the audience.
- ③ Every lesson started off with short games or other activities repeating vocabulary and structures covered in prior lessons. Students frequently performed pair listening/writing activities. The main source of listening material was the Deutsche Welle podcast series *Radio D* (<http://www.dw.de/deutsch-lernen/radio-d-teil-1/s-9604>).
- ④ The setting of the class in a computer room proved to be not very conducive to pair or group activities. Students were very dedicated and managed nonetheless, though. The language ability levels of students differed considerably. This fact made tailoring materials to the class not easier.

## 表現の多様性を書きながら学ぶ / Praktische Schreibübungen

- ① Morten Hunke, Friday 4<sup>th</sup> period, 10students
- ② This class will be looking at a number of different writing formats (chat, mail, letter, report, essay, etc). An emphasis will be on writing adequately to a particular addressee: friend, professor, boss, etc. The content covered in the compulsory classes will be heavily relied upon. Regular homework tasks will be set.
- ③ Every lesson started off with short games or other activities involving homework writing tasks and brainstorming for new writing activities. Students engaged largely in writing formally. However, some creative tasks were featured.
- ④ The language ability levels of students differed considerably. This fact made tailoring materials to the class sometimes difficult. Students produced towards the end of the semester manga/cartoon versions of stories they had previously written in pairs. They also wrote a letter of motivation applying for a short term study course grant.

## ドイツ語圏(裏)事情 / Deutsche Landeskunde - Ein Blick hinter die Kulissen

- ① Morten Hunke, Wednesday 4<sup>th</sup> period, 3students
- ② Current and up to date topics will be researched and addressed in casual conversations and somewhat more formalised discussions. This will take place in the entire group with the teacher and in small groups. Conversation/discussion summaries will be practiced. Preparation essential. Group presentation will evaluate student progress.
- ③ The bulk of the work in this group was role play and similar activities. Student chosen topics were addressed mostly. Students with prior study abroad experience contributed greatly towards this class. The instructor also fed in certain topics. In doing so, usage was made of the magazine *Deutsch perfekt* and the accompanying materials – prescription courtesy of the DAAD (ドイツ学術交流会).
- ④ The language ability levels of students differed extremely. This fact made tailoring materials to the class sometimes difficult. One student in particular had not the level necessary to attend the class without difficulty. Measures were taken to ensure also this student's successful participation. All in all, the class attracted much fewer students than anticipated. This may be to do with the time slot chosen.

## 検定試験対策 / Vorbereitungskurs für das Zertifikat

- ① Morten Hunke, Monday 3<sup>rd</sup> period, 11students
- ② Preparation for German language tests on levels A1 through to B2. A particular focus will be on understanding and preparing for the differences in format. The course requires students to practise and study individually. This class aims at preparation for the Goethe Institut/Österreichisches Sprachdiplom exams rather than the Japanese format 独検.
- ③ Every lesson featured a focus on particular skills sets: listening, reading, writing, speaking. On top of that, general language test formats were investigated – often by students themselves in pairs or groups. Principles for tactics in approaching tests were formulated and practised on test materials.
- ④ The language ability levels of students differed considerably. Despite the low (A1) entrance level criteria, students in first year cannot attend this class in semester 1. Their language abilities are simply too basic. Also, since the university sponsors participation in 独検 only – a test format that is not recognized in Europe at all – some more thought should be given to how to design a test preparation class that best meets students' needs and expectations.

## 自分(の街)をもう少し知ってもらおう / Meine Heimat und ich: Anlässe zu interkultureller Kommunikation

- ① Morten Hunke, Wednesday 3<sup>rd</sup> period, 18students
- ② Virtual tours and presentations of home cities/regions will be practised. The presentations are supposed to be highly interactive and engaging and will be performed in groups. Presenting students will script about their own lives, their home regions, and things they're interest in. However, the scripts will be written in 3<sup>rd</sup> person singular for others to take their parts. The scripts will be annotated for pauses and phrasal stress. Self-directed vocabulary and/or background content research is expected. The instructor will, however, offer help with colloquial expressions and vocabulary.
- ③ The large chunk of this class was conducted in group work and in scripting and performing a number of presentations. On top of the language side of the presentations, students were encouraged to research popular interjections and gestures to support the things featured in the presentations. The instructor gave a lot of hands on support.
- ④ The language ability levels of students differed a little. However, this was no problem in the course of the class. Students of different year groups and abilities worked splendidly together. Three large topics were covered by student presentations: home cities/regions, food, Buddhist and Shintō religious symbols.

## 日独サブカル事情 / "Subkulturen" in Japan und Deutschland

- ① Morten Hunke, Tuesday 4<sup>th</sup> period, 4students
- ② Based on self-directed research we will debate and hear presentations on stereotypes about Japan, Germany and subcultures in both countries. The goal of the class is for students to conduct group presentations on a self-chosen topic.
- ③ Initially, two sessions were spent on together defining subculture a little bit closer and to develop an understanding of what it is not. Every lesson featured a focus on particular aspects of subculture in Germany. This featured aspects of youth culture, music, film, Internet phenomena, sports etc. Students were required to perform their own research and to read short articles about the subject in class. Short presentations in front of the group were a regular feature.
- ④ The students found this class to be very demanding. They were, however, all highly motivated and the class was rounded off by a successful poster presentation session where each student showcased two examples of subculture s/he had researched. The featured topics were as diverse as: Veganism, sprayer scene, skateboard culture, Gothic/New Wave, role play, football ultra movements, Skinheads, and Cosplay.

## 学生生活サバイバル / Überlebenstipps für das Leben in Deutschland

- ① Morten Hunke, Monday 5<sup>th</sup> period, 6students
- ② This class will feature a number of highly practical activities to make you more prepared for your student life in Germany. There will be input from current German students and Japanese Kendai returnee students. A better understanding of the cultural and historic background of German cities will be fostered. A keen focus will be upon potential conflict scenarios and how to navigate them. Self-directed presentations are expected.
- ③ In this class students were given multiple opportunities to get to know and research student life in the German speaking world. It featured many hands on sessions and presentations. Also, assisted by returnee students and German exchange students currently studying here. The overall focus was on practical activities that raise awareness about differences between Japanese and German academic life.
- ④ The students had different reasons for attending the class. They dedicated a lot of time and effort into activities in class. Board games were designed for other classes to come simulate the first steps upon arriving in Germany. Public transport and student accommodation was practically researched in game-like activities etc.



## 異文化間コミュニケーションと職業生活 / Interkulturelle Kommunikation –

### Arbeitsleben

- ① Morten Hunke, Friday 1<sup>st</sup> period, 2students
- ② This class will attempt to combine experiences of studying abroad or working in an internship in order to help foster a future career plan +α. Where appropriate and possible graduates of this university may be invited to give further hands-on guidance and advice. The main aim is to provide a forum for students to exchange ideas and experiences.
- ③ The content of this class was largely chosen by students themselves. A lot of interest was taken into simulating a broad range of potential job and job interview scenarios. Students found this incredibly challenging. Their passive command of German is often very good. However, once it comes to practical matters and especially highly stylised ones, things get a lot more complicated.
- ④ The low number of students attending this class was a real issue. Students do not sign up for one on one lessons. They want to be part of a group and they want to learn in such fashion. Perhaps the time of the day ought to be reconsidered

### 【中国語】

#### 発音特訓講座 A、B、C、D、E、F

- ① 曲 明、火曜 12:50～13:35、13:35～14:20、水曜 8:50～9:35、9:35～10:20、金曜 10:30～11:15、11:15～12:00、10 人
- ② 発音練習を通して受講者たちに中国語の発音に自信を持ってもらう。
- ③ この授業では集中して中国語の発音を練習する。耳で聞き、実際に口に出して練習することを基本にした実践的な授業である。子音、母音、音節、日本人の苦手な無気音・有気音、巻舌音、短文のリズムの練習などを通して受講者たちに正しい中国語の発音の仕方を理解し、実践することによって、自分の中国語の発音に自信を持ってもらう。
- ④ 受講者は全員1年生であった。人数を割り振って、1クラス 10 人程度の少人数制をとったことも良かった。学生の学習動機も大変高く、積極的に様々な授業活動に取り組んでくれた。

## 日常生活に役に立つ中国語 A1

- ① 曲 明、月曜3限、月曜5限、10 人(のべ数)
- ② 一日の始まり、学校での生活、外出先での行動、帰宅後の生活など、身の回りの行動を表す基本的な中国語の慣用語を学ぶ。
- ③ この授業は初級の中国語力を持つ学生を対象に、「外国語学習のめやす 2012」に基づき、一日の始まり、学校での生活、外出先での行動、帰宅後の生活など、身の回りの行動を表す基本的な中国語の慣用語を機能中心的に学べるように設定している。
- ④ 日常生活の様々な場面に焦点を当て、食堂での会話、部屋にあるものの名前、年中行事についての会話など、中国ではとても頻度高く使われている語彙、慣用語を学習したが、日本ではこれらを使う環境がないため、学習の定着があまり良くなかったかもしれない。

## 日常生活に役に立つ中国語 A2

- ① 曲 明、火曜2限、金曜4限、7人(のべ数)
- ② 旅行、買い物、飲食、助けを求める時に用いる慣用の中国語を機能中心的に学び、練習する。
- ③ この授業は中級の中国語力を持つ学生を対象に、「外国語学習のめやす 2012」に基づき、旅行、買い物、飲食、助けを求める時などに用いる慣用の中国語を機能中心的に学び、練習するように設定している。
- ④ 中国に旅行に行ってこれらの会話をすでに経験していた学生も多かったため、受講者たちの学習動機が高く、タスクができた時の自己達成感も高かったと思われる。

## 慣用語、ことわざを通して中国文化を学ぼう

- ① 曲 明、月曜 11:15～12:00、金曜 9:35～10:20、5人
- ② HSK テストによく出る慣用語、ことわざの意味、用法を深く理解し、自分でも使えるようになることを授業目的としている。
- ③ 中国語を真にマスターするためには中国語の慣用表現、ことわざの意味、または言葉の背景となっている中国社会の歴史、文化の理解は不可欠である。この授業は HSK テストによく出る慣用語、ことわざの意味、用法を深く理解し、自分でも使えるようになることを目的としている。
- ④ 受講生は4年生か、留学帰りの学生であった。基本的に全員中国語のレベルが高く、授業はすべて中国語で行われた。授業時間は 45 分だったため、時間が少し短すぎた。今後授業時間を調整する必要があると思われる。

## 検定対策補講クラス

- ① 曲 明、水曜3限、6人
- ② 中国語検定試験2級に向けた実力を養成する。
- ③ 中国語検定試験2級試験合格を目指す授業である。中国語検定試験によく出る問題を整理することによって、2級試験の語彙、文法、文型を把握し、不得意分野について繰り返し練習を行い、検定試験に向けた実力を養成していくことを考える。
- ④ 受講者は全員3年生であった。中国語検定試験2級の問題を中心に練習をしていた。2013年6月の中国語検定試験を受けた結果、全員2級に合格することができた。

## 中国語で日本を知る、紹介する

- ① 曲 明、木曜5限、7人
- ② 中国語を用いて自分自身、愛知県立大学、住んでいる町、愛知県、そして日本の歴史、文化を紹介することができるように練習する。
- ③ この授業では、日本の自然、地理、料理、食事、住居、衣服、年中行事、歴史、伝統文化など幅広いテーマをとりあげ、自分自身、愛知県立大学、住んでいる町、愛知県、そして日本の歴史、文化などを紹介する練習を行う。
- ④ 受講者7人はほとんど2年生であった。前期の授業であったため、学生の言語レベルを正しく判断できず、大学の紹介、日本文化の紹介などをするため、学生に多くの宿題を出したこともあり、4人ほどの学生は途中で授業に来なくなった。iCoToBa の授業の運命かもしれないが、開講まで誰が来るかわからないため、事前にいろいろ準備をしたとしても、開講後に思いついた調整が必要なときもあると思われる。

## 日中サブカル事情

- ① 曲 明、木曜3限、1人
- ② 自分たちが気になる中国のサブカルチャーを積極的に調査し、中国語で発表する。
- ③ この授業では中国の若い人の中で流行しているものに注目したい。学生に調べて来てほしいものもあり、自分が気になる中国のサブカルチャーを積極的に調査し、中国語で発表できるようにしてもらう。
- ④ 受講者は1人であった。この学生は9月から中国の福建省に留学することを控えていたため、学習意欲がとても高く、1人でもとても有意義な授業時間を過ごすことができた。

## 中国人の生活と文化

- ① 曲 明、火曜1限、3人
- ② 現代中国人の生活と文化の理解を深めることを授業目的とする。
- ③ この授業は中国の社会問題、生活、文化等に関する報道記事などを正確に音読できる能力と中国に関する出来事や情報を読みとる能力を養うことを目的とする。各課の内容は 2012 年に中国で掲載されたニュース記事より抜粋されたもので、現代中国人の生活と文化の理解を深めることを目指す。
- ④ 毎回の授業で学生に発表させていたため、人数が少ないので、発表の番が回ってくるのが早くて、受講生は少し負担を感じていたかもしれない。

## 3.2. 2013 年度後期開講授業

### 【英語】

#### Academic Listening & Note-taking

- ① Fern Edebohls, Monday 2<sup>nd</sup> period, 2students
- ② To learn techniques to prepare for more successful listening.  
To be able to identify important information within a speech.  
To begin developing an effective personal note-taking style.
- ③ Each week students studied a different audio-text. Students developed listening and preparation strategies for use before, during and after a lecture to enhance their understanding. Students practiced recognizing important information and what to include in notes. Students also learned techniques for efficient structured note-taking. This class used a textbook.
- ④ Having a textbook meant that students understood the level and nature of the course clearly before they signed up, and were serious about attending, however the small number of students made group discussion challenging in this class. The audiovisual resources accompanying the books were a valuable resource, allowing students access to authentic yet understandable listening materials. Students in this group tended to use the textbook to prepare before class, meaning that class time could be used more effectively.

## Academic Listening & Note-taking

- ① Fern Edebohls, Monday 3<sup>rd</sup> period, 6students
- ② To learn techniques to prepare for more successful listening.  
To be able to identify important information within a speech.  
To begin developing an effective personal note-taking style.
- ③ Each week students studied a different audio-text. Students developed listening and preparation strategies for use before, during and after a lecture to enhance their understanding. Students practiced recognising important information and what to include in notes. Students also learned techniques for efficient structured note-taking. This class used a textbook.
- ④ Using a textbook allowed students to accurately ascertain the level of the class and decide whether or not to join. As a result the group were all capable of understanding, but still challenged by the material. This allowed effective group work. The textbook was a great resource, and helpful in setting homework for students who missed class, in order to make sure the group did not fall behind. Students would benefit from some kind of final task or goal to help them see their progress.

## Debate

- ① Fern Edebohls, Friday 4<sup>th</sup> period, 7students
- ② To learn persuasive speaking techniques.  
To become familiar with Asian-style parliamentary debate.  
To be able to formulate and express arguments clearly.
- ③ Each class introduced a new debating technique. Students practiced persuasive speaking and critical thinking as they analysed a range of issues to identify possible merits and demerits. Students spent time each class discussing and debating current controversial issues, leading up to a final full-length modified Asian Parliamentary debate.
- ④ Students in this group varied somewhat in language ability, but were all able to participate fully. The focus on meaning rather than language allowed them to focus on critical thinking and problem solving. Students found the tasks challenging, but seemed to enjoy grappling with the complexities of the issues. This was a highly successful class. Students would benefit from a “Debate 2” class next year to allow them to continue developing their problem-solving and critical thinking skills.

## Global Leader

- ① Fern Edebohls, Friday 3<sup>rd</sup> period, 6students
- ② To learn vocabulary related to world issues.  
To further understanding and ability to think critically about global issues.  
To be able to express ideas clearly and participate actively in a discussion.
- ③ This class was student-focused, with students taking turns to prepare and lead class learning and discussion related to a topic or problem of their choice. Students composed handouts and provided supplementary information (videos, newspaper articles etc.) to stimulate discussion. Plans were submitted and checked by the teacher prior to each class.
- ④ This course was a great success. Students embraced the challenge of leading the class, and the freedom it gave them to choose subjects they were interested in. Discussions were wide-ranging and frank. The atmosphere was comfortable and relaxed, with all students contributing actively to discussions. I hope to continue this class along similar lines in the new academic year.

## J-Ambassador

- ① Fern Edebohls, Wednesday 3<sup>rd</sup> period, 9students
- ② To reflect upon Japanese truths and stereotypes, and identify possible foreign perspectives.  
To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and objects.  
To be able to communicate information about Japan clearly.
- ③ Each class addressed a different element of the Japanese lifestyle that students are likely to be questioned about overseas. Students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. The course culminated in a pair presentation introducing an element of Japanese culture.
- ④ The majority of students in this group seemed very hesitant to share opinions, making group discussions rather arduous. The class would have benefited from more time devoted to building relationships at the beginning of the course. This needs to be more seriously worked into the course. The topics themselves were thought-provoking, and the final presentation demonstrated that students had indeed developed their ability to critically examine and clearly talk about their own culture.

## J-Ambassador

- ① Fern Edebohls, Thursday 4<sup>th</sup> period, 6students
- ② To reflect upon Japanese truths and stereotypes, and identify possible foreign perspectives.  
To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and objects.  
To be able to communicate information about Japan clearly.
- ③ Each class addressed a different element of the Japanese lifestyle that students are likely to be questioned about overseas. Students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. The course culminated in a pair presentation introducing an element of Japanese culture.
- ④ Students in this group fell into three same-grade pairs and never seem entirely comfortable in discussion with older or younger peers. Greater attention to relationship-building at the start could help to relieve this tension. Students worked in same-grade pairs most of the time and were able to discuss things in that environment, however they missed the opportunity to hear a wider range of perspectives. A larger class group is certainly desirable in this course. Students in this course worked hard on their presentation tasks, and displayed a degree of thoughtfulness not always evident in their classroom discussions. It is important to ensure that students are provided with a range of ways to express their ideas and learning.

## One Minute Speech

- ① Fern Edebohls, Tuesday 4<sup>th</sup> period, 5students
- ② To gain confidence speaking in front of an audience.  
To be able to deliver clear, interesting, effective speeches.
- ③ Each class began by focusing on a speech writing/presentation skill (structure, body language, eye contact, etc.). Students practiced short tasks related to the skill. Students were then assigned a simple topic and given ten minutes to prepare a brief speech. Each student presented a speech while other students listened actively and provided feedback after the speech. The course culminated in a longer speech which the students composed, edited, and presented.
- ④ Students in this class were keen to practice public speaking, and showed real improvement. The class size was a little too small to be ideal, removing much of the “public speaking” feel. It may be beneficial to introduce outside audiences from time to time in this course in the future. Students were able to recognize their own improvement in a pre- and post-course speech activity.

## Short Essay Writing

- ① Fern Edebohls, Tuesday 5<sup>th</sup> period, 2students
- ② To gain an understanding of appropriate composition structure.  
To acquire set phrases and vocabulary used in academic writing.  
To develop critical thinking skills and be able to write in a logical, well-argued manner.
- ③ Students studied appropriate structure, flow and language to use in simple academic writing. They developed writing and editing skills and extended their academic vocabulary using the Academic Word List. Students completed one longer essay, and numerous shorter timed essays in TOEFL style.
- ④ As with the writing class last semester, there was little interest in this class. The two students who joined however, were dedicated and really showed progress in their writing. Perhaps a greater emphasis on computer-based timed writing (appropriate for the TOEFL and IELTS) would be more beneficial, as this seems to correspond to the immediate needs of students.

## Survival English

- ① Fern Edebohls, Wednesday 4<sup>th</sup> period, 7students
- ② To develop effective strategies for dealing with new situations.  
To acquire useful situation-specific English expressions.  
To enhance natural communication skills.
- ③ Each lesson was planned to look at a different social situation that students might encounter abroad and allow students to discover possible strategies and useful expressions to help them navigate such situations. Poor attendance made role plays and group discussion unviable and this course instead became a conversation session.
- ④ This class suffered a serious lack of student commitment. After a few weeks of sporadic attendance, the class dropped to two regular students, who also found it difficult to attend each week due to other Wednesday afternoon events. The class moved entirely away from the intended syllabus, to cater to the needs of these two students, who had lower-level language skills and preferred simple English conversation practice. Attendance issues such as these need to be overcome if classes are to proceed effectively.



## Survival English

- ① Fern Edebohls, Thursday 1<sup>st</sup> period, 13students
- ② To develop effective strategies for dealing with new situations.  
To acquire useful situation-specific English expressions.  
To enhance natural communication skills.
- ③ Each lesson looked at a different social situation that students might encounter abroad. Students were presented with possible strategies and useful expressions to help them navigate such situations, and practiced speaking in pairs and small groups.
- ④ This was a highly successful class. Devoting time at the beginning of the course to building a cohesive group environment paid dividends as students grew in confidence and lost inhibitions about speaking in front of each other. Students spent the majority of each class engaged in English conversation, discussion or role-play. Student reflection journals written each week showed students could see their own improvement, which contributed to increased motivation. This group benefitted greatly from a shared background (almost all first grade students), demonstrating that some regulation of student attendance could be merited in other classes.

## Creative Writing

- ① Brett Hack, Thursday 5<sup>th</sup> period, 4students
- ② To adopt a more imaginative, creative attitude to toward using English, to improve writing skills, and to think creatively through writing.
- ③ Students are given an imaginative topic at the beginning of class. After gaining some new vocabulary and seeing some examples, students write their own passage on the topic. Topics include scenes from students' own lives as well as creative fiction topics.
- ④ Though the number of participating students was low, those students who did sign up attended loyally and participated actively in the class. Throughout the class I stressed the importance of imagination as a tool for communication, a point which I believe they took to heart. Whereas their writings in the beginning contained only a bare minimum of information, the students gradually became more inclined to not only to write longer passages, but also to include detailed descriptions, attempt humor, and try to use more colorful vocabulary and phrases. At the end of the course, I compiled all the writings into an attractively designed "Course Anthology" and distributed copies to the students so that they could feel a sense of accomplishment towards their efforts in the class.

## Comparative Study of Cultures: English-Speaking World 1 (A2)

- ① Brett Hack, Monday 4<sup>th</sup> period, 16students
- ② To learn more about the English-speaking world, to increase interest in travel and global involvement, and to gain experience giving a presentation in English.
- ③ Each week focuses on a different country or region. Students enjoy a presentation interspersed with discussion questions and activities, while getting ideas for a country/region they wish to investigate. In the final week, students give presentations on one aspect of the region of their choice.
- ④ In the second semester, “Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World” became a required class for certification for the Global Jinzai Program. To respond to this, I included the final presentation requirement described above to my previous “The English-Speaking World” course. I addressed the problem of student shyness that I had encountered in the previous course by putting students into small groups or “teams” at the beginning of each lecture. Certain questions during the lecture were to be answered “as a team,” giving them time to discuss before answering. I also opened the class with 10-14 minutes of icebreaker conversations so that the team members would feel more comfortable around each other. While they reduced the amount of material I could cover, these strategies were very successful in getting all students to engage actively in the class.

## Comparative Study of Cultures: English-Speaking World 2 (B1)

- ① Brett Hack, Thursday 4<sup>th</sup> period, 19students
- ② To learn more about the English-speaking world, to increase interest in travel and global involvement, and to gain experience giving a presentation in English.
- ③ Each week focuses on a different country or region. Students enjoy a presentation interspersed with discussion questions and activities, while getting ideas for a country/region they wish to investigate. In the final week, students give presentations on one aspect of the region of their choice.
- ④ Course overview is the same as that of Comparative Study of Cultures: English-Speaking World 1 (A2), with the exception that I included slightly more difficult discussion prompts to correspond to the B1 level. Both versions of this classes (1 and 2) finished quite well. All of the student presentations were very successful, displaying the students’ sincere attempts to consider the vicissitudes of life in other countries, touching on issues of multiculturalism (e.g. Where did Singaporean cuisine originate?), education (e.g. Why study abroad in the Philippines?), tradition (Holidays in England), and many others.

## Group Discussion

- ① Brett Hack, Wednesday 3<sup>rd</sup> period, 6students
- ② To be able to quickly form and express one's opinion about a topic, to be able to agree, disagree, and ask questions, to be able to lead/moderate a discussion in English.
- ③ Each week highlights an accessible topic: food choice, the environment, fame, etc. Each unit includes light vocabulary and extensive training in a new discussion skill, followed by free discussion. Discussion skills taught included: giving opinions, agreeing/disagreeing, support an opinion, interrupting, changing the subject, asking for clarification, asking hypothetical questions, and moderating a discussion.
- ④ Due to the positive response received from both Group Discussion classes in the first semester, I decided to conduct the class during one period of the second semester as well. However, as with many other Wednesday afternoon iCoToBa classes, this session suffered competition from club activities, standardized tests, and other activities that often get scheduled during this time. Because of this, attendance was irregular for all students, to the point where a cumulative, homework-based class was impossible to maintain. To cope with this, I shifted focus away from the cumulative discussion skills I taught in the first semester class and more towards a free-talk style, although I maintained the original topics. I also cancelled the homework and final discussion moderation requirements, the intention being that students would not feel discouraged to come due to not having prepared. Through these measures, I was able to maintain a small group of positive students who were able to improve their speaking skills in a casual atmosphere.

## Media and Culture

- ① Brett Hack, Friday 2<sup>nd</sup> period, 9students
- ② To be able to experience and talk about media in English, to participate in contemporary English-speaking culture, to develop a critical awareness of the media forces that shape our lives, and to gain experience writing an argumentative essay in English.
- ③ This class features units on major media presences in modern life, including film, comics, popular fiction, SNS, chat culture, ads, and others. After learning some useful media language and concepts, students participate in these media forms and then engage in critical discussion about the issues underlying media and culture.
- ④ This course may be seen as a kind of immersion. It adheres as closely as possible to the experience of a “native” college English course. Just like in these courses, critical thinking and cultural awareness are treated as *primary* goals. The language acquisition goals – vocabulary building, fluency practice, and reading – are treated as *secondary* goals and are not brought into direct focus within a given lesson. The students attended the class loyally and responded very well to the concepts of critical thinking. The resulting essays were wonderfully fruitful. All the students proved able to analysis visual imagery in terms of connotative meaning, and were able

to turn their observations into an argument. Some students' analyses rose to the level of social commentary, while others looked at items such as commercials in the light of such issues as brand identity and target audience. I consider this class to have been one of the biggest successes so far.

## Pronunciation Profiles 1

- ① Brett Hack, Tuesday 2<sup>nd</sup> period, 6students
- ② To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds, to apply learned pronunciation to natural listening and speaking, and to understand how personality and emotional state affect pronunciation and intonation.
- ③ This is a 45-minute class. Each unit focuses on a famous figure in the English world. Students listen to a talk by that person and isolate a pronunciation point that is difficult for Japanese speakers. After practicing the pronunciation point through drills and games, students return to the featured person's talk and reproduce the day's point in a larger text.
- ④ The structure of this class was the same as in the first semester. However, for the 13<sup>th</sup> week, instead of doing an in-class review lesson, I broke up the class into five-minutes sections, during which students would come individually to recite one of the twelve talks we studied during the course. This addition allowed me to conduct a final evaluation of student skills, which was lacking in the first-semester version of the course. I found that that students improved their pronunciation trouble sounds significantly. The ability to mimic natural intonation varied from student to student. However, most students displayed at least an attempt to follow the speaking patterns of the talk's speaker.

## Pronunciation Profiles 2

- ① Brett Hack, Wednesday 2<sup>nd</sup> period, 14students
- ② To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds, to apply learned pronunciation to natural listening and speaking, and to understand how personality and emotional state affect pronunciation and intonation.
- ③ This is a 45-minute class. Each unit focuses on a famous figure in the English world. Students listen to a talk by that person and isolate a pronunciation point that is difficult for Japanese speakers. After practicing the pronunciation point through drills and games, students return to the featured person's talk and reproduce the day's point in a larger text.
- ④ The course overview is the same as that of Pronunciation Profiles 1, including the final recitation activity. This was a particularly active class, and I was able to diverge from a strict lesson plan and conduct short discussions on the cultural aspects of pronunciation. During the final recitation, the students in this class displayed a much stronger motivation, and evidence of having practiced their pronunciation vigorously.

## Research and Presentation Project 1 (B2-C1)

- ① Brett Hack, Tuesday 3<sup>rd</sup> period, 4students
- ② To be able to work effectively in a group, to learn how to manage large tasks and set schedules, and to gain experience giving a presentation in English.
- ③ Students learn the skills and tactics needed to manage a group project, including brainstorming, setting a schedule, working with others, and dealing with problems. Later units show how to put together a presentation and do a question and answer session. Students also form groups and create their own project.
- ④ In the second semester, “Research and Presentation Project” became a required class for certification for the Global Jinzai Program. Acting on observations from the “Project Work” class in the first semester, modules were categorized into two general skills: “project skills” and “presentation skills.” After four weeks of initial project skills lessons, students formed groups and began to work on their own projects. In the eighth week we returned to the lessons, this time to focus on how to prepare and give a presentation. After that, students had a few weeks to complete their projects and presentations, culminating in a lunchtime presentation session in front of other students in the iCoToBa lounge. This advanced group possessed not only good English communication skills, but also strong work ethics and outstanding teamwork skills. Their project was a campaign to include an official “naptime” in the university schedule. To do this, they researched societies with a cultural history of napping, e.g. Spain, as well as scientific studies that indicated napping’s health benefits. In addition, they conducted a survey of 103 students in order to demonstrate that tiredness was an issue on campus. Finally, they presented their proposed school schedule that included a “napping period.” It was a stellar presentation, well organized and quite convincing.

## Research and Presentation Project 2 (A2-B1)

- ① Brett Hack, Wednesday 5<sup>th</sup> period, 11students
- ② To be able to work effectively in a group, to learn how to manage large tasks and set schedules, and to gain experience giving a presentation in English.
- ③ Students learn the skills and tactics needed to manage a group project, including brainstorming, setting a schedule, working with others, and dealing with problems. Later units show how to put together a presentation and do a question and answer session. Students also form groups and create their own project.
- ④ The course overview is the same as that of Research and Presentation Project 1, with the exception that a more basic version of the skill sets was taught to fit the abilities of a beginner class. The class mad up three groups. One group gave a presentation on Walt Disney in a quiz-style format that included their reasons for considering him a “global figure.” The second group created a Nagoya Tourism Guidebook for foreign students. The book included information on major sightseeing spots in the Nagoya area and featured not only researched

information but also journalistic features on spots which the students visited themselves. The final group created Nagakute Gourmet Guide, which featured affordable cafes and restaurants on the train line that connects our campus to Nagoya. Their guide include a rating system for each restaurant and comments on their favorites. The students gave their presentations entirely in English and all did an impressive job with the visual design for their respective projects.

### Today's Top News 1 (B2)

- ① Brett Hack, Tuesday 4<sup>th</sup> period, 10students
- ② To improve comprehension of news in English, to form and express opinions about current events, and to be able to summarize events and opinions in the news.
- ③ Each week presents a current story in the news using written and audiovisual samples. Each lesson includes vocabulary study, listening and reading comprehension exercises, and discussion.
- ④ This course was structured largely the same way as the first-semester version. The main difference this semester was the inclusion of a “news summary” requirement. Each student had to choose a week to summarize the news article in their own words and lead a discussion with classmates using questions of their own design. When more than one student presented, the class was broken up into smaller groups. This addition very much improved the class; students felt more responsible towards the material and were thus more engaged. They also gained experience leading a discussion in English. I would like continue in this direction when I teach the class next semester, allowing for students to choose and lead discussion on articles of their choosing.

### Today's Top News 2 (C1)

- ① Brett Hack, Monday 5<sup>th</sup> period, 3students
- ② To improve comprehension of news in English, to form and express opinions about current events, and to be able to summarize events and opinions in the news.
- ③ Each week presents a current story in the news using written and audiovisual samples. Each lesson includes vocabulary study, listening and reading comprehension exercises, and discussion.
- ④ For this C1 version of the Today's Top News class, I decided to act on observations from the previous advanced course. Students still pre-read the assigned news article for homework, but were not required to do any vocabulary study. They were, however, required to watch the AV news source at home and answer 4-5 general comprehension questions about it. Preliminary exercises in class consisted of short discussions about difficult expressions or journalistic usage that occurred in the article. AV listening was still done in class, but this time focusing on specific

listening comprehension. I wanted the students to practice hearing not only difficult vocabulary, but also phrases that tend to get blended together when a native speaker talks. This more economical approach to in-class teaching allowed us to dedicate almost half the class to discussion about the social and political issues related to the news story in question.

## 【検定対策】

### アカデミックセッション 1、2、3、4、5、6、7

- ① 寺澤 君江、月曜 11:15～12:00、月曜4限、火曜 11:15～12:00、火曜 15:15～16:00、水曜 2限、13 人(のべ数)
- ② 学生の英語学習のゴールを設定し、その達成を目指す  
学生の英語学習におけるニーズに応じたカリキュラムに基づいた授業を展開する。
- ③ 学生の英語学習におけるニーズに応じたカリキュラムを個々に作成し、授業を展開した。チュートリアル形式の授業として、1コマ 45 分、7 系統の内容(1コマ全 13 回)を提供した。学生がそれぞれのゴール達成できるよう、次のような学習内容を設定した。1つめは、リスニング力強化である。2つめは、語彙力強化である。3つ目は TOEFL/IELTS などに対応したスピーチ練習である。4つめは、就職活動に役立つ英語力として、英語面接の練習や英語の履歴書作成である。5つめは、英検対策として、試験攻略方法に関する助言である。6つめは、アメリカ留学を意識した TOEFL に関する授業である。最後、7つめはイギリス留学を意識した IELTS に関する授業である。
- ④ 個別化を図ることにより、学習者のニーズに応えることが可能であった。少人数制の授業の実現により、英語学習における個々の弱点に焦点をあて、きめの細かな指導を実践することができた。しかしながら、反面、効率性およびクラスメートとの競争性という点においては、改善の余地が大いに残されている。

### Strategic TOEFL 1、2

- ① 寺澤 君江、月曜3限:3人、水曜3限:7人
- ② アメリカ留学を目指す学生の TOEFL 受験対策
- ③ 試験に対応できる英語力の基礎として、語彙力の強化に重点を置いた。4つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)における、それぞれの出題傾向および問題分析を授業で位置づけ、攻略方法を身につけるようにアドバイスした。授業の最後には毎回、過去問題を用いて、ミニ模擬試験を実施した。学生の苦手とするライティングに関しては、manaba を利用して授業外においても学習できるよう機会を設定した。さらに、必要に応じて、iCoToBa のアドバイジングアワーを利用して助言す

る機会を提供した。

- ④ 問題の傾向に慣れるという点において成果があげられた。目標得点獲得には授業外での継続的な努力が必要である。

## TOEIC Intensive 1、2、3

- ① 寺澤 君江、月曜6限:13 人、火曜5限:11 人、火曜6限:7 人
- ② TOEIC 受験対策
- ③ 以下の3点に重点を置き、授業を進めた。1つめは、TOEIC の試験問題におけるボキャブラリーを強化するため、テーマごとに重要単語を確認する時間を設定し、反復練習により語彙力を定着させた。2つめは、学生が苦手とする、リスニングパートに重点を置き、過去問題を用いてシャドウイングやQ&Aによりリスニング力の強化に努めた。3つめは、時間配分がポイントとなるリーディングパートにおいて、出題方法や問題の傾向を分析することにより、効率よく解答するテクニックが身につくようにアドバイスを与えた。授業の最後には、学習の成果を確かめるため、ミニ模擬試験の時間を設定した。
- ④ 問題の傾向を理解するという点において成果があげられた。リーディングに関しては、時間配分がカギとなるため、練習問題をこなすことにより慣れることが大切である。授業外での継続的な努力が必要である。

## Vocabulary for Exams 1、2、3

- ① 寺澤 君江、月曜 16:10～16:55:1 人、火曜 12:50～13:35:3 人、火曜 14:30～15:15:7 人
- ② 検定試験(TOEIC/TOEFL/IELTS)受験対策のための語彙力強化  
検定試験に使用される単語を扱う
- ③ 1コマ 45 分(全 13 回)の授業として設定し、様々な方法で単語の学習を展開した。上記の3種類の検定試験で出題される傾向の強い重要単語を、毎回、200～300 程度の割合で、復習・確認した。文脈の中で単語をとらえ、ディクテーションすることにより、視覚的にも定着するようにした。さらに、単語を正確に把握することを目的とし、コロケーション・同義語・反意語・単語の定義づけなど、多面的に単語の学習を進めるようにした。
- ④ 語彙力強化のみではなく、読解力およびリスニング力を高めることにもつながる展開となった。授業で身につけた語彙力を日常的に生かすための方法や環境があると、更に英語力アップにつながると思われる。



## 【フランス語】

### ちょっとチャット フランス語 4年生・留学者[B2 以上]

- ① ダレン・モルガン、月曜 8:50～10:20、7人
- ② 日常的な出来事について、参加者全員で議論する事により、フランス語の知識と話す楽しさを身に付ける。仏検等の試験対策も兼ねる。インターネットを活用し、フランスのメディアに対して、身近に感じてもらう。
- ③ フランスの主なニュース記事や、1分程度のニュース動画を見てもらい、その話題について皆で議論した。また、授業に参加した学生が積極的に発言出来るように促し、分からない単語や、関係する事柄、背景など、それにまつわる事全てについて自由に発言した。
- ④ 授業の中で、学生が発言する機会を多く設けた結果、フランス語の上達が目に見えてわかった。また、楽しみながら、フランス語を使って意見を言えるようになったと思う。単にフランス語を話す事を目的にするのではなく、自分の考えを表現したり、他の人の意見を聞いてから、自分の意見を主張したり、議論する事を楽しんでいたように思う。今回は、主にフランスのニュースを利用したが、今後は、もっと幅広い媒体を利用したい。まだまだ発言を恥ずかしがる生徒も多いので、その殻を破ってもらえるよう、議論を重ねて、そういう場面に慣れてもらいたい。

### 聞きトレ フランス語 1年生[A1]

- ① ダレン・モルガン、火曜 14:30～16:00、3人
- ② いろいろな内容のフランス語の会話を聞いて理解する。基本的な単語と文法の知識を増やす。正しい発音を身に付ける。
- ③ フランス語学科の授業で習った単語や文法を使って会話をし、簡単なゲームを通して単語を覚えた。正しい発音のフランス語を聞いて、それを書き取ったり、学生が発音した文章を、皆で書き取ったりして、正しい発音に慣れると共に、単語を記憶し、基本的な文法を学んだ。
- ④ フランス語を「目的」ではなく、「道具」として使えるようになって欲しい。フランス語学習教材に付いている CD のようなありきたりな会話ではなく、実際に使うであろうフランス語を学んでもらいたい。1年生は、フランス語を学び始めた学生ばかりであるし、自ら発言する事にも全く慣れていないのが、授業を進める上で大きな壁となった。簡単な質問に答える機会を増やし、初心者でもフランス語で答える事で、自信と達成感を持ってもらいたい。それを積み重ねる上で、恥ずかしいという殻を破れるよう授業を進めていきたい。

## リサーチ・発信プロジェクト 1、2年生[A1/A2]

- ① ダレン・モルガン、水曜 8:50～10:20、8人
- ② 留学の準備のため、フランスの都市、大学、食べ物や文化について調査する。留学への心構えをし、留学の道に進むようフランスに興味を持ってもらう。
- ③ 留学先で、フランス人から実用的な情報を得るための質問を1人 10 個作った。「～が好きですか?」「～に行ったことがありますか?」などの単純な質問ではなく、女性が1人で散歩できるか、危険な地区があるか等、留学先の治安や、フランスで困ることは何か、おすすめのスポットや料理、習慣の違いから、しない方がよい事などをフランス語で情報収集する方法を実践的に学んだ。フランスからの留学生が授業に参加し、学生はペアやグループになって、直接質問した。愛知県立大学の学生が留学先として選択する大学があるフランスの町(リヨン、モンペリエ、リール)について調査し、iLounge にて日本語で発表した。
- ④ 1年生と2年生が、フランスの地理、習慣や施設などについて知識を得、それに伴う単語を学んだ。フランスに留学する前の学生は、フランス語の必要性を感じにくいことから、数年後の留学を具体的にイメージすることによって、フランス語の必要性を感じ、将来、フランス語をどう活かしていくかを考えるきっかけを作りたい。また、フランス語を選択した事を意識させて、学生が授業以外にも主体的に学ぶようになってもらいたい。

## ちょっとチャット フランス語 1年生[A1]

- ① ダレン・モルガン、木曜 8:50～10:20、2人
- ② フランス語の音に慣れ、正しい発音を覚えること。学科のフランス語の授業で学んだ基本的な単語や文法を復習しながら、会話を通してフランス語の会話力を上達すること。
- ③ 学生数が少なかったので、個人授業のように進めることができた。フランス語学科で分からなかった点を会話、言葉遊び、発音などを通して集中的に復習し、練習をした。
- ④ 言語を学ぶ上で、復習するのはとても大切であり、1年生のうちに基本的な点について、しっかりと身に付くよう、分からない点を克服できるよう進めた。生徒のフランス語が上達するのが感じられた。しかし、日によっては、1人しか授業に出席しない日もあり、90 分の授業をマンツーマンで行うのは、本来であれば素晴らしい機会であったが、途中でその学生も欠席するようになり、残念ながら、この授業を打ち切ることになった。

## フランス語圏なう。2年生以上 [A2 以上]

- ① ダレン・モルガン、水曜 12:50~14:20、10 人
- ② 4年生は、自分の留学経験から、フランスでの滞在について分析をし、2年生に情報を伝え、2年生は、4年生からの情報によって具体的なフランスについての知識を得る。
- ③ 留学やフランスの生活について有益なこと、例えば、通貨、気候、緊急の場合などの話題について、まず日本語での記事を書いた。その記事に基づいて、フランス語でどう言うか、説明したり、会話をした。留学前の2年生は、留学を経験した4年生から、フランスへの留学について直接情報を聞くことで、もっと具体的にイメージ出来たと思う。また、4年生は、自身の経験を頭の中で整理してフランス語で表現することで、フランス語が上達したと思う。
- ④ 2年生と4年生が同じクラスで授業を行うのは、いいアイデアだと思った。しかし、レベルとモチベーションに差があり、留学前の2年生は、積極性が足りない生徒が多く、常に4年生主導で授業が進んだ。皆、真面目で、真剣に授業を受けているが、発言が非常に少なかった。発言を促さなければ、発言しない生徒も多かった。留学先の授業で、一言も発しないまま授業が終わらないよう、留学前の学生には、単純な答えでも、文法が多少違っても、質問されたら、すぐ答えるというリズム感を身につけてもらいたい。フランスにも地方によって発音が違ったり、方言があつたりする事、また移民も多いので、多少の発音の間違いを恐れずに、積極的に発言する事が大切であることを伝えた。

## ニッポンなう。2年生以上 [A2 以上]

- ① ダレン・モルガン、水曜 14:30~16:00、10 人
- ② 日本の文化、観光スポットなど、自分の国のことについて、留学先で正しいフランス語で上手に説明できるように学ぶ。総合的にフランス語のレベルを向上させる。
- ③ 日本の習慣、宗教、考え方、音楽、社会、労働や文化など、日本について様々な事柄についての記事をフランス語で作成した。その記事を、発表や会話を通して、皆で確認し、正しい文章に書き直した。
- ④ 当初、一人1つのテーマを選び、記事を書くことにしたが、2年生には難し過ぎたので、2年生と4年生がペアになって1つの記事を書いた。その後、その記事について、フランス語で説明し、皆で考えを共有し、正しいフランス語に直した。ただ、2年生と4年生にはレベルの差があり、教える側として難しかった。そして、全体的に出席率が悪く、活気的ではなかった。フランス語で記事を書くのは良いアイデアだったと思うが、今後はブログを作成させるか、プレゼンテーションさせるか、学生のレベルによって決定したい。

### 聞きトレ フランス語 3、4年生[B1/B2]

- ① ダレン・モルガン、木曜 14:30～16:00、3人
- ② 話す力を上達させるのが主な目的だが、学生の仏検対策(準2級、準1級)用の会話、文法ルール、熟語、動詞の活用などを身に付ける。
- ③ 会話をメインに練習したが、仏検対策として、穴埋めや、熟語、発音など、知らなければ正解できないことについても練習した。また、仏検対策の問題集を参考にして、練習問題やゲームを創造し、楽しみながらフランス語を学んだ。
- ④ 準2級と準1級とでは、レベルに差があるが、積極的な学生3名だったので、90 分の授業で、発言が非常に多く、活気のある授業を進めることが出来た。3名とも、仏検一次試験に合格した。仏検対策の授業は、学生のためになると思うので、来年度は仏検対策専用の授業があればいいと思う。例えば、聞きトレという授業名を聞くと、仏検対策に熱心でない印象がしてしまうので、授業名は大切だと感じた。

### ちよっとチャット フランス語 3、4年生 [B1/B2]

- ① ダレン・モルガン、金曜 8:50～10:20、7人
- ② 日常的な出来事について参加者全員で議論する事により、フランス語の知識と話す楽しさを身に付ける。仏検等の試験対策も兼ねる。インターネットを活用し、フランスのメディアをもっと身近に感じてもらう。
- ③ フランスの主なニュースの記事や、1分程度のニュースの動画を見せ、その話題について皆で議論した。また、授業に参加した学生が積極的に発言出来るように促し、分からない単語や、関係する事柄、背景など、それにまつわる事全てについて自由に発言した。
- ④ 授業の中で、学生が発言する機会を多く設けた結果、フランス語の上達が目に見えてわかった。また、楽しみながら、フランス語を使って意見を言えるようになったと思う。単にフランス語を話す事を目的にするのではなく、自分の考えを表現したり、他の意見を聞いてから自分の意見を主張したり、議論する事を楽しんでいたように思う。今回は、主にフランスのニュースを利用したが、今後は、もっと幅広い媒体を利用したい。発言を恥ずかしがる生徒も多いので、その殻を破ってもらえるよう、議論を重ねて、そういう場面に慣れてもらいたい。

## ちよっとチャット フランス語 2年生[A2]

- ① ダレン・モルガン、金曜 14:30～16:00、3人
- ② 話す力を上達させるのが主な目的だが、学生の仏検対策(3級、準2級)用の会話、文法ルール、熟語、動詞の活用などを学んだ。
- ③ 会話をメインに練習したが、仏検対策として、穴埋めや、熟語、発音など、知らなければ正解できないことについても学習した。また、仏検対策の問題集を参考にして、練習問題やゲームを創造し、楽しみながらフランス語を学んだ。
- ④ フランス語を話したいというモチベーションが低く、発言が恥ずかしいと思っている学生達であったため、当初、レベルはあまり高くなかった。しかし、楽しみながらフランス語を使うことで、3名とも上達していくのがはっきりと感じられた。モチベーションが低い学生がいる場合は、クイズやゲームを通して楽しんだり、授業内容をこちら側で全て決めるのではなく、学生が授業内容について意見を出し、もう少し参加型の授業にしていきたい。

## 【スペイン語】

### DELE B2

- ① Pablo APAZA, Monday 5<sup>th</sup> period, 10students
- ② To prepare the students for the DELE test, at the level of B2, which it was held in November.
- ③ Practice of test for listening, conversation, and reading specially. The book that we use it was “El cronómetro B2”.
- ④ In general the classes were done according to the lessons of the book, each class with one of the competences because, each one takes time, that’s why at the end we finished completing all the competences. Beside we practiced some interviews to be ready for the DELE test. After the test, four of them continue to come until January, considering that the test was at the end of the year (2013). Students who came to all the classes had a good experience to realize about the text.

### DELE A2

- ① Pablo APAZA, Tuesday 5<sup>th</sup> period, 1student
- ② To prepare the participants for the DELE test, at the level of A2, which it was held in November. We practice listening, conversation, and reading according the student’s book which started studying in Mexico. The title book is “Español Lengua Viva 2”
- ③ This class was very particular, because in the first class three students came, and from the second just one student, with this student we studied with her book which started studying in Mexico.
- ④ The student was well prepared to have the DELE A2 test.

## DELE A2

- ① Maria Lizarraga, Wednesday 3<sup>rd</sup> period, 9students
- ② For make the students exam preparation of DELEA2 we worked with DELE previous exams, and review material for help they understand what you expect of them. Making emphasis on clarifying notes on grammar, vocabulary and lexical, to facilitate reading comprehension.
- ③ Using El Cronometro (Manual de preparation del DELE). After the examination, the following classes are given on topics of general interest, always motivating and encouraging student participation, making some explanatory notes on grammar, lexicon or socio cultural content to facilitate reading comprehension, using materials printed, audiovisual and internet.
- ④ The aim more than anything, was them prepare properly and get the punctuation to establish the level at which the student is. And acquiring more skills of vocabulary, repeat and practice, with the intention to acquire more skill in the use of language.

## なんでもスペイン語

- ① Maria Lizarraga, Wednesday 4<sup>th</sup> period, 11students
- ② Based on the latent anxiety of students to practice the language, I made a plan of study, discussion and various current topics of general interest, taking into account the level of learning they are.
- ③ Taking advantage of new technologies without replacing the print and audiovisual, didactic sheets, exploiting each theme with fun and interesting activities, emphasizing student participation, with explanatory notes on lexical or socio cultural content, to facilitate reading comprehension, all with the purpose of enriching and make dynamic, fun and interesting class.
- ④ The aim more than anything, was the acquisition of vocabulary, repeat and practice, with the intention to acquire more skill in communication.

## 時事スペイン語

- ① Irene Gonzalez, Thursday 2<sup>nd</sup> period, 1 student
- ② To improve media literacy skills and grow familiar with the news of Spain and Latin-America. The student should aim to improve reading and listening skills, as well as to feel comfortable discussing the news and expressing his or her on subjects of politics, economics and society. The class is mainly focused on conversation, reading and listening being mainly conducted at home.
- ③ Using several media, i.e. newspapers, radio and television, the student will summarize and discuss a few pieces of the main news of the week. We mainly used media from Spain, Mexico, Chile and Argentina for their easy online access.
- ④ The goals we set were achieved. The student grew familiar with names of personalities and institutions who are the key players of these countries. Every week we used a different media, and discussed two pieces of news. Sometimes the student will search Japanese media for related pieces of news and translate them into Spanish. Other times, we would analyze one piece of news through different media to appreciate the different ideologies or points of view. However, I believe it would have been more dynamic if there were more students in the class.

## DELE B2 対策

- ① Irene Gonzalez, Thursday 4<sup>th</sup> period, 10 students
- ② To prepare the students for the Spanish exam DELEB2. Practice all the sections of the exam, and mainly focus on grammar, vocabulary and conversation skills. Also to improve time management skills for the exam. Engage the students with online learning and studying tools.
- ③ Using mainly Instituto Cervantes' online service AVE each day we would work on a section of the exam. I would also prepare my own exercises focusing in those aspects that students seemed to find especially difficult. Sometimes we would correct the exercise in detail, others we would focus on time management and efficiency.
- ④ Until they took the exam DELE B2, we worked on a strict schedule covering all the exercises that appear in the exam. After the exam, we did more in-depth activities focused on the improvement of grammar, vocabulary and conversation skills. However, many students stop coming after taking the exam.

## リサーチ・発信プロジェクト

- ① Irene Gonzalez, Thursday 5<sup>th</sup> period, 3students
- ② To improve research and presentation skills. More specifically, to design and conduct different research programs in Spanish. The student should also aim to grow comfortable speaking in public.
- ③ The term was divided into three main projects: personal interview, research and presentation of a Spanish university, and academic development interview. We also reflected on how these methodologies and skills are used abroad, in order to encourage students to participate in exchange programs with foreign students and universities.
- ④ The students seemed very motivated and worked hard in each project. I think it would be more interesting if we had had a larger number of people. After each project we reflected on the technical and language difficulties the students had faced, as well as on the advantages and disadvantages of these methodologies of research.

## なんでもスペイン語

- ① Irene Gonzalez, Friday 2<sup>nd</sup> period, 18students
- ② To consolidate the basics of Spanish language and to practice conversation.
- ③ The first weeks were dedicated to review nouns and adjectives (singular/plural, feminine/masculine), verbs and adverbs. In parallel to what the students were learning in the conversation class we would do conversation exercises. Every week we did a dictation (mainly of numbers, but also vocabulary and sentences). Every week there were also games to improve their vocabulary.
- ④ The class was very dynamic and the students were highly motivated. The games were very helpful and were intended to make the students be proactive, others to make them talk to many different students and move around the classroom. We sometimes did reading and writing exercises during class, but if given as homework few did them.



## スペイン語で日本紹介

- ① Irene Gonzalez, Friday 4<sup>th</sup> period, 8students
- ② To learn vocabulary on Japanese culture and present on different related subjects, preferably on PowerPoint. The student should also aim at improving his or her presentation skills, such as looking at the audience, talking loud and clear, and making the subject appealing.
- ③ Based on the students' interests we decided on the following subjects: Home town, University fest, Economy, Traditional culture, Contemporary culture, History, Politics, Gastronomy, and free presentation. Each student would present (5minutes) on a subject every other week. After each presentation, students should make questions or comments. Then I would correct the main grammar and vocabulary mistakes and advice on presentation skills. At the end of the class we would prepare next week subject through a text or a video with useful vocabulary. The last two weeks were dedicated to final presentations (7-10minutes), which could be based on a previous presented topic or new.
- ④ The students were motivated and worked very hard on their presentations, which improved every week. Some of them were extremely original and interesting. Most students voluntarily submitted a draft of the final presentation in advance. The schedule might have been a bit too tight because the number of students increased over those registered. Sometimes it was hard to get them to comment on other students' presentations.

## 比較文化セミナー

- ① Irene Gonzalez, Friday 5<sup>th</sup> period, 5students
- ② To think critically on topics of Cultural Studies, and Intercultural Studies, discussing potential benefits and problems as well as the desirable future development of these issues. To improve conversation and debating skills.
- ③ Using a text or a video as a starting point we would debate on different topics. We started with light subjects such as food culture. We discussed other subjects such as immigration, proxemics, family relations and gender. We studied specific methodologies, such as those of Edward T. Hall and Geert Hofstede, and applied them critically to case studies.
- ④ We focused mainly on Hispanic and Japanese cultures but also discussed other countries. The students were extremely participative and proactive. The atmosphere was very relaxed and the topics flowed quite freely, the only rule being to speak exclusively in Spanish.

## 【ドイツ語】

### ドイツ日常語と実践会話 / Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches

1/4, 2/4

- ① Morten Hunke, Wednesday 1<sup>st</sup> period:12students, Tuesday 1<sup>st</sup> period:12students
- ② How to translate your classroom language skills to real live communication? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. There will be a strong focus on spoken language in German. Loosely even this class will be based upon: *Und du? Sprechsituationen im Unterricht - NEU!*
- ③ Every lesson started off with games or other activities repeating vocabulary and structures covered in prior lessons. An emphasis was placed upon mastering certain fields of simple communication well; colours, appearance, character, food items and dishes etc. Students also researched and prepared short presentations about an imaginary trip around the world.
- ④ The agenda was to compliment the regular classes of the first academic year as accurately as possible. During the semester again two haiku/tanka tasks were set. Running up to Christmas the necessary vocabulary was covered, Christmas carols introduced and practised and eventually performed at the iCoToBa Christmas party - offered to all students indiscriminately.

### ドイツ日常語と実践会話 / Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches

3/4, 4/4

- ① Morten Hunke, Monday 3<sup>rd</sup> period:13students, Thursday 3<sup>rd</sup> period:14students
- ② How to translate your classroom language skills to real live communication? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. How do I overcome inhibitions/difficulties in orally making use of my German? How do I engage in everyday speech acts even if I'm not 100% sure what to say? There will be a strong focus on spoken language in German.
- ③ Every lesson started off with specially designed speaking exercises. Throughout the course of the class students gave prepared and impromptu presentations, read out aloud scenarios - after having identified pauses and major phrasal stress - wrote their own dialogues, engaged in role play and drama exercises.
- ④ The agenda was to compliment the regular classes of the first academic year as accurately as possible. During the semester again two haiku/tanka tasks were set. Running up to Christmas vocabulary was extensively covered, as were traditions surrounding Christmas and New Year in Germany. This included questions of the where and who with? Also, what activities people in Germany often partake in at such festivals, what they eat and drink etc.

## 検定試験対策 / Testvorbereitung

- ① Morten Hunke, Thursday 4<sup>th</sup> period, 2students
- ② Preparation for German language tests on levels A1 through to B2. A particular focus will be on understanding and preparing for the differences in format. The course requires students to practise and study individually. This class aims at preparation for the Goethe Institut/Österreichisches Sprachdiplom exams rather than the Japanese format 独検.
- ③ Every lesson featured a focus on particular skills sets: listening, reading, writing, speaking. On top of that, general language test formats were investigated – often by students themselves in pairs or groups. Principles for tactics in approaching tests were formulated and practised on test materials.
- ④ The language ability levels of students differed considerably. Despite the low (A1) entrance level criteria, students in first year cannot attend this class in semester 1. Their language abilities are simply too basic. Also, since the university sponsors participation in 独検 only – a test format that is not recognized in Europe at all – some more thought should be given to how to design a test preparation class that best meets students' needs and expectations.

## 「いただきます」、「お疲れ様」－日独文化事情と専門用語 / "Mahlzeit" und "Schönen Feierabend" - Landeskundliches und Fachsprachliches

- ① Morten Hunke, Wednesday 4<sup>th</sup> period, 6students
- ② This class specifically addresses the needs of returnee students after the completion of a stay abroad. Project work and speaking exercises are going to form the core part of the class. In terms of topics we are going to be looking at German mentality and working life in the German speaking world. Students are expected to participate actively and to be prepared to try out even new and unfamiliar formats. Written language will feature as little as possible in the class.
- ③ Every lesson started off with students reporting on what they had encountered during the week to do with German and the study of the language. Often these could be music videos, film clips, articles, or mere topics, news items. Often we also reflected about students were covering in their regular classes.
- ④ The more the semester progressed it became increasingly clear that the relatively late Wednesday afternoon time slot was not a good choice. Attendance plummeted and in the end only 2 students actually came regularly. This needs to be urgently reviewed for the semesters to come. If possible student feedback ought to be gathered, too.

## 海の向こうとこちら(日本紹介) / Heimat und Ferne (Japanbotschafter)

- ① Morten Hunke, Tuesday 4<sup>th</sup> period, 3students
- ② This class will feature a number of highly practical activities to make you more prepared for your student life in Germany. There will be input from current German students and Japanese Kendai returnee students. Students will (re-)discover Japan and Japanese culture from the vantage point of a foreigner. This outlook will be added onto with their own view and understanding of things. The class will be aiming at providing practical skills wherever possible.
- ③ The most important lesson to take away from this class is the difference in perception about things Japanese from individual to individual and from outside and inside Japan. Stereotyping ought to be avoided wherever possible. Students learned how to introduce their own country and aspects of its culture in the target language German.
- ④ The low number of attending students did make this class a throughout success, it has to be remarked. However, the participating students showed a lot of dedication enlightening people in German about things Japanese. Many engaging discussions took place and students learned a lot about themselves and outside images of Japan.

## 寿司や焼きソーセージの話ばかり？それとも？－異文化へのまなざし / Alles

### Sushi? Alles Bratwurst? Oder was? - Fokus Interkulturelles

- ① Morten Hunke, Wednesday 3<sup>rd</sup> period, 7students
- ② This class is taking a closer look at German food culture and the sphere of cross cultural issues between speakers of German and Japanese. It is aimed at both returnee students and students who have not (yet) been abroad. Practical speaking and presentation as well as research skills are the focal aspects of attention.
- ③ The Deutsche Welle/Goethe Institut collaborative cultural studies journey/game *Ticket nach Berlin* was always the starting point in the class. The project comprised of 2 teams of 3 learners of German each travelling through the country completing tasks to do with language and aspects of German culture. This happened live alongside the course. Thus, students could follow the progress in real time. Particular focus was placed on everything to do with food in the video blog episodes. A variety of German dishes was discovered. In presentations and simulations these were acted out
- ④ The language ability levels of students differed to a fair degree. This led to occasional obstacles to executing planned class activities. Also, the time slot appeared to be not ideal for many students. Attendance numbers dropped vastly towards the end of the semester. A semester final cooking event was held together with students from other classes.

## リサーチ発信プロジェクト / Forschungs- und Präsentationsprojekt

- ① Morten Hunke, Morio Ohyama, Monday 5<sup>th</sup> period, 1 student
- ② Doing research in the target language German is an important aspect of preparation for studying abroad in a German speaking country. Academic practices vary considerably to those in Japan. This is something students will be led to practically embrace throughout the course of the class.
- ③ In the class tuition was provided by 2 of iCoToBa's teachers. This type of collaboration is very promising indeed. The student chose to engage with presenting the 2 German cities with whose universities the Aichi Prefectural University has standing exchange partnerships: Köln (Cologne) and Leipzig. Topic of the research and the presentation were the universities and cultural sights and highlights in the 2 cities.
- ④ Having only 1 student in the class did not help one tiny bit. In fact, it was very hard on the student AND the teachers to stay focused and motivated. Of particular relevance in small classes are to alleviate as much pressure as possible. In small settings students can easily feel cornered and put under too much pressure. That was successfully done in this class.

## 【中国語】

### 実践中国語初級編 A

- ① 曲 明、火曜 10:30～11:30、1人
- ② 語彙を増強し、使う頻度が高いリアルな表現を身につけることを目的とする。
- ③ 初級の中国語常用語句を学習する。日常使用頻度が高く且実用性のある語彙を増強し、ネイティブが良く使うリアルな表現を身につけることを授業目的とする。1年生を受講対象とする。
- ④ 受講する学生は1名だったので、予定していた内容を変えて、毎回彼女の希望を聞いて、授業を行った。発音の練習と初級文法の説明が主な授業内容であった。受講者が1名だと、学生も、教員も授業を楽しめない時がある。今年を受講者1名の授業でも最後まで行っていたが、今後のクラスの扱い方は検討されるべきだと思われる。

## 実践中国語初級編 B

- ① 曲 明、木曜 14:30～15:30、10 人
- ② 語彙を増強し、使う頻度が高いリアルな表現を身につけることを目的とする。
- ③ 初級の中国語常用語句を学習する。日常使用頻度が高く且実用性のある語彙を増強し、ネイティブが良く使うリアルな表現を身につけることを授業目的とする。1年生を受講対象とする。
- ④ 受講人数が多かったため、全体的に活発な授業活動を行うことができ、学生も、教員も授業を楽しめたと思われる。学生が主体になり、発表したり、質問文を作ったり、語彙のマッピングゲームを行ったりすることにより、予定していた授業の目的を達成することができたと思われる。

## 実践中国語上級編

- ① 曲 明、水曜2限、4人
- ② 幅広い語彙を増強し、使用頻度が高いリアルな慣用表現、慣用句などを身につけることを目的とする。
- ③ 日常生活の様々な側面をカバーできるように、中級レベルの中国語の常用語句を学習する。実用性のある語彙を増強し、ネイティブが良く使う中級レベルのリアルな表現を身につけることを授業目的とする。2、3年生を授業対象とする。
- ④ 受講者4人が揃うと、授業活動が活発にできるため、学生も授業を楽しめたが、受講者が2人、時には1人になることもあり、そういう時は内容を変えて学生の希望に合わせて授業を行った。

## 発音を学ぼう A、B、C

- ① 曲 明、火曜 9:20～10:20、16:10～17:10、金曜 9:20～10:20、9人
- ② 中国語らしいリズム・アクセント・イントネーションを身につけ、朗読した定型表現を覚えることを授業目的とする。
- ③ 前期の発音の授業に続き、長文朗読にチャレンジする。
- ④ 発音の授業はいつも受講者が多い。秋には各種朗読、スピーチコンテストがあるため、授業登録してないが、発音指導を希望する学生が多かった。それに合わせて11月までは各種イベントに合わせて発音練習を行った。11月以後はもっぱら中国語検定試験3級のテキストを読んだ。受講者は発音のみならず、3級テストの形式及び定型表現に慣れたことも授業成果の1つと言える。

## 中国語のことわざ、四字熟語を使い倒す

- ① 曲 明、水曜 12:50～13:35、6人
- ② 中国語の成語またはことわざの出典を読むことにより、言葉の背後にある歴史、文化的背景を知ることを授業の目的とする。
- ③ 出典を読み、中国語の成語またはことわざを学習する。中国語検定試験2級の受験対策にもなる。3、4年生を授業対象とする。
- ④ 言葉の背後にある歴史、文化的物語を学ぶことにより、「なるほど」と納得する学生が多かった。もともと中国の文化に興味がない学生でも四字熟語の出典を読むことにより、中国の歴史、文化に興味を持つようになったのではないと思われる。

## リサーチ・発信プロジェクト

- ① 曲 明、金曜2限、6人
- ② グループプロジェクト(ブレインストーミングを行い、スケジュールを作り、仲間と一緒に問題を解決する)に必要なスキルや方略を学ぶ。
- ③ 前半は日本語でのセッション、後半はプレゼンの作り方や Q&A のセッションを中国語で行う。グループになってプロジェクトを考え、学期末に研究結果の発表を行う。
- ④ 受講者は6人だったため、3人1組で2チーム編成にした。両チームともとても積極的に授業活動に取り組んでくれた。3年生チームは外国企業(ここでは吉野家とマクドナルド)が中国に進出する際の企業展開スタイルを比較した。2年生のチームは中国の四大料理について調べた。どちらも大変興味深い研究調査であった。

## 中国語複文トレーニング

- ① 曲 明、月曜 13:35～14:20、3人
- ② 接続詞や副詞によって単文間の意味関係を表す中国語の複文の文法を学ぶ。
- ③ 作文を書くことにより、複文の使い方について考え、単文間の意味関係を表す中国語の複文の文法を学ぶ。基本文法を一通り勉強し終えて、ある程度中国語を聞く、書く能力のある学生を対象とする。
- ④ 受講者3名とも留学帰りの学生であった。中国語のレベルが高く、学習動機も高かった。毎回作文をさせながら、複文の使い方を学習しようと考えたが、やはり作文となると、日本語から中国語に翻訳しようとする傾向があり、中国語らしい表現ができず、複文の使い方もうまく出来ない。また、この授業は 45 分の授業であったため、授業時間が短く、毎回説明の途中で授業が終わってしまい、複文の使い方をきちんと理解できていないこともあった。今後授業時間の見直しをし、授業の方法も考え直す必要がある。

## 中国語で日本を紹介する

- ① 曲 明、木曜3限、7人
- ② 中国語を用いて自分自身、周りの人、自分の生活、毎日食べている料理など簡単な日本の文化、自分の故郷、そして日本の歴史、伝統を紹介できるようになること。
- ③ 中国語を用いて自分自身、周りの人、自分の生活、毎日食べている料理など簡単なテーマから少しずつ展開し、最後に愛知県立大学、自分の故郷、そして日本の歴史、伝統まで紹介できるように積み重ねて練習を行う。
- ④ 受講者7人のうち、5人は中国留学帰りの学生であった。彼らは中国で日本の文化についていろいろ聞かれ、うまく説明できなかったようで、学習動機はとても高かった。また前期、後期に1回ずつ5人の中国人留学生を招いて、弁論大会と発表会を行った。

## 中国と日本の比較文化

- ① 曲 明、火曜3限、14人
- ② 日中間の異文化の理解、また文化の裏にある社会背景を深く理解することを目指す。
- ③ この授業では、日本と中国の料理、住居、衣服、年中行事、冠婚葬祭、教育、言葉など幅広いテーマをとりあげ、それらを比較することによって、日中間の異文化のみならず、諸現象の裏にある社会背景も深く理解できるようにする。
- ④ 今学期のもっとも大きなクラスとなった。授業中は基本的にグループに分けて授業活動を行った。グループ内に留学帰りの学生もいれば、中国語はまだまだあまりできない2年生もいたが、留学帰りの先輩たちと一緒にグループ活動を行うことにより、2年生も勉強になったと思われる。

## 慣用句で中国語リアルフレーズ

- ① 曲 明、水曜1限、5人
- ② 母語話者が日常生活でいつも使っている上級の慣用表現を身につけることを授業目的とする。
- ③ 中国語の慣用句、成語、俗語、ことわざ、格言等を学ぶ。母語話者が日常生活でいつも使っている上級の慣用表現を身につけることを授業目的とする。
- ④ 受講者5人は全員留学帰りの学生であった。中国語検定試験準1級、1級、及び HSK の試験問題を用いて授業を行った。



### 3.3. 2013 年度サマープログラム

#### 【英語】

##### J-Ambassador

- ① Fern Edebohls, September 20<sup>th</sup>, 24<sup>th</sup>, 25<sup>th</sup>, 26<sup>th</sup>, 27<sup>th</sup>, 30<sup>th</sup> 1<sup>st</sup> and 2<sup>nd</sup> period, 11students
- ② To reflect upon Japanese truths and stereotypes, and identify possible foreign perspectives.  
To acquire vocabulary necessary in talking about Japanese traditions and objects.  
To be able to communicate information about Japan clearly.
- ③ Each class addressed a different element of the Japanese lifestyle that students are likely to be questioned about overseas. Students considered reasons behind core Japanese practices and principles and practiced explaining and discussing Japanese truths and stereotypes. The course culminated in a pair presentation introducing an element of Japanese culture.
- ④ The intensive nature of this course (taught in six three-hour sessions) meant that students got to know each other quickly. Discussions were thoughtful and animated, and homework completed to a high standard. The course ran over an 11-day period, meaning that students had little time to work on the final presentation. To counter this, the task was set-up in the first class, and in-time class was given over to presentation preparation in the final stages of the course. Students' presentations revealed a much greater level of engagement with the material than the previous semester's online task. Students were encouraged to enter a Kyoto University of Foreign Studies competition which had the same requirements as this courses presentation task but none chose to do so. Hopefully this contest can be used as a motivator more effectively next academic year.

##### Pronunciation Profiles

- ① Brett Hack, September 20<sup>th</sup>, 24<sup>th</sup>, 25<sup>th</sup>, 26<sup>th</sup>, 27<sup>th</sup>, 30<sup>th</sup> 3<sup>rd</sup> period, 17students
- ② To improve pronunciation and intonation, especially of trouble sounds, to apply learned pronunciation to natural listening and speaking, and to understand how personality and emotional state affect pronunciation and intonation.
- ③ Each unit focuses on a famous figure in the English world. Students listen to a talk by that person and isolate a pronunciation point that is difficult for Japanese speakers. After practicing the pronunciation point through drills and games, students return to the featured person's talk and reproduce the day's point in a larger text. Class also includes a short discussion of that person's activities. The final lesson features an in-class review of major pronunciation points.
- ④ This summer course followed the same course as the first-semester version, without a final in-class review. It consisted of six 90-minute sessions, during each of which I taught two

45-minute lessons. The pace of the class was very fast, and many of the younger students became tired. However, they were able to make improvements in their pronunciation. The course was too short for students to fully internalize native intonation, but I was able to at least make them aware of certain patterns in American English.

## Group Discussion

- ① Brett Hack, September 20<sup>th</sup>, 24<sup>th</sup>, 25<sup>th</sup>, 26<sup>th</sup>, 27<sup>th</sup>, 30<sup>th</sup> 4<sup>th</sup> period, 15 students
- ② To be able to quickly form and express one's opinion about a topic, to be able to agree, disagree, and ask questions, to be able to lead/moderate a discussion in English.
- ③ Each week highlights an accessible topic: food choice, the environment, fame, etc. Each unit includes light vocabulary and extensive training in a new discussion skill, followed by free discussion. Discussion skills taught were: giving opinions, agreeing/disagreeing, support an opinion, interrupting, changing the subject, asking for clarification, and moderating a discussion.
- ④ For the summer course, I selected six of the most successful discussion topics from my first-semester class. This was to encourage students who were not necessarily English majors to develop an interest in improving their English skills. Before each class, students completed a pre-reading and homework worksheet, which they used in class to complete the discussion skill activities and have productive discussions. Though there was not sufficient time in this short summer course to conduct a full set of student-led discussions, students were able to practice moderating discussions using prompts I had given them.

## 【検定対策】

### TOEIC Intensive 1、2、3（短期）

- ① 寺澤 君江、8月9日1・2限、8月13日1・2限、8月14日1・2限、45人(のべ数)
- ② TOEIC 受験対策
- ③ 以下の3点に重点を置き、授業を進めた。1つめは、TOEIC の試験問題におけるボキャブラリーを強化するため、テーマごとに重要単語を確認する時間を設定し、反復練習により語彙力を定着させた。2つめは、学生が苦手とする、リスニングパートに重点を置き、過去問題を用いてシャドウイングやQ&Aによりリスニング力の強化に努めた。3つめは、時間配分がポイントとなるリーディングパートにおいて、出題方法や問題の傾向を分析することにより、効率よく解答するテクニックが身につくようにアドバイスを与えた。授業の最後には、学習の成果を確かめるため、ミニ模擬試験の時間を設定した。
- ④ 問題の傾向を理解するという点において、成果があげられた。リーディングパートに関しては、時間配分がカギとなるため、練習問題をこなすことにより慣れることが大切である。授業外での継続的な努力が必要である。

### TOEFL Intensive 1、2、3(短期)

- ① 寺澤 君江、8月9日3・4限、8月13日3・4限、8月14日3・4限、25人(のべ数)
- ② 英語圏の大学への留学を目指す学生のための TOEFL 受験対策
- ③ 試験に対応できる英語力の基礎として、語彙力の強化に重点を置いた。4つのパート(リスニングセクション、リーディングセクション、スピーキングセクション、ライティングセクション)における、それぞれの出題傾向および問題分析を授業で位置づけ、攻略方法を身につけるようにアドバイスした。授業の最後には毎回、過去問題を用いてミニ模擬試験を実施した。学生の苦手とするライティングに関しては、iCoToBa のアドバイジングアワーを利用して授業外においても学習できるよう機会を設定した。
- ④ 問題の傾向に慣れるという点において成果があげられた。目標得点獲得には授業外での継続的な努力が必要である。

## 【フランス語】

### 180 分で思い出しフランス語[A1]

- ① ダレン・モルガン、9月 30 日1・2限、7人
- ② スムーズに後期の授業に入れるようサポートするため、前期に学んだフランス語を復習する。1年生対象の授業。
- ③ 前期で学んだ事を復習しながら、フランス語の正しい発音、文法を使って、会話中心の授業をした。ゲームを通して、前期に学んだボキャブラリーを思い出し、発音や意味を再確認した。
- ④ 授業に参加した1年生は前期の講義で接した学生ばかりだったので、発言も盛んだったし、真面目な態度で授業を受けていた。1年生の夏期集中プログラムとして、フランス語に慣れることが一番大切であり、また、前期に学んだ基本的なフランス語を思い出しながら使うことで身近な言語に感じてもらえたと思う。今後は、夏季休暇に入る前に基本的な文法や動詞の活用など、1年生のレベルに合ったプリントを配布し、基礎をしっかりと学び、集中プログラムでは、学生は一定レベル以上のフランス語の知識を持って授業に望んでもらいたい。

### フランス語検定 準2級対策講座[A2]

- ① ダレン・モルガン、9月 17、18、19、20、30 日5限、7人
- ② フランス語検定秋季試験準2級合格を目指す2年生向け集中対策講座
- ③ 仏検準2級に出題される単語、文法、会話について、過去問を参考にして独自に問題や例文を作り、学生に説明したり、会話をしたりして仏検対策をした。間違いやすいポイントを中心に多くのことを集中的に復習した。
- ④ 仏検対策の集中プログラムだが、仏検がプレッシャーにならないようにいつもの復習のような楽しい雰囲気の中で授業を進めた。来年度は会話や文法だけでなく、仏検2次試験のための講義、例えば、ある写真や絵を見て3分間で説明をするなど、実際の試験のような練習をしたいと思う。このような仏検対策の集中講義が学生達に求められていると感じた。

## フランス語検定 準1級対策講座[B2]

- ① ダレン・モルガン、9月 24、25、26、27 日 5限、2人
- ② フランス語検定秋季試験準1級合格を目指す4年生向け集中対策講座
- ③ ビデオを観て、何を言っているか、穴埋め、書き取りの練習をした後、フランス語で文法について説明した。仏検準1級に出題される単語、文法、会話について、過去問を参考にして独自に問題や例文を作り、学生に説明したり、会話をしたりして仏検対策をした。間違いやすいポイントを中心に多くのことを集中的に復習した。
- ④ 参加した2名の学生はモチベーションが高く、仏検前に自分が何をやらなければならないか、どのような点が自分に足りていないのかをはっきり自覚していたので、まずその点について集中して復習した。学生と会話をしていく中で、発音、冠詞や文法など、苦手なものがあればその都度訂正や解説をし、わからない点もフランス語で説明することによって、ボキャブラリーも増えたと思うし、フランス語のコツを教える事が出来た。このような仏検対策の集中講義は学生達に求められていると感じた。

## 【ドイツ語】

### 日常生活のドイツ語 / Alltagsdeutsch

- ① Morten Hunke, Tuesday 17<sup>th</sup> and Wednesday 18<sup>th</sup> September, 1<sup>st</sup>, 2<sup>nd</sup>, 4<sup>th</sup>, and 5<sup>th</sup> period, 2students
- ② How to translate your classroom language skills to real live communication? How to apply the language learned from regular classes more efficiently. There will be a strong focus on spoken language in German. In an intensive fashion this two day workshop aims at repeating aspects of language covered in semester 1 plus adding new things/scenarios. All of this with a major emphasis on hands on trying things out yourself.
- ③ The workshop comprised a variety of game activities meant to be serving as repetition of grounds covered in semester 1. There was a small focus on adjectives and appearances on day 1. On day 2 we moved more towards short dialogues on a number of other everyday scenarios. The emphasis was put on chunk learning of common expressions and to practice them in dialogues in context.
- ④ The low number of students attending this class was a real issue. Students do not sign up for one on one workshop. They want to be part of a group and they want to learn in such fashion. Especially, in such a workshop two day setting students urgently require regular breaks. Advertisement for the summer activities will need to be reviewed by iCoToBa staff and the cooperating departments.

## ドイツ語の映画館 / iCoToBa-Kino

- ① Morten Hunke, Thursday 19<sup>th</sup> September, 1<sup>st</sup>, 2<sup>nd</sup>, 4<sup>th</sup>, and 5<sup>th</sup> period, 2 students
- ② Introducing a range of popular Japanese anime feature films through the medium of German. Thus, eliciting an understanding of the fact that Japanese popular culture is highly regarded abroad. Students' understanding should be raised of indigenous Japanese culture as a doorway to the world.
- ③ By showing the films entirely through the medium of German (German sound plus subtitles in German) students had to rely on their prior knowledge about the film from watching it in Japanese. The films were disclosed to students beforehand and they were asked to prepare for watching them by re-watching them in Japanese. The focus on the day was not on discussing the film itself or content issues in German. The focus lay clearly on enjoying the experiment and comparing the level of difficulty the 3 distinct films had in the target language German.
- ④ The films featured on this day were: Mein Nachbar Totoro (となりのトトロ), Prinzessin Mononoke (もののけ姫), and Das Schloss im Himmel (天空の城ラピュタ). Proper cinema atmosphere was produced by the event being accompanied by a varied number of typical snacks and soft drinks. The turnout was somewhat disappointing, but all involved enjoyed the day thoroughly.

## 【中国語】

### 発音の復習と初級中国語

- ① 曲 明、8月7、8日1・2限、48人(のべ数)
- ② 発音の復習と初級中国語の会話練習。
- ③ 前期で学んだ発音を復習し、後期の勉強に備えて、簡単な初級中国語を勉強する。1年生または中国語専攻外の学生を対象にする。
- ④ 夏休み中にもかかわらず、多くの学生が参加してくれてとてもうれしかった。時間が合わないために iCoToBa の学期中の授業に参加できなかった学生も多く参加していた。なお、英米学科の学生も来てくれたので、夏休みの集中講座は実施する意義が大いにあることを感じた。

## 日常生活に使う中国語&中国語リアルフレーズ

- ① 曲 明、8月7、9日3・4限、22人(のべ数)
- ② ほかの授業ではあまり扱われていない日常でよく使う中国語を勉強する。
- ③ ほかの授業ではあまり扱われていない日常でよく使う中国語を勉強する。語彙をたくさん増やすことと、ネイティブが良く使うリアルな表現ができることを授業の目的とする。2、3年生を対象にする授業である。
- ④ ほかの授業ではあまり扱われていない語彙項目とは、例えば居間、台所にあるものの名前、中国人家庭内での会話、年中行事についての会話、定型表現などを想定していた。想像どおり、受講者はシャンプーやフライパンといった名詞や、お正月の時に中国人が使う定型あいさつも知らなかった。ただ、これらの内容は他の教科書、授業ではあまり扱われないため、学習内容の定着が良くなかったと感じた。

## 出典を読んで中国語のことわざを覚えよう

- ① 曲 明、8月8日3・4限、9日1・2限、6人(のべ数)
- ② 中国語の成語またはことわざを学習する。
- ③ 出典を読んで、中国語の成語またはことわざを学習する。中国語検定試験2級の受験対策にもなる。3、4年生を対象にする授業である。
- ④ 四字熟語の物語を音読したり、発表したり、シャドーイングをさせたりした。夏休み中だったので、普段の授業よりも多めにゲームを取り入れたり、休み時間に皆で太極拳をやったり、とても楽しい授業ができたと思う。

### 3.4. 2013 年度スプリングプログラム

#### 【スペイン語】

#### ゲームをとおして学ぶスペイン語 / Actividades sociales del mundo hispano

- ① Pablo APAZA, Monday, February 4<sup>th</sup> 13:30-14:30, 14:40-16:00, 14students
- ② To learn about the general activities that native young Spanish speakers do and play during their free time, social activities that help to know each other and enjoy together as a team.
- ③ Do activities to speak and act during the activity time.
  - Los grupos (The groups)
  - El rey pide (The king begs)
  - Pensar nombres de cosas en español (Thinking of nouns of things in Spanish)
  - Dance 'La Macarena'
  - Ratones/as (Male or female mice)
  - El sombrero y la corbata (The hat and the necktie)
  - Y son palmadas 3 (Three clappings)
  - El anillo (The ring)
  - El beso al oso (Kiss to the bear)
  - Mi chacra (My farm)
- ④ As programmed, the participants enjoyed during both hours. Between the first and second hour some participants changed which was good for the group. During the activities students were relaxed, moving a lot, talking, dancing and singing in Spanish as programmed. In general, this activity was very good to start a new way of using the language and do activities that are usually not common to do during classes.

#### メキシコ留学対策講座 / Curso introductorio para estudiantes que van a Mexico (Puebla)

- ① Maria Lizarraga, February 4<sup>th</sup>, 5<sup>th</sup> and 6<sup>th</sup> period, 3<sup>rd</sup> and 4<sup>th</sup> period, 10students
- ② This small introductory course is to provide theoretical and practical tools, minimal and indispensable to students who go to Mexico (Puebla) to enable them to successfully deal with situations they encounter whether in schools, social or family activities.
- ③ Relying with printed audiovisual extracted from the network material.
- ④ The aim is they know Mexico (Puebla) outside the classroom, on the way of life of Mexican manners and colloquial language.





## 4 iCoToBa のイベント

大山 守雄(iCoToBa 留学アドバイザー)

岡崎 まどか(グローバル人材育成推進室)

iCoToBa では、本学の学生の異文化理解および異文化交流を促進するために定期的にイベントを開催している。以下、2013 年度に実施したイベントについて報告する。

### ◆iCoToBa 異文化理解セミナー(1)「県内在住の留学生から聞く:多言語を話すとは」

5月20日(月)17:30 から 19:30 まで、iCoToBa 最初のイベントの異文化理解セミナーが開かれた。スピーカーは 2012 年8月から愛知県内の高等学校で勉強しているベルギー(オランダ語圏)出身の生徒。日本語はほとんど話せない状態で来日した彼女だが、半年あまりでスピーチができるほど日本語が上達し、参加した本学学生も舌をまくほど。それもそのはず、母国語のオランダ語(父親の母語)のほかにフランス語(母親の母語)、英語、ドイツ語を話す多言語話者の彼女にとっては、新しい言語をマスターするのはお手の物。ベルギーでは特に珍しくないとの紹介に、驚きと羨望のため息が広がった。ベルギーの生活の紹介プレゼンのあとは、英語と日本語による質疑応答に花が咲き、予定時間を越えて交流を楽しんだ。



#### ◆iCoToBa 国際交流(1) ノース・テキサス大学生の県大訪問

6月14日(金)、米国ノース・テキサス大学で日本語を勉強している8人の学生が、引率の竹内先生と一緒に県大を来訪した。堀外国語学部長に面会のあと、案内役の県大生11名とiLoungeで対面の上、キャンパスツアーを楽しんだ。学食で一緒にランチをとったあと、午後の部の案内役12名と愛・地球博記念公園の「サツキとメイの家」を見学、最後は地球市民交流センターでみやげ用の文鎮作りをしてから東海市のホストファミリー宅に向かった、半日あまりの短い訪問だったが、案内役からはぜひノース・テキサス大に留学したいという声が出るほど、楽しい交流の場になったようだ。



#### ◆iCoToBa 異文化理解セミナー(2) 「県内在住の留学生から聞く」

6月17日(月)17:50から19:20まで、本学の国際関係学科に留学中のロシア出身のアナスタシーさんとアンゲリーナさんが、出身大学のシベリア連邦大学のあるクラスノヤルスク市やロシアの大学生活を日本語で紹介した。シベリア連邦大学と愛知県立大学は2012年に学術交流協定を結び、その最初の留学生として派遣された二人の話を、参加者は熱心に聴いていた。二人は毎週iLoungeでロシア語講座も開いているが、この日ばかりは日本語で話をするのであつて、いつもと違う突っ込んだ話も聞くことができた。

#### ◆シベリア連邦大学短期プログラム 留学生歓迎パーティ

7月3日(水)の午後、愛・地球博記念公園内の地球市民交流センターにおいて夏の日本語研修に参加する10名のための歓迎パーティが開かれた。30名近くの県大生が集まり、バーベキュー&焼きそばを楽しみながら交流した。仲良くなった学生たちは、期間中もiLoungeに集まり、交友を深めた。

#### ◆iCoToBa 国際交流(2) チェコの音楽家によるギターコンサート

7月15日(月)17:50から19:20までiLoungeにおいて、チェコのプラハ音楽院のマルチンさんとヤンさんによるギターの演奏と声楽を聴く会が開かれた。この夜は学生ばかりか、仕事帰りの職員も参加して東ヨーロッパの音色を楽しんだ。マルチンさんは毎夏奥様の里帰りに同伴する際に、名古屋能楽堂などで音楽院の同僚とチェコ音楽の素晴らしさを紹介している。この夜もシェーベルト、モーツァルト、スペイン民謡、日本の曲など、素人でも楽しめる名曲を演奏して下さった。ヤンさんはギター演奏のほかにも、オペラのさわりを紹介して下さったが、その声量を十分

披露できる会場ではなかったことが心残りである。演奏後、英語でチェコに関する質疑応答の時間も設けられて、活発な質問が続いた。

#### ◆TOEIC ランチョンセミナー

一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会から講師をお招きし、昼食時間帯を使って TOEIC (R) テストの概要及び活用方法に関する説明会を開いた。対象学生は、初めて TOEIC (R) テストを受験する学生及び就職活動を控える3年生であった。セミナーの最後には、模擬試験が配布され、実際にリスニングテストの簡易版に挑戦した。得点を上げるには、問題形式に慣れることが重要であると認識させることができた。

#### ◆留学生 Welcome Party

10月16日(水)の午後、学術文化交流センターの多目的ホールで、この秋やってきた留学生のための歓迎会が開かれた。学生たちの自主性を養いグローバル人材を育成することを目的に立ち上がったばかりの iCoToBa Supporters Club (以下、ISC) による、企画イベント第一弾であった。本学に在学する留学生13名と、80名近い日本人学生、教職員が参加して、盛大なパーティとなった。本格的なけん玉ショーや、ゲームで大いに盛り上がり、ISCにとっては最高のスタートを切ることができた。



#### ◆Halloween Party

11月1日(金)の午後、1日遅れのハロウィンパーティが iLounge で開催された。企画・運営を担当したのはISC 学生たちで、本学に在学中の外国人留学生も加わり、ケーキデコレーション大会、ハロウィン映画の鑑賞、ゲームなどをして楽しく過ごした。思い思いのコスチュームを身に付けて大学祭会場を練り歩いたりして、いつもとは違う雰囲気 of iCoToBa になった。

### ◆Australian Cooking

11月22日(金)17:30から、iCoToBa 横の調理室を借りて、オーストラリア料理を作るイベントがISCの学生とアドバイザー役のエデボールズ先生を中心に企画された。今回のメニューはカンガルー・ハンバーガーとラミントンというココナツ風味のチョコレート・ケーキだった。初めて食べるカンガルーの肉に最初は「かわいそう」としり込みしていたものの、いざ食べてみると美味しくておかわりをする学生もいた。



### ◆先輩と語り合おう！日本で出来る国際協力・難民支援

本学卒業生の羽田野さんをお招きし、難民に関する知識や現状についてのプレゼンテーションを聞いた。学生たちにとってあまり馴染みがなく、普段深く考えたこともなかった日本に住む難民について知ることで、視野を広げ理解を深めることができた。プレゼンテーションの後には実際の事例を挙げ、難民を支援するためにどう対応すればよいかを話し合う機会があったり、学生から積極的に質問をしたりする姿が見られた。





#### ◆American Christmas

12月23日(火)の昼食時間帯に、ハック先生によるアメリカ風クリスマスの紹介プログラムがiLoungeで行われた。はじめに映像で典型的なアメリカのクリスマス風景をみたあと、先生手作りのクッキーに、学生たちは思い思いに絵付けをして楽しんだ。



#### ◆Christmas Party

12月23日(火)の17:00から留学生やISCのメンバー企画のクリスマス・パーティが開かれた。前夜から用意した電飾に灯りがともる中、サンタの衣装に包まったハック先生と、フンケ先生を囲んで夜遅くまで盛り上がった。



#### ◆ワークショップ 国際映画祭

iCoToBa の Activity Space を映画館のようなレイアウトにし、英語とフランス語の映画を1日1本ずつ上映し、上映後、その映画の言語で感想や、感じたことについて議論した。

1 月 20 日 (月)	13:00 ～ 15:00	英語「燃えよ ドラゴン」
	15:00 ～ 17:00	フランス語「最強の二人」
1 月 21 日 (火)	13:00 ～ 15:00	英語「レミーの美味しいレストラン」
	15:00 ～ 17:00	フランス語「大統領の料理人」
1 月 22 日 (水)	13:00 ～ 15:00	英語「マルタの鷹」
	15:00 ～ 17:00	フランス語「コーラス」
1 月 23 日 (木)	13:00 ～ 15:00	英語「ジム・キャリーは Mr. ダマー」
	15:00 ～ 17:00	フランス語「幸せの雨傘」
1 月 24 日 (金)	10:30 ～ 12:30	英語「トレインスポッティング」
	15:00 ～ 17:00	フランス語「メリダとおそろしの森」

フランス語と英語の映画を観ることで、聞く力、理解する力を高めるワークショップを開催した。学生が iCoToBa をもっと利用するよう、気楽に使える場所としてアピールすることも目的とした。Activity Space をもっと利用するために、映画を上映するのは良いアイデアであったが、授業がない日程で、このワークショップを行ったので、残念ながら学生がほとんど参加しなかった。今後は、授業がある期間にも、このように映画を定期的に上映すれば、iCoToBa を利用する学生が増えると思う。

#### ◆餃子パーティ

中国のお正月である春節を祝うイベントが開催された。中国学科の学生、教員、留学生が集まり、餃子を作り、水餃子や焼餃子にして食べた。調理室では、中国語、日本語、英語が飛び交い、思い思いに餃子を包みながら交流ができた。会の企画・運営を担当した中国学科の学生は、招待状を中国語で書き、中国人教員へ送付したり、教室を飾りつけたりした。司会進行も日本語と中国語の2言語で行う、中国語のことわざを学ぶゲームを用意するなど、楽しみながら学べるイベントにするための工夫がみられた。



◆2013 年度 iCoToBa イベントカレンダー

実施日	時間	イベント名	場所	参加者数 (学外者数)
5 月 20 日	17:30～ 19:30	iCoToBa 異文化理解セミナー(1) 県内在住の留学生から聞く	iLounge	5
6 月 14 日	10:30～ 15:50	iCoToBa 国際交流(1) ノース・テキサス大生との交流	iLounge / モリコロパーク	21
6 月 17 日	17:50～ 19:20	iCoToBa 異文化理解セミナー(2) 県内在住の留学生から聞く	iLounge	8
7 月 3 日	12:30～ 14:00	シベリア連邦大学短期プログラム 留 学生歓迎パーティ	モリコロパーク	47(2)
7 月 15 日	17:50～ 19:20	iCoToBa 国際交流(2) チェコの音楽家 ギターコンサート	iLounge	31
10 月 15 日	12:10～ 12:40	TOEIC ランチョンセミナー	H201	30
10 月 16 日	13:30～ 16:00	留学生 Welcome Party	多目的ホール	84
11 月 1 日	12:00～ 17:00	Halloween Party	iLounge	28
11 月 22 日	17:50～ 19:20	Australian Cooking	調理室	30
12 月 11 日	12:50～ 14:20	先輩と語り合おう！日本で出来る国際 協力・難民支援	iLounge	11(3)
12 月 23 日	12:00～ 12:45	American Christmas	iLounge	28
12 月 23 日	17:00～ 21:00	Christmas Party	iLounge	20
1 月 20 日 ～24 日	13:00～ 17:00	Workshop 国際映画祭	Activity Space	8
1 月 22 日	13:00～ 16:00	餃子パーティ	調理室	34





## 5 e-Learning プログラムの導入と概要

四ツ谷 亮子(ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)

オンライン上で自主学習できるよう、iCoToBa の発足と同時に、以下の6つのプログラムが導入された。ロゼッタストーンの ID は外国語学部学生専用だが、その他のプログラムは、外国語学部学生以外の、第二外国語の授業で各言語を学習する他学部の学生も利用可能である。

### ◆英語:ロゼッタストーン、ALC NetAcademy 2

本学に本年度導入された英語の e-Learning の教材としては、外国語学部の学生を対象とするロゼッタストーンの英語(以下ロゼッタストーンと呼ぶ)と、より広く他学部の学生も対象とする ALC NetAcademy 2(以下アルクと呼ぶ)の2つがあるが、後者は、「レベル診断テスト」から入り、以下自分のレベルに合った「リスニング」と「リーディング」の練習を受けられる「スーパースタンダードコース」と、TOEIC テストに実践的に対応する「TOEIC テスト演習 2000 コース」の2つのコースに分かれている。

ID の配布は、外国語学部では年度当初の学科・専攻ガイダンスにおいて行われたが、外国語学部以外では、5月の末に、英語(全学共通科目)の授業を通じて行われた。またアルクの講習会は4月に3度設けられ、うち2度は学生を対象に、1度は英語(全学共通科目)担当者(非常勤講師を含む)を対象に開催された。

【利用状況】アルクの利用率を本年度前期のみと、前後期を含めた期間で比較すると、前期のみより、後期も含めた数値のほうが、全体的に若干上向いているが、特に外国語学部以外で利用率が 9.7%から 15.1%に上がっている。これは、後期から英語(全学共通科目)においてアルクが導入された授業が複数存在することによる。なお外国語学部の中では国際関係学科において、アルクの利用率が最も高く、またロゼッタストーンの学習時間が最も長いという事実は、アルクないしはロゼッタストーンの定められた範囲を期日前に終了することが、「オーラルコミュニケーション」ないしは「総合英語」の単位修得の要件であることを反映している。

今後の課題としては、アルクおよびロゼッタストーンが授業の修了要件であるなしにかかわらず、それらに自主的に取り組む姿勢を養うことが挙げられ、そのためのさらなる講習会等の開催も視野に入り得ると考えられる。

### ◆中国語:中国語検定過去問 WEB(高電社)

中国語検定のすべての級の過去問題を WEB 上で解いて、検定対策を行う。自宅 PC、タブレット端末、スマートフォンからアクセス可。過去問の答え合わせもでき、利用者が自分で弱点を知ることができる。

【利用状況】11月の無料受験の結果を含めての合格状況は、専攻の学生については、2年生の11月の時点で、3級に約 77%の合格者、4年生の11月の時点で2級に約 36%の合格者と

いう結果である。今後も e-Learning 学習を続けて利用を推進していけば、よりよい結果が見込めると考えられる。

#### ◆フランス語: WORKOUT フランス語検定(スパーズ)

春季と秋季の年2回実施される「実用フランス語技能検定試験」(通称「仏検」)の対策のための e-Learning システムである。5級、4級、3級、準2級、2級、準1級の6つの級の練習問題が用意されている。回答率、正解率が表示され、不正解だった問題だけを後でやり直すこともできる。ID とパスワードで、自宅 PC、タブレット端末、スマートフォンからアクセス可。

【利用状況】納品されたコンテンツにさまざまな不具合が見つかったため修正に時間がかかり、学生への公開開始時期が遅れたせいか、学生にあまり浸透していないようで、利用率はまだ低い。ただし、本コンテンツは利用者の要望に合わせてカスタマイズすることが可能であるため、内容をさらに精査し、より良いものに仕上げ、今後の合格率上昇をはかる(平成 25 年度の秋季試験が初めての試みとなった受験料補助による団体受験の一次試験の合格率は、準1級が 34.3%、準2級が 83.3%、3級が 70.6%。参考:全国の合格率は、準1級が 26.0%、準2級が 62.2%、3級が 62.8%)。

#### ◆スペイン語: AVE Aula Virtual de Español スペイン語オンラインコース (Instituto Cervantes)

スペイン語を母語としない人のスペイン語運用能力を測るためスペイン文部省(スペイン国外ではセルバンテス文化センター)が実施しているスペイン語能力試験 DELE (CEFR のレベルに対応)に対応したオンラインコース。本学部では、スペイン語圏専攻1、2年生、スペイン語Ⅱ履修者が A1-A2、専攻3年生が B1、4年生が B2(本年度は B2)を使用している。

文法、語彙から、読解、作文などの練習にも対応している。視聴覚問題が豊富で、使用されている会話やナレーションの速度がネイティブに準じるため、難易度は高いがヒアリング力向上には効果的である。またスペインのスペイン語だけでなく、ラテンアメリカのスペイン語も使用されている。スペイン語圏の文化や社会、歴史についての知識も身につけられる。

【利用状況】平成 25 年5-6月にかけて、6回ガイダンスを実施。1、2年生の語学の授業によっては AVE を課題として指示しているクラスもある。とくに、長期休業期間に既習事項の復習や、聴き取り能力を伸ばすには効果的である。秋の DELE 対策としても使用されてきたが、4年生の使用率が低い。平成 26 年度は、外国語科目スペイン語Ⅱでも、定期的に確認をしながら、秋に受験する DELE A1対策を行う。

#### ◆ドイツ語: WORKOUT ドイツ語検定(スパーズ)

春季と秋季の年2回実施される「ドイツ語技能検定試験」(「独検」)対策のための e-Learning システムである。5級、4級、3級、2級、準1級の5つの級の練習問題(聴解問題を含む)が用意されている。正解率が表示され、不正解だった問題だけを後でやり直すこともできる。ID とパスワードで、自宅 PC、タブレット端末、スマートフォンからアクセス可。

【利用状況】納品されたコンテンツにさまざまな不具合が見つかったため修正に時間がかかり、学生への公開開始時期が遅れたせいか、十分に浸透しておらず、利用率はまだまだ低い。さらなる周知が必要である。ただし、本コンテンツは利用者の要望に合わせてカスタマイズすることが

可能であるため、さらなる内容の充実をはかり、今後の受検者の合格率アップへと結びつけていきたい。なお、平成 25 年度秋季の学内独検受検者の合格率は、平成 26 年1月末の時点で、準1級(一次)が52%、2級が47%、3級が92.5%であり、3級の合格者が上位級を引き続き目指せるように利用環境を整えること、また、2級・準1級の不合格者の苦手分野を把握して、重点的に取り組む項目を絞り込むためのアドバイスが必要と考えられる。

なお、e-Learning と専攻授業との関連づけ(=e-Learning の段階的な学習を単位修得の要件とする)に関しては、上記の国際関係学科(ロゼッタストーン・英語)、ならびにドイツ語圏専攻(ロゼッタストーン・ドイツ語)の例が挙げられるが、高い利用率とともに、正課の授業で予想外の課題をこなさねばならない学生の負担への配慮が必要であるという当該授業担当教員らの指摘もまた無視できないであろう。



## 6 グローバル関連行事

iCoToBa は、グローバル人材育成推進室と協働して教育事業を行っている。2013 年度は、語学学習とリーダーシップ養成、および協調性をはぐくむことを目指した「イマージョン合宿」、留学への動機づけを目的とした「県大ドイツデー」「留学報告会」、語学検定準備とキャリア形成教育を目的とした「TOEIC&キャリア研修」を実施した。以下、これらの実施報告を行う。

### 6.1. イマージョン合宿

大山 守雄(iCoToBa 留学アドバイザー)

8月11日(日)～12日(月)、岡崎にある「愛知県青年の家」で、Immersion Program(外国語だけで生活することで、その言語能力を高めるプログラム)の合宿が催された。今回が初めてということで、英語と中国語の2ヶ国語のプログラムが用意された。本学の学生の16名のほかにも、英語プログラムには県内の高校生12名が参加した(あいちスーパーイングリッシュハブスクール事業参加校を訪問して募集)。3名のiCoToBa教員の指導のもと、9名のインターンがプログラムを企画した。また、本学の外国人大学院生らによる媒介言語を用いない直接法によるインドネシア語、中国語、スペイン語の入門講座も開かれ、語学学習の楽しさを紹介した。初日はアイスブレイキング(知らない者同士が仲良くなるための自己紹介ゲームなどの導入プログラム)で仲良くなったあと、5つのグループに分かれてスキット(寸劇)作りをし、夜のタレントショー(演芸会)で発表し合った。自由時間も英語のゲームをしたり、夜遅くまで話に花が咲き、翌朝は眠い目をこする参加者も出た。英語のラジオ体操でスタートした2日目はクイズ作りとその発表会、そして午後はキング牧師の“I have a dream”という有名な演説を勉強したあとに、それぞれの夢をSpeakers' Corner(皆の前に進み出て自分の思いを話すプログラム)で発表し合った。あっという間の27時間だったが、外国語漬けの生活は新鮮だったようで、「語学学習がこんなに楽しいとは知らなかった」とか「疲れたけど、短期間でも集中すれば、語学力は上がると実感できた」といった声が寄せられた。ぜひ来年も開催をしてほしいというアンケート結果に、関係者全員が笑顔で夏休みを迎えることができた。



## 6.2. 県大ドイツデー

モルテン・フンケ (iCoToBa ドイツ語担当)

大山 守雄 (iCoToBa 留学アドバイザー)

11月13日(水)14:00から、「ドイツでドイツ語を学ぶ 世界を知る」というタイトルで県大ドイツデーが開かれた。iCoToBaのドイツ語担当教員のフンケと四ツ谷が中心となって企画・運営し、50人以上の学生が参加する盛大なイベントとなった。第1部は大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館総領事のインゴ・カールステン氏から最近のドイツの情勢を話していただいた。そのあとドイツ学術交流会(DAAD)東京事務所長のホルガー・フィンケン氏からドイツ留学や奨学金の説明を聞いた。第2部はドイツ留学から帰国した県大生による留学経験の報告があった。ドイツ留学へのモチベーションが高まったところで、17:30からは第3部のDAAD主催の懇親会がiLoungeで開かれた。美味しいドイツ料理を味わいながら、リラックスした雰囲気の中で今後の目標や、留学に対する思いを語り合う貴重な機会となったはずである。



## 6.3. 留学報告会

大山 守雄 (iCoToBa 留学アドバイザー)

留学希望者への情報提供を充実させるために、後期のスタートにあわせ、10月10日から1月9日まで、毎週木曜日の昼食時間帯にiLounge(iCoToBa内にある多言語交流ラウンジ)で留学報告会を開いた。1年の留学から帰国した学生や、夏休みの短期語学研修に参加した学生が、留学先の学校ごとに体験報告のプレゼンを行った。これまで国際交流室が開いてきた一般的な留学説明会とは異なり、自分たちが関心のある大学に関して実際に行った人から詳しく聞くことができるため、聴衆は少数ながら質疑応答は活発であった。司会はiCoToBa Supporters Clubの学生二人が半年を通して担当した。12:10にスタートし、20分のプレゼンに10分の質疑応答というパターンで行われた。好評なので、来期も継続していく予定である。

実施日	留学先	国名	参加者数
10月10日	ライプチヒ大学	ドイツ	10
10月17日	アリゾナ州立大学	アメリカ	6
10月24日	ファームステイ	オーストラリア	5
11月7日	ガジャマダ大学	インドネシア	15
11月14日	サセックス大学	イギリス	9
11月21日	ランカシャー大学	イギリス	11
11月28日	サヴォア大学	フランス	14
12月5日	シベリア連邦大学	ロシア	12
12月12日	ポートランド州立大学	アメリカ	7
12月19日	カーン大学	フランス	6
12月26日	ロンドンの語学学校	イギリス	6
1月9日	ニースの語学学校	フランス	4



#### 6.4. TOEIC&キャリア研修

寺澤 君江(iCoToBa 学習アドバイザー)  
宮谷 敦美(国際関係学科)

2013年度より始まった「グローバル人材プログラム」は、グローバルな現代社会で生き抜くための力として、高い語学力に加えて、問題解決能力やリーダーシップなど8つの目標をあげている。その中でも「語学力」は、英語と1言語、つまり2言語以上の複言語能力習得を目指している。英語の到達目標は英米学科、国際関係学科が TOEIC800 点、英語を専攻としない学科・専攻は、730 点である。しかしながら実際は、就職時に TOEIC の得点を十分にあげている学生は少なく、就職活動で外国語学部の強みである語学力を十分にアピールできない学生も多い。

以上の問題意識から、グローバル人材育成推進室と学生支援課キャリア支援室が協働し、iCoToBa の学習アドバイザーの協力のもと、2014 年2月から3月にかけて「TOEIC&キャリア研修」を開催した。対象は、2014 年度の卒業を目指している外国語学部学生である。2014 年3月の第 188 回 TOEIC 試験受験が受講条件にあげ、目標を定め学習に取り組むように学生に促し



た。講座は、6回のキャリア研修と9回の TOEIC 研修からなる。就職活動中の学生の参加しやすさを考慮し、名古屋駅前のサテライトキャンパスで開講した。

キャリア研修は、就職活動で学生が体験する面接やグループディスカッションで即座に反応し自分を表現する「瞬発力」の重要性を認識させるワークと、2013 年度卒業予定の学生とのコミュニケーションワーク、本学外国語学部を卒業し現在グローバルな職場で働く先輩とのディスカッションなどからなる。

TOEIC 研修は、試験直前対策として、即戦力につながるアドバイスやストラテジーを授業に盛り込むことを重視し、①語彙力の強化・リスニング力の強化、②問題分析および傾向把握、③ミニ模擬試験を行った。講座期間中は manaba も活用し、受講者の学習状況の把握と、個別アドバイスができる体制も整えた。また、TOEIC 研修については、長久手キャンパスとサテライトキャンパスの両方で同じ内容の講座を開講し、学生が受講しやすい時間と場所を選択できるように考慮した。

本研修は、キャリア支援室との協働によるはじめての取り組みであり、卒業生や卒業見込みの学生の経験談を聞く機会を取り入れる新しいタイプの教育プロジェクトである。研修終了時の受講者アンケートを行い、担当者によるふりかえりをもとに、2014 年度は、さらに改良した形式で実施する予定である。

#### ■キャリア研修

担当：第1回 濱島朋子(キャリア支援室)、第2～6回 宮谷敦美(国際関係学科)

内容 第1回(2月13日) 就活実践ワークショップ①

第2回(2月20日) 私の就職ストーリー(2013 年度卒業予定学生)

第3回(2月27日) 企業での TOEIC 導入状況(国際ビジネスコミュニケーション協会)

第4回(3月2日) いま思う「就活」と「就職」の本音(外国語学部を卒業した社会人)

第5回(3月6日) 就活実践ワークショップ②

第6回(3月13日) 就活実践ワークショップ③

#### ■TOEIC 研修(全9回)

担当：寺澤君江(iCoToBa)

内容 第1回(2月13日) 語彙:名詞 リスニング:アナウンス パート1 写真描写

第2回(2月17日) 語彙:動詞 リスニング:ラジオ番組 パート2 応答問題

第3回(2月20日) 語彙:形容詞 リスニング:オリエンテーション パート3 会話問題

第4回(2月24日) 語彙:副詞 リスニング:ミニスピーチ パート4 説明文問題

第5回(2月27日) 語彙:前置詞

リスニング:プレゼンテーション パート5 短文穴埋め問題

第6回(3月3日) 語彙:略語 リスニング:招待 パート6 長文穴埋め問題

第7回(3月6日) 語彙:復習 リスニング:ガイドツアー パート7 読解問題

第8回(3月10日) ミニ模擬試験1

第9回(3月13日) ミニ模擬試験2

## 7 アドバイジング

### 留学アドバイジング

大山 守雄(iCoToBa 留学アドバイザー)

留学者数を大幅に増やすために、外国語学部の留学希望の学生に対し、留学のイロハから、留学タイプ、留学先選びについての相談・啓蒙業務を開始した。4月の第3週から毎週6コマの留学アドバイジングの時間を設けて大山が相談に乗っている(一部外国人教員も協力)。オリエンテーション、掲示板、ホームページ等で案内したが、週平均の相談者は約2名と期待はずれであった。その理由は次のようなことが考えられる。

- 1) 外国語学部生は授業が詰まっていて余裕がない。希望者の3分の1が昼食時間帯に相談に立ち寄るが、昼食時間帯以外は集客が難しいというのが現実である。
- 2) 相談先が国際交流室と iCoToBa という2か所あることに学生側が戸惑っている可能性がある。両者の相談業務の棲み分け(漠然と留学を考えている学生には iCoToBa、具体的に留学先が決まったら国際交流室)を学生に周知する必要がある。
- 3) ヨーロッパ学科(ドイツ、スペイン、フランス語圏専攻)及び中国学科の場合は学科内の相談体制も充実しているためか相談者に占める割合は1割以下である。また、相談者の8割が英語圏留学希望である。英語圏は多様な選択肢がある上に、他言語圏と比較すると協定校が少なく、期間を含めて悩んでいる学生が多いために、相談者数が多い可能性が高い。

相談者の33%が1年生、42%が2年生で、3年生以上が25%であるので、すぐに留学をするという学生よりは、1～2年後の留学を考えて、相談に来ている学生がほとんどである。そのため進捗状況を報告しながら継続的に相談に来る学生も数名いる。また外国語学部以外でも相談に訪れるケースが3件(いずれも教育福祉学部)あるが、みな真剣に留学を考えているので分け隔てなく相談に乗っている。

相談者の8割が1年(もしくは半年)の学部留学を希望しており、休みを利用した短期語学研修を希望する学生はあまり相談してこない。短期語学研修の場合は、生協などを通して申し込む学生が大半で、業者のカウンセリングを利用していると考えられる。

来期は待ちの姿勢ではなく、1年をかけて全学生と面接することでより多くの学生が留学するよう啓蒙していきたい。

## 語学学習アドバイジング

寺澤 君江(iCoToBa 語学学習アドバイザー)

外国語学習のサポートを目的として iCoToBa に常駐している。海外留学を見通した上での外国語学習および留学後のフォローアップや、TOEIC をはじめとする検定試験対策などに関するアドバイジングを展開している。学生が語学力向上を目指して iCoToBa を利用する際、気軽に相談できる柔軟なカウンセリングタイムの設定、学生からの要望に沿った学習アドバイスの内容、他の外国人教員達との外国語学習に関する情報交換などを心がけている。週6回の学習アドバイジングアワーで行った主なカウンセリング内容を以下に報告する。

### 1. 留学に必要な語学力

英語圏留学に際して、学部留学希望者は英語力の証明として TOEFL または IELTS のスコア提示が留学先より求められる。語学留学ではなく、大学学部留学を実現させたいという強い希望をもった学生が受験準備に関してアドバイスを求めることが多い。受験に関わる学生からの質問や相談内容は大きく3点に分類される。TOEFL / IELTS それぞれのテストの傾向、問題集の選び方、スピーキングセクションおよびライティングセクションへの対策である。

アドバイジングは原則として、学生と対面で行っているため、かなりきめの細かい対応ができていると自負している。学生の学習歴やテストにおける弱点などを把握したうえでアドバイスするように努めている。具体的なアドバイス内容としては、問題集の紹介やスピーキングとライティングの学習方法に加え、それぞれのテストの問題構成や採点方法にも触れることが多い。その際、学生からは過去問(模擬試験問題など)を用いて攻略方法を重点的に解説してほしいという要望を受ける。TOEFL のスピーキングセクションおよびライティングセクションではリスニング力が大きく関わってくるため、リスニングを日常的にトレーニングできるように TED などスマートフォンや iPad を用いて気軽にアクセスできる無料動画サイトの紹介が学生には好評である。加えて、外国人教員による iCoToBa の Academic Listening、One-minute Speech、Short Essay Writing、Creative Writing などの受講を推奨することが試験勉強の効率を上げたと判断する。

外国語学習をサポートする上で、多文化を理解することや留学先でのコミュニケーションのとり方などを身につけることは、留学のための試験勉強と同様に大切である。外国人教員と自由に会話し、外国語によるコミュニケーション力強化を目的として iContact という時間を設定している。この時間の効果的な活用についても説明し、iCoToBa へ足を運ぶよう促すことが多い。また、学生のリクエストに応じて、試験対策のミニ講座を不定期に開催することになっている。個々の学生の意見を反映させやすいチュートリアル形式の講座であるため、より内容の濃いアドバイスが可能である。このような学習アドバイジングでは、試験のスコアを上げることが目的ではなく、実際に留学することを想定し、留学中に必要とされる包括的な英語力向上を目指すカウンセリングが望ましいと考える。

## 2. グローバル人材プログラム修了要件/就職に求められる語学力

グローバル人材プログラム修了要件の一つに TOEIC などの検定試験のスコアがあり、学生の外国語学習の動機づけの一つとなっている。就職活動時に語学力の証明として TOEIC スコアを提出することが多いため、TOEIC 受験前に短期間で英語力を伸ばしたいと学生から相談される。また、中学校および高等学校の英語教員志望の学生からは、受験資格に TOEIC スコアが有効であるため、就職試験対策の一環としての TOEIC 受験に対するアドバイスを求められることもある。このような場合、総合的な語学力強化と言うよりも戦略的かつ集中的にスコアのアップを達成することが学生にとっては急務の課題であるように感じる。

このような学生にアドバイスするとき、以下の3点に重点に置くよう努めている。1つめは、語彙力の強化、解答時のテクニック、e-Learning 活用によるセルフスタディの定着である。語彙力に関しては、頻出単語の傾向や単語帳の活用、TOEIC 特有の単語などについて説明する。出題分析を通じて、扱われる題材などにも触れ、問題の傾向を考えさせる。2つめは、解答時のテクニックである。その際、リーディングパートにおける時間配分が高得点獲得のポイントであることを助言する。3つめは、セルフスタディの定着のため e-Learning の積極的活用を推奨している。ネット上に複数のプログラムが準備されており、学生は 24 時間アクセス可能である。検定試験対策はセルフスタディが基本であるが、e-Learning を使うことで、それをサポートすることができると強調している。

## 3. 就職に向けての準備

外資系または海外勤務を希望する学生の履歴書作成に関わる相談を受けることがある。このような相談には日本語の履歴書との違いを踏まえ、カバーレター(添え状)も含めた指導が求められる。説明だけでは不十分であり、実際に作成しながら助言をしてほしいという学生の要望に応えることが多い。サンプルを参考にしながらアドバイジングを進める過程において、学生は海外就職に対する希望を募らせていく。また、履歴書を作成する行為そのものが、学生が各々の学生生活を振り返り、将来の展望をみつめる機会となっているのではないだろうか。

履歴書およびカバーレターの作成と並行し、英語によるジョブインタビューの模擬練習をアドバイジングの一環として展開することもある。ジョブインタビューは自分自身についてのプレゼンテーションである。外国語学習や海外留学経験により海外志向のキャリアに対して開眼していく学生の姿は逞しさと頼もしさを感じさせる。

## 4. e-Learning の活用

iCoToBa の Self Study Space に設置されている 14 台のパソコンを用い、効果的利用方法を学生に紹介する。週に2時間、e-Learning アワーを設定している。また、e-Learning 強化週間を設定し、より多くの学生が e-Learning を積極的に活用するように働きかけている。検定試験対策および多言語習得のためのプログラムが用意されているものの、学生の利用実績が十分に伸びていないようである。来年度に向けて、今後の大きな課題のひとつとしてとらえている。

## 5. その他

語学学習アドバイス時に、留学全般に関する質問が目立つ。具体的な相談内容としては、留学先はどんな条件で選べばよいか、協定校への留学とそうでない大学への留学の違いは何か、留

学先を決めた後に現地の大学とはどのように交渉するのがよいか、留学資金についてなどが主だったものとして挙げられる。奨学金の申請条件に英語力証明 (TOEIC/TOEFL/IELTS などのスコア) が必要であれば、それに関する情報やヒントを提供する。また、留学手続きの際のやりとりや志望動機書などの書類作成で細かなアドバイスが必要な際は、外国人教員からも助言を得るようにコーディネートすることもある。

#### 6. まとめ

平成 25 年度は多言語学習センター iCoToBa 開館の初年度であり、構造的にも内容的にも学習アドバイスのあり方は、今後、改善していく余地が大いにあると思われる。学習アドバイスが学生の要望に沿ったものとして機能するよう、また、多言語習得の可能性を高められる要素の強いものとなるようにしたい。

次年度は今年度以上に、学生による e-Learning のさらなる活用、iContact の有効利用、iCoToBa 施設内の書籍、DVD、デバイスなどの充実および効果的活用、留学に対する意欲を喚起できるような学習アドバイスに努めていきたい。

## 8 iCoToBa Supporters Club の発足

前期の iCoToBa のイベントは教員主導で行われたが、グローバル人材を育成するのであれば、学生が自主的に企画・運営する能力を養う場が必要であるということで、iCoToBa Supporters Club(ISC)を9月末に立ち上げた。留学生も含む40名ほどが登録し、後期が始まると早速以下のようなiCoToBa イベントを彼らのイニシアチブで企画・運営することになった。それぞれのプログラム内容については、iCoToBa イベント実施報告(pp.77-84)を参照されたい。

- 1) 留学報告会
- 2) 留学生 Welcome Party
- 3) Halloween Party
- 4) Australian Cooking
- 5) 先輩と語り合おう！日本で出来る国際協力・難民支援
- 6) Christmas Party
- 7) 餃子パーティ





## 9 教材開発・教育実践

iCoToBa では、グローバル人材育成事業で目標としている能力養成を目指し、教育実践に基づく教材開発に取り組んでいる。2013 年度の成果としての語学教材とカリキュラム開発に関する報告、および教育実践に関する報告について以下に述べる。

### 9.1. 作成した印刷物

#### 9.1.1. iCoToBa Collaborative Writing Project

Brett Hack

The iCoToBa Collaborative Writing project is an iCoToBa lounge tool tentatively titled Gen-GO. The purpose of this colorful magazine-style production is to aid teachers and students in using the iCoToBa lounge productively. It will serve as casual reading, self-study materials, and as a springboard for iCoToBa Time conversations. This magazine will showcase the multilingual and multicultural character of our team. Morgan Dalin and Brett Hack are serving as primary content creators and editors. Thus the main languages will be in English and French. However, all present iCoToBa teachers are contributing content, so every iCoToBa language will have representation.

The magazine will be 30 pages in length and will contain feature articles that cover topics relating to global studies, such as how to learn a language quickly, studying abroad advice, and cultural differences. It will also contain activities such as crossword puzzles, board games, or discussion prompts that can be used to encourage talking during iCoToBa hours. Finally it will contain multi-lingual pieces: collections of interesting expressions and proverbs shown in all iCoToBa languages.

The Course Book will be published in soft-cover magazine format.



### 9.1.2. iCoToBa における各言語のカリキュラム・シラバスの開発

曲 明

本稿は iCoToBa における中国語の授業のカリキュラム・シラバスの開発を報告するものである。

iCoToBa の授業は正規外授業であるため、カリキュラムの開発は各言語の担当の先生に委ねられている。指導と評価の基準を大学側にも、学生側にも明示的に示す必要がある。それらを明らかにするため、中国語の授業では学生の実状に対応した言語運用能力判断基準(Can-Do リスト)の開発を行った。まず、各言語の指導目標に関して、「iCoToBa の授業を終了した学生は、学習言語を使って具体的にどのようなことが出来るか」を記述した Can-Do リストを開発、作成した上で、「リスト上の事柄を学生が出来るようになるためには、どのような言語能力を必要とするか」を記述した。このように Can-Do リストを具体化するための下位能力を詳しく記述することにより、「iCoToBa で何を教えるべきか」というカリキュラムとシラバスの策定が可能になると考えている。

開発したカリキュラムおよびシラバスは、グローバル人材育成推進室会議 e-portfolio ワーキンググループの 2013 年度報告書の一部として掲載される予定である。

### 9.1.3. J-Ambassador Core Book

Morten HUNKE

The J-Ambassador Core Book provides a partial overview of the 2013 J-Ambassador courses across the languages. Here: Chinese, English, French, and German. It includes concise reflective reports by the teachers of all the above languages on their J-Ambassador classes in semester 1 and 2. It further includes a complete list of topics covered, exemplary activity suggestions, and compilations of useful teacher resources, and suggestions for future course development.

The purpose of this publication is four-fold: To share class content across the languages and to increase synergies across the iCoToBa languages; to provide new incoming teachers with ideas and resources; to reflect on the 2013 course and facilitate development of a more effective 2014 course, and to document the teacher's efforts to address the goals of the Project for Promotion of Global Human Resource Development through the J-Ambassador course.

The Core Book will be published both in hardcopy and on a CD-Rom.

#### 9.1.4. J-Ambassador Course Book (German)

*Japanbotschafter Kursbuch – Japan auf Deutsch erklären*

Morten HUNKE

The J-Ambassador Course Book (German) provides a comprehensive overview of the 2013 J-Ambassador course. It includes some detailed lesson plans, handouts, additional activity suggestions, compilations of useful teacher resources, and suggestions for future course development.

The purpose of this publication is four-fold: To share class content and facilitate greater in-house collaboration and increase synergies across the iCoToBa languages; to provide a photocopiable resource for students and teacher use; to reflect on the 2013 course and facilitate development of a more effective 2014 course, and to document the teacher's efforts to address the goals of the Project for Promotion of Global Human Resource Development through the J-Ambassador course.

The Course Book will be published both in hardcopy and on a CD-Rom.

#### 9.1.5. J-Ambassador Course Book (English)

Fern Edebohls

The J-Ambassador Course Book (English) provides a comprehensive overview of the 2013 J-Ambassador course. It includes detailed lesson plans, student handouts, additional activity suggestions, compilations of useful teacher resources, and suggestions for future course development.

The purpose of this publication is four-fold: To share class content and facilitate greater in-house collaboration across the iCoToBa languages; to provide a copiable resource for student and teacher use; to reflect on the 2013 course and facilitate development of a more effective 2014 course, and to document the teacher's efforts to address the goals of the Project for Promotion of Global Human Resource Development through the J-Ambassador course.

The Course Book will be published both in hardcopy and CD-Rom.

## 9.2. iCoToBa 教育実践報告

### 9.2.1. Getting students to think and go global at Aichi Prefectural University – an integrated approach

Morten HUNKE  
Fern EDEBOHLS  
Ming QU  
Atsumi MIYATANI

This keynote presentation was given as a joint venture of Office of Global Human Resource Development staff and the project's coordinator at the 2<sup>nd</sup> JALT (The Japan Association For Language Teaching) OLE SIG (Other Language Educators Special Interest Group) Conference, 12<sup>th</sup> October, 2013 at Chukyo University, Nagoya. The conference had around 50 attendees from all over Japan. Many of which are working in the field of teaching languages other than Japanese or English. The keynote presentation was very well received and much applauded by organisers and audience alike.

The presentation was started up with Morten HUNKE and Atsumi MIYATANI giving a brief introduction to the project and the iCoToBa, the multilingual learning centre. This was followed by Ming QU elaborating on her implementation of CEFR (Common European Framework of Reference for languages) criteria for Chinese. This is fantastic example of and a major contribution to the curriculum in a non-European language becoming more global itself. This short presentation was followed by Fern EDEBOHLS' introduction of the J-Ambassador course. This is a class taught across the five iCoToBa languages: Chinese, English, French, German, and Spanish. The topics and curriculum in all five languages are similar, as is the aim of making truly global thinking and outward looking ambassadors for Japan of our students. Finally, Morten HUNKE gave an introduction to how he uses the Japanese literary formats of *haiku* or to *tanka* for creating awareness among students of the concept of syllables in German and of Spoken Language as a distinctly differing standard from written conventions. On this topic Morten HUNKE also delivered a hands on best practice workshop at the conference on Sunday 13<sup>th</sup> October.

The truly new and very exhilarating aspect of the Promotion of Global Human Resource Development at Aichi Prefectural University is the concerted effort made across the different languages. Many classes are very similar in their design for all languages and synergies are being sought after wherever possible. Despite the competency gap between English and the other foreign languages, this works very well indeed. The same is true for the intensive and extensive collaboration with the International Office, the Career Centre, and the Student Support Centre.

### 9.2.2. Japanese kamishibai inspired group presentations

Morten HUNKE

This presentation was given at the 39<sup>th</sup> Annual JALT (The Japan Association For Language Teaching) Conference, 25<sup>th</sup>-28<sup>th</sup> October, 2013 at Kobe Convention Center Portopia, Kobe. The conference had around 2.000 attendees from all over Japan. All of which are working in the field of teaching languages and researching teaching practices and methods at a variety of levels. The presentation went very well indeed and produced ample feedback from the audience.

The presentation reported on the use of the kamishibai format for student presentations in a number of German iCoToBa classes. This approach has a number of advantages all carefully weighed up. Firstly, students are able to script for the presentations themselves. When it comes to speaking tasks Japanese students often feel more at ease when they have a bit of time and when they are able to write. Secondly, students were asked to script for a partner speaking the part they are writing on. This way the writing task gets a little more difficult, having to use third person singular. A welcome break away from routines. Thirdly, students were familiarised with a basic concept of identifying pauses and phrasal stress in German. These they applied individually to their own scripts. The performer of the script repeated the same task and made appropriate corrections/additions. Finally, students were asked to incorporate gesture and sound interactions into their group presentations. This generally enhances the accessibility of presentations in the target language German. The audience at the presentation – around 20 – were very impressed with the format. The subsequent discussion was very lively and produced some useful comments and feedback to the presenter.



## 10 広報活動

### 10.1. iCoToBa ホームページ

中西 千香（中国学科）

#### ■HP 開設までの経緯

iCoToBa がより多くの学生に利用され、外国語学習に役立つ施設となるための補助的機能を果たすべく、iCoToBa ホームページ(以下 iCoToBa HP とする)が開設された。

本 HP 準備に際しては、2013 年4月発足に向かって、2012 年度後半より、本学学務課職員、外国語学部教員とで議論を重ね、コンテンツ及びレイアウト、配色などを決めてきた。

本 HP 開設の目的は、学内学生に対する多言語学習、留学のサポート、各種学内外のイベント情報の提供である。また、学外にも公開されており、iCoToBa での授業、イベントなどが分かるようにさまざまな情報を提供している。

なお、各言語に関する情報は、それぞれの言語による記述を原則としている。

#### ■具体的なコンテンツとその内容

HP の内容は、iCoToBa からの情報提供で成り立つコーナーとスタッフや学生が参加することによる情報発信で成り立つコーナーに大別されていることが特徴としてあげられる。具体的には以下の通りである。

##### < 情報提供・共有型 >

##### 1) スタッフ紹介

本学 iCoToBa 教員紹介、学生たちへのメッセージ(ターゲット言語、日本語にて表示)

##### 2) プログラム紹介

iCoToBa での各言語のプログラム(授業)の紹介(ターゲット言語、英語、日本語にて表示)

##### 3) イベント紹介

iCoToBa で行われている年間イベントについて紹介(準備中)

##### 4) e-Learning へのリンク

本学学生のために用意した言語学習向上のための各種 e-Learning 教材へのリンク

##### 5) iCoToBa Wiki

各言語を学ぶ、各言語圏へ留学したい学生にむけたアドバイス、経験談を載せるページ  
(執筆は iCoToBa 教員を含む本学教員による)

##### < 情報発信・参加型 >

##### 1) iCoToBa スタッフブログ

iCoToBa 教員の大学での授業やイベントなどについての日常を伝えるページ(準備中)

## 2) Students' Voice

iCoToBa で学ぶ学生、iCoToBa のイベントに参加した学生の感想などを掲載するページ

本HPトップページには、当日の各言語の授業予定、その週のイベント情報、留学サポート相談の時間などが表示されている。新情報や学生に連絡したい内容はトップページに表示するようになっている。

上記の中でも、iCoToBa Wiki は外国語学部教員参加型の情報提供の場であり、学生の外国語の学習および留学に対する意欲喚起をねらっている。すでにいくつか掲載されているが、今後もさらに随時教員より原稿を募り、掲載していく予定である。

同様に、iCoToBa スタッフブログでは多文化理解および外国語習得に対する動機づけをはかることを目標としている。ブログ記事を通じ、iCoToBa スタッフに親近感をもち、施設利用の活発化が期待される。

加えて、Students' Voice では iCoToBa 運営に積極的に関わる学生達が中心となり、授業やイベントに対する意見や感想を発信している。ピアサポートの要素を盛り込み、スタッフブログと同様に、学生たちが海外留学や多文化理解に対する興味を高め、外国語学習および iCoToBa の授業やイベントに積極的に参加することが期待されている。

### ■問題点と今後の課題

iCoToBa HP は今年度開設したばかりのウェブサイトであり、まだ更新、改善すべき点もある。例えば、コンテンツの充実である。とりわけ、上記 iCoToBa Wiki については、非常に内容を広げることができ、学生たちに広く学習、留学のアドバイスをできるコンテンツである。また、iCoToBa スタッフブログ、Students' Voice は日々の教員、学生の声が分かるコンテンツである。タイムリーに本学の iCoToBa の動きが分かるものは、今後さらに充実させていく予定である。

iCoToBa HP は、情報発信および学生にとっての情報共有の場としての役割を担っている。今後も目的達成のために、さらなる改良に努めていきたい。

## 10.2. manaba コミュニティ:みんな集まれ iCoToBa 広場

岡崎 まどか(グローバル人材育成推進室)

### ■コミュニティ設立の目的

manaba 上に iCoToBa の情報を発信するコミュニティを設立した。コミュニティでは iCoToBa の授業、イベント、施設案内を随時掲載し、情報提供をしている。iCoToBa の利用方法や外国語学習や留学についての案内、質問への受け答えにも対応する。iCoToBa に関するすべての情報を得られる場にするを目的とした。

### ■メンバー数と内訳

現在のメンバー数は 55 名である。内訳は、学生 40 名(1年生 20 名、2年生 12 名、3年生 4 名、4年生4名)、教職員 15 名である。

## ■ 具体的なスレッド内容

コミュニティのスレッドの内容は、iCoToBa HP と同様のことが多い。そこで、アカウントを保持している学生のみが閲覧できるという manaba の特性を生かし、同様の案内でもコミュニティのスレッドでは、より親しみやすい書き方をし、堅苦しい雰囲気が出ないようにした。コミュニティは、一方的な情報発信の場ではなく、学生と教職員のコミュニケーションの場として機能する場を目指す。

### <スレッドの例>

- ・GOAL を目指してーTOEIC7ー
- ・サマープログラム募集中
- ・「グローバル人材プログラム」修了要件について
- ・iCoToBa Activity Space の利用について
- ・「留学中リサーチ・発信プロジェクト」manaba ガイダンス
- ・Immersion Program 参加者募集
- ・ロゼッタストーンについて
- ・iCoToBa Supporters Club について
- ・HP 更新情報、耳より情報
- ・イベント報告

## ■ 問題点と今後の課題

今後は更にメンバー数を増やし、活発なコミュニケーションが行える場として発展させていく。そのためには、学生からのコメントが得られるように、感想や意見が書き込みやすいスレッドを立てる、学生にスレッドを立てる機会を与えるなど、学生の積極的な参加を促していく必要がある。学生主体でのイベントでも、manaba の活用を推奨し、活動記録として残るようにしていけるようにする。





## 11 資料

### 11.1. iCoToBa 学部・学科別利用者一覧(平成 25 年4月～12 月)

入学年度	外国語学部						
	英米	フランス	スペイン	ドイツ	中国	国際関係	計
2013	255	63	1508	470	317	411	3024
2012	141	97	55	207	141	187	828
2011	121	67	53	66	184	154	645
2009 2010	153	96	116	209	96	108	778
2008 以前	11	0	46	1	7	0	65
計	681	323	1778	953	745	860	5340

(人数はのべ数)

入学年度	日本文化学部		教育福祉学部		情報 学部	大学院	交換 留学生※	計
	国語 国文	歴史 文化	教育 福祉	社会 福祉				
2013	9	5	3	0	7	28	249	301
2012	2	1	7	0	8	15	41	74
2011	3	11	0	0	14	0	0	28
2009 2010	9	24	2	0	12	0	0	47
2008 以前	0	1	0	0	0	0	0	1
計	23	42	12	0	41	43	290	451

(人数はのべ数)

※海外学術交流協定大学からの特別聴講学生を指す

## 11.2. 2013 年度前期 iCoToBa 科目

科目名称	各言語科目名称	受講者数
A2/初中級 サバイバル英語「こんなとき、なんて言う？」	Survival English	20
B2/中上級 サバイバル英語「こんなとき、なんて言う？」	Survival English	32
B1-B2/中級-中上級 今日のニュースについて話そう！	Today's Top News	16
C1/上級 今日のニュースについて話そう！	Today's Top News	6
B2/中上級 英語で日本 PR プロジェクトー日本の魅力を発信しよう！	J- Ambassador	14
C1/上級 英語で日本 PR プロジェクトー日本の魅力を発信しよう！	J- Ambassador	17
A2-B1/初級-中級 英語で授業を聴いてノートを取る	Note Taking & Academic Listening	23
B1-B2/中級-中上級 英語で授業を聴いてノートを取る	Note Taking & Academic Listening	8
A2-B1/初級-中級 発音練習	Pronunciation Profiles	24
A2-B1/初級-中級 発音練習	Pronunciation Profiles	22
B1-B2/中級-中上級 発音練習	Pronunciation Profiles	19
B1-B2/中級-中上級 発音練習	Pronunciation Profiles	16
B2-C1/ 中上級-上級 発音練習	Debate	5
B1-B2/中級-中上級 英語でスジナシ！役だけ決めて即興劇	English Improv.	7
A2/初中級 英語で Email や手紙やブログを書いてみよう！	Email, Letter & Blog Writing	4
B2/中上級 英語で Email や手紙やブログを書いてみよう！	Email, Letter & Blog Writing	10
B1-B2/中級-中上級 英語で履歴書を書いてみよう！	CV Writing	9
B1-C1/中級-上級 英語で研究計画書、レポートを書いてみよう！	Report Writing	2
A1- B1/初級-中級 英語圏を知りつくそう！	The English-Speaking World	18
B2-C1 /中上級-上級 英語圏を知りつくそう！	The English-Speaking World	12
A2-B1/初級-中級 1 分間スピーチを練習しよう！	One-minute Speech	8
B2-C1/中上級-上級 1分間スピーチを練習しよう！	One-minute Speech	8

A2-B1/初級-中級 プロジェクトワークを行って発表しよう！	Project Work	1
B2-C1/中上級-上級 プロジェクトワークを行って発表しよう！	Project Work	20
B2/中上級 ディスカッションに強くなる！	Group Discussion	10
C1/上級 ディスカッションに強くなる！	Group Discussion	5
B1（学生に対応） 検定試験対策 TOEFL-1	Passage to Academic English TOEFL-1	5
B1（学生に対応） 検定試験対策 TOEFL-2	Passage to Academic English TOEFL-2	5
B1（学生に対応） 検定試験対策 IELTS	Passage to Academic English IELTS	4
B1（学生に対応） 検定試験対策 TOEIC-1	Passage to Academic English TOEIC-1	13
B1（学生に対応） 検定試験対策 TOEIC-2	Passage to Academic English TOEIC-2	6
A1/初級 ちょっとチャット フランス語 a	Petite conversation en français-a	26
A1/初級 ちょっとチャット フランス語 b	Petite conversation en français-b	13
A1/初級 ちょっとチャット フランス語 h	Petite conversation en français-h	8
A1/初級 聞きたレ フランス語	Écoutez bien le français	13
A1/初級 発音サロン フランス語	Prononcez bien le français	3
A2/初中級 ちょっとチャット フランス語 d	Petite conversation en français-d	7
A2/初中級 聞きたレ フランス語	Écoutez bien le français	11
A2/初中級 書きたレ フランス語	Dictiez bien le français	11
B1/中級 ちょっとチャット フランス語 e	Petite conversation en français-e	5
B1/中級 ちょっとチャット フランス語 f	Petite conversation en français-f	4
B1/中級 聞きたレ フランス語	Écoutez bien le français	12
B1/中級 書きたレ フランス語	Dictiez bien le français	11
A2/初中級 フランス語圏なう a	La Francophonie aujourd'hui-a	5
A2/初中級 フランス語圏なう b	La Francophonie aujourd'hui-b	7

B1/中級 フランス語圏なう c	La Francophonie aujourd'hui-c	4
B1/中級 フランス語圏なう d	La Francophonie aujourd'hui-d	5
B1/中級 ニッポンなう	Le Japon aujourd'hui	9
A1/初級 発音とイントネーション(a)	Pronunciación y entonación (a)	19
A1/初級 発音とイントネーション(b)	Pronunciación y entonación (b)	23
A1/初級 発音とイントネーション(c)	Pronunciación y entonación (c)	8
A2/中級 発音とイントネーション B(a)	Pronunciación y entonación B(a)	8
A1/初級 スペイン語なんでもトレーニング(a)	Español general (a)	20
A1/初級 スペイン語なんでもトレーニング(b)	Español general (b)	22
A1/初級 スペイン語なんでもトレーニング(c)	Español general (c)	16
A2/初中級 スペイン語語彙(b)	Vocabulario (b)	12
B1/中上級 スペイン語語彙(a)	Vocabulario (a)	5
B1/中上級 スペイン語語彙(b)	Vocabulario (b)	11
A2/初中級 スペイン語で読み書き(b)	Lectura y escritura (b)	17
B1/中上級 スペイン語で読み書き(b)	Lectura y escritura (b)	4
A1/初級 楽しむスペイン語 a	Taller de español-a	16
A1/初級 楽しむスペイン語 b	Taller de español-b	13
A2-B1/初級-中級 楽しむスペイン語 c	Taller de español-c	8
A2-B1/初級-中級 楽しむスペイン語 d	Taller de español-d	7
B/中上級 サバイバルスペイン語(a)	Español práctico(a)	10
B/中上級 サバイバルスペイン語(b)	Español práctico(b)	9
B/中上級 スペイン語プレゼンテーション上級編(a)	Oratoria (nivel avanzado) (a)	14
B/中級 異文化理解(b)	Comprensión intercultural (b)	12
A1/初級 日常生活に生かすドイツ語〈初級文法篇〉a	Deutsche Alltagssprache-a	15
A1/初級 日常生活に生かすドイツ語〈初級文法篇〉b	Deutsche Alltagssprache-b	18
A1/初級 日常生活に生かすドイツ語〈ヒアリング篇〉a	Hörverständnisübung-a	18
A1/初級 日常生活に生かすドイツ語〈ヒアリング篇〉b	Hörverständnisübung-b	11

A2/初中級 口頭表現につなげる読解、聴解	Fokus - hören und lesen	9
A2/初中級 表現の多様性を書きながら学ぶ	Praktische Schreibübungen	10
B1/中級 ドイツ語圏(裏)事情	Deutsche Landeskunde - Ein Blick hinter die Kulissen	3
A1-B2/各級 検定試験対策	Vorbereitungskurs für das Zertifikat	11
A2/初中級 自分(の街)をもう少し知ってもらおう	Meine Heimat und ich: Anlässe zu interkultureller Kommunikation	18
B1/中級 日独サブカル事情	"Subkulturen" in Japan und Deutschland	4
B1/中級 学生生活サバイバル	Survivaltipps für das Leben in Deutschland	6
B2-C1/中上級-上級 異文化間コミュニケーションと職業生活	Interkulturelle Kommunikation-Arbeitsleben	2
A0/0 レベル 発音特訓講座 A、B、C、D、E、F	学发音 A、B、C、D、E、F	各 10
A1/初級 日常生活で役立つ中国語 A1 クラス A	生活汉语 A1 班-A	10
A2/初中級 日常生活で役立つ中国語 A2 クラス B	生活汉语 A2 班-B	7
B1/中級 慣用句、ことわざを通して中国文化を学ぼう A、B	学习惯用语和谚语 A、B	5
A2/初中級 検定対策補講クラス	汉语考试补习班	6
A2/初中級 中国語で日本を知る、紹介する	了解日本、介绍日本	7
A2/初中級 日中サブカル事情	了解中国亚文化	1
B1/中級 中国人の生活と文化	了解中国生活和文化	3

### 11.3. 2013 年度後期 iCoToBa 科目

科目名称	各言語科目名称	受講者数
A2-B2/初級-中上級 サバイバル英語「こんなとき、なんて言う？」 1	Survival English 1	7
A2-B2/初級-中上級 サバイバル英語「こんなとき、なんて言う？」 2	Survival English 2	13
B2/中上級 今日のニュースについて話そう！ 1	Today's Top News 1	10
C1/上級 今日のニュースについて話そう！ 2	Today's Top News 2	3
A2-B1/初級-中級 英語で日本 PR プロジェクトー日本の魅力を発信しよう！ 1	J- Ambassador 1	9
B2-C1/中上級-上級 英語で日本 PR プロジェクトー日本の魅力を発信しよう！ 2	J- Ambassador 2	6
B2-C1/中上級-上級 英語で授業を聴いてノートを取る1	Note Taking & Academic Listening 1	2
B2-C1/中上級-上級 英語で授業を聴いてノートを取る2	Note Taking & Academic Listening 2	6
A2-B1/初級-中級 発音練習1	Pronunciation Profiles 1	6
A2-B1/初級-中級 発音練習2	Pronunciation Profiles 2	14
B2-C1/中上級-上級 英語でディベート	Debate	7
A2-B2/初級-中上級 英語で小論	Short Essay Writing	2
B1-C1/中級-上級 想像と文章	Creative Writing	4
B2-C1/中上級-上級 メディアと文化	Media and Culture	9
B2-C1/中上級-上級 グローバルリーダー	Global Leader	6
A2/初中級 英語圏を知りつくそう！ 1	Comparative Study of Cultures:The English - Speaking World 1	16
B1/中級 英語圏を知りつくそう！ 2	Comparative Study of Cultures:The English - Speaking World 2	19
A2-C1/ 初級-上級 1分間スピーチを練習しよう！	One-minute Speech	5
A2-B1/ 初級-中級 プロジェクトワークを行って発表しよう！ 1	Research and Presentation Project 1	4
B2-C1/中上級-上級 プロジェクトワークを行って発表しよう！ 2	Research and Presentation Project 2	11
B1-C1/中級-上級 ディスカッションに強くなる！	Group Discussion	6
A2-C1/初級-上級 TOEIC Intensive 1	TOEIC Intensive 1	13
A2-C1/初級-上級 TOEIC Intensive 2	TOEIC Intensive 2	11

A2-C1/初級-上級 TOEIC Intensive 3	TOEIC Intensive 3	7
A2-C1/初級-上級 Strategic TOEFL 1	Strategic TOEFL 1	3
A2-C1/初級-上級 Strategic TOEFL 2	Strategic TOEFL 2	7
A2-C1/初級-上級 Vocabulary for Exams 1	Vocabulary for Exams 1	1
A2-C1/初級-上級 Vocabulary for Exams 2	Vocabulary for Exams 2	3
A2-C1/初級-上級 Vocabulary for Exams 3	Vocabulary for Exams 3	7
A2-C1/初級-上級 Academic Session 1 - customized tutorials -	Academic Session 1 - customized tutorials -	3
A2-C1/初級-上級 Academic Session 2 - customized tutorials -	Academic Session 2 - customized tutorials -	4
A2-C1/初級-上級 Academic Session 3 - customized tutorials -	Academic Session3 - customized tutorials -	2
A2-C1/初級-上級 Academic Session 4 - customized tutorials -	Academic Session 4 - customized tutorials -	1
A2-C1/初級-上級 Academic Session 5 - customized tutorials -	Academic Session 5 - customized tutorials -	1
A2-C1/初級-上級 Academic Session 6 - customized tutorials -	Academic Session 6 - customized tutorials -	1
A2-C1/初級-上級 Academic Session 7 - customized tutorials -	Academic Session 7 - customized tutorials -	1
A1/初級 聞きトレ フランス語 I	Écoutez bien le français I	3
B1/中級、B2/中上級 聞きトレ フランス語Ⅲ	Écoutez bien le français III	3
A1/初級 ちよっとチャット フランス語 I	Petite conversation en français I	2
A2/初中級 ちよっとチャット フランス語 II	Petite conversation en français II	3
B1/中級、B2/中上級 ちよっとチャット フランス語Ⅲ	Petite conversation en français III	7
B2/中上級以上 ちよっとチャット フランス語Ⅳ	Petite conversation en français IV	7
A2/初中級以上 ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui	10
A2/初中級以上 フランス語圏なう。	La Francophonie aujourd'hui	10
A1/初級、A2/初中級 リサーチ・発信プロジェクト	Recherche et Présentation	8
A1/初級 なんでもスペイン語	Español Básico	11
A1/初級 なんでもスペイン語	Español Básico	18
A2/初中級 DELE A2 対策	DELE A2	9
A2/初中級 DELE A2 対策	DELE A2	1



A2/初中級 リサーチ・発信プロジェクト	Investigación y presentación	3
A2/初中級、B1/中級 スペイン語で日本紹介	Presentar Japón en español	8
B1/中級、B2/中上級 比較文化セミナー	Estudios culturales	5
B2/中上級 DELE B2 対策	DELE B2	10
B2/中上級 DELE B2 対策	DELE B2	10
B2/中上級 時事スペイン語	Noticias de Actualidad	1
A1/初級 ドイツ日常語と実践会話 1/4	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches I	12
A1/初級 ドイツ日常語と実践会話 2/4	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches II	12
A1/初級、A2/初中級 ドイツ日常語と実践会話 3/4	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches III	13
A1/初級、A2/初中級 ドイツ日常語と実践会話 4/4	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches IV	14
A2/初中級 検定試験対策	Testvorbereitung	2
B2/中上級 「いただきます」、「お疲れ様」一日独文化事情と専門用語	"Mahlzeit" und "Schönen Feierabend"-Landeskundliches und Fachsprachliches	6
A2/初中級 海の向こうとこちら(日本紹介)	Heimat und Ferne (Japanbotschafter)	3
B1/中級 寿司や焼きソーセージの話ばかり？それとも？－異文化へのまなざし	Alles Sushi? Alles Bratwurst? Oder was? - Fokus Interkulturelles	7
A2/初中級 リサーチ発信プロジェクト	Forschungs- und Präsentationsprojekt	1
A1/初級 実践中国語初級編(中国学科)A	汉语常用语初级 A	1
A1/初級 実践中国語初級編(中国学科)B	汉语常用语初级 B	10
A2/初中級 実践中国語上級編	汉语常用语上级	4
A1/初級 発音を学ぼう(向上編)A	学发音和朗读 A	9
A1/初級 発音を学ぼう(向上編)B	学发音和朗读 B	10
A1/初級 発音を学ぼう(向上編)C	学发音和朗读 C	5
B1/中級 中国語のことわざ、四字熟語を使いたおす！	汉语成语, 俗语	6
B1/中級 リサーチ・発信プロジェクト	实践调查与报告	6
B2/中上級 中国語複文トレーニング	学习汉语关联词	2
A2/初中級 中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	7
A2/初中級 中国と日本の比較文化	中日文化比较	14
B2/中上級 慣用句で中国語リアルフレーズ	常用汉语习惯用语	5

#### 11.4. 2013 年度 iCoToBa サマープログラム開講科目

科目名称	各言語科目名称	受講者数
A2-C1/初中級-上級 英語で日本 PR プロジェクト-日本の魅力を発信しよう！ 1	J- Ambassador 1	11
B1-C1/中級-上級 ディスカッションに強くなる！	Group Discussion	15
A2-C1/初中級-上級 発音練習	Pronunciation Profiles	17
A2-C1/ 初中級-上級 TOEIC Intensive 1	TOEIC Intensive 1	14
A2 初中級 TOEIC Intensive 2	TOEIC Intensive 2	17
A2 初中級 TOEIC Intensive 3	TOEIC Intensive 3	14
A2-C1/ 初中級-上級 TOEFL Intensive 1	TOEFL Intensive 1	11
A2 初中級 TOEFL Intensive 2	TOEFL Intensive 2	7
A2 初中級 TOEFL Intensive 3	TOEFL Intensive 3	7
A1/初中級 180 分 de 思い出しフランス語	Le français en tête en 180 minutes	7
A2/初中級 フランス語検定準2級対策講座	Cours de préparation au DAPF - jun 2 kyu	7
B2/中上級 フランス語検定準1級対策講座	Cours de préparation au DAPF - jun 1 kyu	8
A2-B1/初中級-中級 サバイバルスペイン語	Español práctico	7
A2-B1/初中級-中級 検定 A2 対策講座	DELE A2	12
A1- A2/初級-初中級 日常生活のドイツ語	Alltagsdeutsch	2
B1-B2/中級-中上級 ドイツ語の映画館	iCoToBa-Kino	4
A1 発音の復習と初級中国語①	复习发音和初级汉语	13
A1 発音の復習と初級中国語②	复习发音和初级汉语	15
A1 発音の復習と初級中国語③	复习发音和初级汉语	10
A1 発音の復習と初級中国語④	复习发音和初级汉语	10
A2-B2 日常生活に使う中国語① 中国語リアルフレーズ	日常汉语会话	6
A2-B2 日常生活に使う中国語② 中国語リアルフレーズ	日常汉语会话	6
A2-B2 日常生活に使う中国語③ 中国語リアルフレーズ	日常汉语会话	5
A2-B2 日常生活に使う中国語④ 中国語リアルフレーズ	日常汉语会话	5
A1-B2 出典を読んで中国語のことわざを覚えよう①	学习汉语成语, 俗语典故	2
B1-B2 出典を読んで中国語のことわざを覚えよう②	学习汉语成语, 俗语典故	2
B1-B2 出典を読んで中国語のことわざを覚えよう③	学习汉语成语, 俗语典故	1
B1-B2 出典を読んで中国語のことわざを覚えよう④	学习汉语成语, 俗语典故	1

## 11.5. 2013 年度 iCoToBa スプリングプログラム開講科目

科目名称	各言語科目名称	受講者数
ゲームをとおして学ぶスペイン語	Actividades sociales del mundo hispano	14
メキシコ留学対策講座	Curso introductorio para estudiantes que van a Mexico (Puebla)	10

## 11.6. 2013 年度 iCoToBa 施設見学

### ◆ 高等学校の訪問

	学校名	日時	訪問者数			
			計	内 訳		
				生徒	教諭	PTA
1	岐阜県立 可児高等学校3年生	4 月 25 日(木) 10:00～12:30	46	44	2	0
	Activity Space にて施設・機器・授業の説明 Big Pad のデモンストレーション(外国語学習に関して) 外国人教員との会話体験					
2	愛知県立 岩倉総合高等学校1年生	4 月 26 日(金) 9:30～12:30	46	40	2	0
	iLounge にて施設・機器・授業の説明 外国人教員との会話体験 本学学生(留学経験者)との交流					
3	静岡県立 袋井高等学校2年生	5 月 17 日(金) 10:30～12:00	44	42	2	0
	iLounge にて施設・機器・授業の説明 iPad のデモンストレーションおよび体験(ドラゴンディクテーション) 外国人教員との会話体験					
4	岐阜県立 本巣松陽高等学校 PTA	5 月 22 日(水) 10:30～12:30	33	0	2	31
	Activity Space にて施設・機器・授業の説明 Big Pad のデモンストレーション(外国語学習について) 外国人教員の紹介					

5	愛知県立 尾北高等学校2年生	5月31日(金) 10:20~15:20	41	39	2	0
	iLounge にて施設・機器・授業の説明 iPad のデモンストレーションおよび体験(ドラゴンディクテーション) 外国人教員との会話体験					
6	愛知県立 御津高等学校2年生	7月12日(金) 10:00~12:00	42	40	2	0
	iLounge にて施設・機器・授業の説明 iPad のデモンストレーションおよび体験(ドラゴンディクテーション) 外国人教員との会話体験					
7	三重県立 津西高等学校1年生	9月6日(金) 10:30~14:00	42	40	2	0
	iLounge にて施設・機器・授業の説明 iPad のデモンストレーションおよび体験(ドラゴンディクテーション) スクリーンにて海外番組視聴(BBC/CNN 他) Self Study Space にて e-Learning 体験(ロゼッタストーン) 外国人教員との会話体験					
8	岐阜県立 瑞浪高等学校2年生	9月12日(木) 9:30~ 11:00	39	38	1	0
	iLounge にて施設・機器・授業の説明					
9	愛知県立 岡崎西高等学校2年生	10月31日(木) 10:30~14:00	79	76	3	0
	iLounge にて施設・機器・授業の説明 iPad によるデモンストレーションおよび体験(ドラゴンディクテーション) スクリーンにて海外番組視聴(BBC/CNN 他) Self Study Space にて e-Learning 体験(ロゼッタストーン) 外国人教員との会話体験 本学学生およびドイツ人留学生との交流					
合 計			408	359	18	31

◆オープンキャンパス 8月7日(水)、8日(木)

①外国語学部(8月7日午後)

訪問者数 : 約 300 名(高校生、保護者)

見学内容 : 施設、機器、授業の説明

iPad によるデモンストレーションおよび体験(ドラゴンディクテーション)

Self Study Space にて e-Learning 体験(ロゼッタストーン)

②日本文化学部・教育福祉学部・情報科学部(8月8日午後)

訪問者数 : 約 80 名(高校生、保護者)

見学内容 : 施設、機器、iCoToBa 授業の説明

## 11.7. 2013 年度 iCoToBa イベントポスター・パンフレット

2013年度、iCoToBa では異文化交流や異文化理解をめざしたイベントを数多く実施した。以下では、実施したイベントのポスターを紹介する。※印のものは ISC (iCoToBa Supporters Club) の学生が中心となり企画・実施したイベントであり、ポスターも学生が手書きで作成したものである。

125 ページ以降は、本学学生を対象とした iCoToBa 本(iCoToBa パンフレット)である。

### p.122

- ① ノース・テキサス大学の日本語学科生との交流 (ページ左上)
- ② シベリア連邦大学短期プログラム 留学生歓迎パーティ (ページ右上)
- ③ チェコの音楽家によるコンサート (ページ左下)
- ④ Happy Halloween Party (ページ右下)※

### p.123

- ① Australian Cooking (ページ左上)※
- ② 日本で出来る国際協力・難民支援 (ページ右上)
- ③ American Christmas (ページ左下)※
- ④ クリスマスパーティ (ページ右下)

### p.124

- ① 国際映画祭 (ページ左上)

pp.125-129 iCoToBa 本 (学生向け iCoToBa パンフレット)



ICOTOBA イベント

## ノーステキサス大学の日本語学科生との交流

ノーステキサス大学の学生 10 名との交流会を実施します。日本語を学ぶアメリカの大学生が来日し、英語、日本語を交えて楽しくコミュニケーションしていただきます。午前・午後の部のどちらか、または両方に参加可能です。事前打ち合わせもありますので参加してください。

2013 年 6 月 14 日 (金)

午前の部：10:30～ 県大ツアー、昼食、交流会

午後の部：12:50～ 自然との触れ合い、さつきとメイの家

◎愛・地球博記念公園

15:50 解散

希望者で大須散策

事前打ち合わせ 5 月 27 日 (月) 12:00～@iCoToBa

申し込み締め切り：5 月 24 日 (金) 申し込み先：iCoToBa 受付

皆さんの応募をお待ちしています◎

## シベリア連邦大学短期プログラム 留学生歓迎パーティー 参加者募集

日時：2013 年 7 月 3 日 (水) 12:30-14:00

場所：モリコロパーク 多目的室 4

参加費用：800 円 (当日会場にて支払)

定員：50 名

※ボランティアスタッフも同時に募集

(BBOQ の材料の買い出しや、セッティング、会の進行、片付けなど)

申込み：iCoToBa 受付

締め切り：ボランティアスタッフ…6 月 27 日 (木)

※打ち合わせが 6 月 28 日 (金) 12:00～ iCoToBa であります。

参加のみ…7 月 1 日 (月)



## コンサートのお知らせ

チェコの音楽家による本格的な演奏会です。  
ギターの音色に耳をかたむけ、東ヨーロッパ  
の風を感じる夕べ。ゆったりと音楽をお楽しみ  
ください。  
コンサートのあとはチェコについての交流  
会も予定しています。お気軽にどうぞ！

委 者：Martin Krehnač Kytara  
Jan Janda Zpěv

会 場：iCoToBa

日 時：7 月 15 日 (月) 17:50～19:20

申し込み：iCoToBa 受付  
(7 月 11 日 (木) 締め切り)

曲目：シューベルト、モーツァルト、スペイン民  
謡、日本の曲など

\*7 月 20 日 (土) に、名古屋音楽堂にてお二人  
のコンサートがあります。

## ★Happy★ Halloween Party!

11 月 1 日 (金)

★場所：icotoba  
(E 棟 2 階)

14:00～ ケーキデコレーション  
15:00～ B 映画鑑賞  
16:30～ ゲーム  
17:00 終了

★ドレスコード：ハロウィン系の  
アイテム(カボチャ、ネコ、  
魔女など) ★参加費 300 円



変装は自由!!  
お菓子の景品も  
ありますよ～!!!

申し込みは、icotoba の参加表に記入をお願いします!!



# Australian Cooking

DATE: FRIDAY, NOVEMBER 22nd

TIME: 6th Period 17:50~19:20

COST: ¥600

\*Menu\*

• Kangaroo Burgers

• Lamingtons



LOCATION

F211

H棟

F211

iCoToBa

APPLY @ iCoToBa Reception  
by NOVEMBER 15th!!

真帆ちゃんと語り合おう！

日本で出来る国際協力・難民支援

南大卒業生（スペイン学科）の羽田野さんをお招きして、  
国際協力について考えるワークショップを開催します。

難民ってなに？

国際協力って難しそう…。

そんな思いは吹き飛びます。



超多忙な真帆ちゃんに会える機会をお見逃しなく！

日時：12月11日（水）12:50~14:20

場所：iCoToBa Lounge

内容：学生時代の活動、現在の仕事について（参加型ワークショップイベント）

担当：ISC、大山先生、岡崎

★ゲストについて★

特定非営利活動法人 名古屋難民支援室 コーディネーター 羽田野 真帆さん（2007年入学 外国語学部スペイン学科）

岐阜県可児市出身、愛知県立大学卒業、名古屋大学大学院博士前期課程修了。2008年度、国際ボランティアサークルRLFF代表。2009年6月、「愛知県立大学難民サポーターズ（APURS）」を立ち上げる。2009年12月、難民を対象とした日本語教室「もっど日本語教室」設立。2012年7月より現職。

毎日新聞、朝日新聞、日本経済新聞、中日新聞から取材を受け、紙面に取り上げられている。

お申込はiCoToBa受付まで。（当日参加も可能です！）

# American Christmas

—Special Lesson and Christmas Cookies Decoration—  
produced by iCoToBa



Date: Monday, December 23rd, Lunchtime

Room: iCoToBa Cost: Free, But if you want cookies you must sign up!

Presenter: Brett Hack



Let's learn about real American Christmas traditions and enjoy the classic holiday dessert!



※ Sign up at iCoToBa!

Cookies are limited, so apply soon!!!

iCoToBa

クリスマスパーティー

Frohe Weihnachten!

Joyeux Noël!

メリークリスマス

메리 크리스마스!

Merry Christmas!

Feliz Navidad!

圣诞快乐

Feliz Natal!

一緒にクリスマスをお過ごししよう！

映画やゲームや美味しい食べ物など

楽しみにしてください！

いつ？ 12月23日（月）

何時？ 午後5時～午後9時

参加費：500円（食べ物と飲み物のために）

申し込み：iCoToBa（12月13日（金）まで）





## 国際映画祭

2014年1月20(月)～24日(金)

at the iCoToBa activity space



### THE ENGLISH MOVIE WEEK



### La semaine du film français

Mon. 20 - 13:00-15:00 Enter the dragon	Lun. 20 - 15:00-17:00 Intouchables
Tue. 21 - 13:00-15:00 Ratatouille	Mar. 21 - 15:00-17:00 Les saveurs du palais
Wed. 22 - 13:00-15:00 The Maltese falcon	Mer. 22 - 15:00-17:00 Les choristes
Thu. 23 - 13:00-15:00 Dumb and Dumber	Jeu. 23 - 15:00-17:00 Potiche
Fri. 24 - 10:30-12:30 Trainspotting	Ven. 24 - 15:00-17:00 Rebelle

参加費無料・事前登録不要

Just come and enjoy!

Venez librement!

上映後ディスカッションを行う予定です — お問い合わせ: Brett・Morgan

# iCoToBa パンフレット



## iCoToBa 本

CONTENTS	
iCoToBaであいましょう	02
iCoToBaってこんなところ	03
iCoToBaスタッフからのメッセージ	05
iCoToBaでできること	07
iCoToBaのプログラム紹介	08
アドバイジング&カウンセリング	15
e-Learningプログラム	17
iCoToBaをもっと活用	19
iCoToBaのイベント	21
Manabaについて	22
iCoToBa利用のアドバイス	23
iCoToBa Q&A	24
iCoToBaの基本ルール	25

## iCoToBaであいましょう

iCoToBa（あいことば）へようこそ！ 多言語学習センター「iCoToBa」は  
2013年4月にオープンした外国語学習支援スペースです。  
英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語のネイティブ教員と  
語学学習アドバイザー、留学アドバイザーが、みなさんの外国語学習をサポートします。

### iCoToBaの名前の由来は？

iCoToBaは、こんな願いを込めて名づけられました。

i  
Co  
To  
Ba

要知東立大学の「要(あい)」、わたしの「I(あい)」、independentの「i(あい)」

communication, cooperation, community

together(ともに)、to(目標に向かって)、仲間とともにの「と」

「場所」の「Ba」、人々があい、つどう場

iCoToBaで、ともに学び、人とつながり、さらに世界につながるきっかけをみつめてください！

iCoToBaでは、充実した語学の授業だけではなく、外国語でのランチタイムや映画鑑賞会など、外国の文化に触れられるイベントも、たくさん実施しています。

みなさん、iCoToBaであいましょう！

## iCoToBaってこんなところ

海外のテレビ番組や映画のDVDを友だちと一緒に見てみない？

ネイティブ教員と留学&語学学習アドバイザーがあなたの学習を強力にバックアップ！

iCoToBaでもe-Learningで学習できるよ。

iCoToBaでは、レベル別、目的別にいろんなクラスを開いているよ！ぜひ参加してね。

Visual-Studyスペース

アドバイジングコーナー

e-Learningシステム

外国語のレッスン

### イベント

映画鑑賞や留学生との交流会、各国の文化&行事紹介などイベント満載！イベントカレンダーをチェック！

event

### i Lounge

受付

### Self Study Space

### Activity Space

### 雑誌ブラウジングコーナー

いろんな国の旅行情報やトレンドを多言語で手に入れよう！

### 学習参考書紹介コーナー

TOEICをはじめ、いろんな検定対策参考書や各言語の辞書もあるから利用してね。

### iCoToBaのHP

iCoToBaのHPでイベント情報や外国語学習リソースをチェックしてね！ブログもあるよ。

### communication

ランチタイム・コーヒーアワー

毎週、ネイティブの先生と一緒にランチをしたり、コーヒーを片手に気楽なおしゃべりをしよう！

05 iCoToBa

## iCoToBaスタッフからのメッセージ

メッセージの日本語訳は、各言語のプログラム紹介(p.09~p.14)でチェック!



**Fern Edebohls 英語担当**  
Hi, I'm Fern. I am from Australia. My hobby is playing the flute, and I am currently a member of Nagoya Directors' Band. I love cooking and reading, and spend far too much money on cookbooks and novels! I also enjoy travelling, and recently visited India. I look forward to meeting you.



**Brett Hack 英語担当**  
Hi! My name is Brett. I'm from California in the USA. I've been in Japan for about 5 years now. I love stories of all kinds - novels, movies, comics, you name it! I belong to an English writers' group in Nagoya. I also love hiking in the mountains. I've been to Italy, Switzerland, Taiwan, and Hong Kong. Let's have a great time learning together!



**Morgan Dalin フランス語担当**  
Bonjour ! Que vous soyez débutant ou que vous souhaitiez vous perfectionner en français, j'aurai le plaisir de vous accompagner tout au long de cette année universitaire. Si vous souhaitez progresser dans une ambiance chaleureuse, n'hésitez pas à venir à ma rencontre. À bientôt !



**Morio Ohyama 留学アドバイザー**  
Studying at an American high school in 1967-68 opened up my eyes to the world. In my last year at Kendai, I traveled across Siberia and around Western Europe for 4 months, and studied for another year in Granada, Spain. I have been enjoying a unique and fulfilling life since then. I'm very happy to have the chance to work with those of you who are interested in exciting new experiences.

06 iCoToBa



**Susana Diego スペイン語担当**  
Como bien decía el famoso poeta español Machado, "Caminante, no hay camino, se hace camino al andar". En esta época de globalización en la que vivimos, no debemos olvidar la importancia que tiene conocer otras lenguas y culturas. Ser capaces de comunicarnos en español, lengua hablada por casi 500 millones de personas en todo el mundo, será sin duda un factor clave en nuestro futuro. ¡Caminemos juntos para labrar un futuro en el que seamos mejores ciudadanos del mundo!  
¡Os espero en los cursos de español de iCoToBa!



**Morten Hunke ドイツ語担当**  
Lernen soll Spaß machen! Lernen sollte praktisch sein! Hier bei iCoToBa helfen wir euch dabei euch praktisch und mit Spaß sprachlich zu verbessern. Wir suchen mit euch eine Chance im deutschsprachigen Ausland weiter zu lernen. Bitte, sprecht mich an. Willkommen in der globalen Welt der unbegrenzten Möglichkeiten!



**曲明 中国語担当**  
大家好。我是曲明。我觉得学好一门外语，多听多说是非常必要的。有时间的时候请一定来iCoToBa找我。让我们一起共度快乐的时光。我非常希望它对你学习汉语能有所帮助。



**Kimie Terazawa 語学学習アドバイザー**  
Welcome to iCoToBa! Enjoy collaborative learning with us and appreciate diversity in iCoToBa. Learning other languages enables you to widen your mind and deepen your thoughts. Join us to improve your language skills and discover something in yourself in this multi-lingual environment. I'll see you here in iCoToBa.

07 iCoToBa

## iCoToBaでできること

**iCoToBaは  
多文化体験の  
「Ba-場-」**

ネイティブの先生や留学生との交流は  
自分にとって当たり前の「もの」の「見方」だけでなく  
異文化の人々の「もの」の「見方」も知ることができるとは絶好の機会です。  
ひとつのものを、さまざまな視点から考え、行動できることは  
グローバルな世界に生きる私たちにとって必須のスキル。  
iCoToBaは、まさに多文化体験の「Ba-場-」  
あなたの異文化への視野をぐっと広げましょう。

外国語上達の道は  
学習目的を明確にし、それに必要なリソースと学習方法を知り  
適切な助けを得ながら、学習を続けること。  
そして、実際にコミュニケーションをすること。  
iCoToBaでは、そのどちらもサポートします。  
あとひとつ、あなたに必要なのは  
「間違えることをおそれない」こと。  
これがiCoToBaで一番大事なルールです。

**間違えることを  
おそれない**

08 iCoToBa

## iCoToBaのプログラム紹介

iCoToBaでは5つの言語と言語圏の文化について  
さまざまな授業を受けることができます。  
という、「通常の授業が終わって、また授業〜？」  
と思う人もいるかもしれません。  
そんなあなたは次ページからの授業説明をチェック!  
「あれっ、正規の授業とかなり違うみたい。」  
そうです。iCoToBaでは  
実用的かつ楽しい授業を各種とりそろえています。  
留学したい、各言語に強くなりたい、楽しいことがしたい  
など、それぞれの目的に合わせて  
自分でプログラムを組んでみてください。



**英語**  
ENGLISH  
p.09・10

**フランス語**  
Français  
p.11

**スペイン語**  
Español  
p.12

**ドイツ語**  
Deutsch  
p.13

**中国語**  
中文  
p.14

09 iCoToBa

## iCoToBaのプログラム紹介

### 英語 ENGLISH

■Survival English  
サバイバル英語「こんなとき、なんて言う?」  
英語で日常生活を送るために、これだけは知っておきたい表現を身につけよう。

■J-Ambassador  
英語で日本PRプロジェクト  
-日本の魅力を発信しよう!  
日本の魅力を英語で世界に発信しよう。日本の人口、政治、サブカルについてどれだけ知っている? 話そう。

■Pronunciation Profiles  
発音練習  
発音が、それと発音、ちょっとしたコツでもっと通じる英語になるはず。

■Today's Top News  
今日のニュースについて話そう  
CNNやBBCなど英語圏のテレビニュースを観て、その内容や背景について話そう。時事問題にも詳しくなれそう。

■Note Taking & Academic Listening  
英語で授業を聴いてノートを取る  
英語の授業を聴いて理解できるようになろう。聴きっぱなしではなく書く、これが大事。

■Debate  
英語でディベート  
今やディベートは英語学習者の基本スキル。意見を効果的に伝えよう。日本語ディベート経験者も歓迎!



**ファーン先生からのメッセージ** (英語はp.05をチェック!)  
こんにちは。ファーンです。オーストラリア出身です。趣味はフルートで、今、名古屋ディレクターズバンドの一員として頑張っています。料理や読書が大好きで、料理集と小説でよくお金を使います。旅行も好きです。最近行ったのはインドです。これから、よろしくお付き合いします。

10 iCoToBa

■English Improv.  
英語でシナジシ役だけ決めて即興劇  
英語で「ぶっつけ本番」即興ドラマ、してみよう。主役はあなた!

■Report Writing  
英語で研究計画書、レポートを書いてみよう!  
留学を考えている人には実は一番重要なスキル。思い切ってチャレンジしてみよう!


■One-minute Speech  
1分間スピーチを練習しよう!  
スピーチが苦手な人でも、1分間だったら何か含めるはず。英語で即興スピーチ!

■Email, Letter & Blog Writing  
英語でEmailや手紙やブログを書いてみよう!  
気軽に始められる英文文。日常生活に密着したライティングスキルを学ぼう。

■The English-Speaking World  
英語圏を知ろう!  
「国際語としての英語」って何だろう? インド英語ってどんなもの? 英語のバラエティについて考えよう。

■Project Work  
プロジェクトワークを行って発表しよう!  
課題を決め、グループで協力して取り組もう。独創性と行動力が試される!

■Group Discussion ディスカッションに強くなる!  
ディスカッションやインタビューのマナーと効果的な意見の述べ方を学ぼう。就職活動にも役に立つかも。



**ブレット先生からのメッセージ** (英語はp.05をチェック!)  
こんにちは! Brettと申します。アメリカのカリフォルニア出身です。日本滞在は今5年くらいです。物語が大好きです。小説、映画、漫画、種々雑多な物語ってもらいたい! 今名古屋にある英語作家サークルに参加しています。山登りも大好きです。旅行はイタリア、スイス、台湾、そして香港へ行ってきました。一緒に楽しく学びましょう!

11 iCoToBa

## iCoToBaのプログラム紹介

### フランス語 Français

■Petite conversation en français  
ちょっとチャット フランス語  
ネイティブの先生を囲んでフランス語でちょっとおしゃべりしてみよう。

■Écoutez bien le français  
聞きトレ フランス語  
めざせ! リスニング力アップ、とにかくフランス語の音に慣れよう!

■La Francophonie aujourd'hui  
フランス語圏なう。  
世界に広がるフランス語圏の時事ネタを詳しく解説。フランコフォニー通になっちゃおう!

■Prononcez bien le français  
発音サロン フランス語  
フランス語は発音が命! 正しい発音をマスターしよう!

■Dictionnaire bien le français  
書きトレ フランス語  
ディクテ(書き取り)を練習して、聞くだけでなく、書く力も強化!

■Le Japon aujourd'hui  
ニッポンなう。  
日本についてフランス語でプレゼンしてみよう! 留学先で役立つはず!



**モルガン先生からのメッセージ** (フランス語はp.05をチェック!)

皆さん、こんにちは。ダレン モルガンと申します。「デニム」の語源となっている町、南フランスのニーム出身です。お店の名前やお菓子の名前など、日本でもフランス語を目にする機会がたくさんあります。フランス語は決して難しい言語ではありません。一緒にフランス語を楽しく学びましょう。

12 iCoToBa

## スペイン語 Español

■Pronunciación y entonación  
発音とイントネーション  
スペイン語の発音って日本語母語話者には簡単! でも日本語にない音で意外と難しい。ポイントを覚えて発音上級者になりましょう!

■Oratoria  
スペイン語プレゼンテーション  
これからは自分のことばで自分のことを発信する時代。興味関心、自分の故郷、愛知県、県大についてスペイン語でプレゼンできたらカッコイイ。

■Lectura y escritura  
スペイン語で読み書き  
「読み」「書き」っていちばんめんどくさい。でも、「読み」「書き」ができてこそ大先生!

■Comprensión intercultural  
異文化理解  
留学する前に、または留学しなくても、スペイン語でスペイン語圏の文化について知り、考えよう。

■Taller de español  
楽しむスペイン語  
1年生から4年生までスペイン語を勉強している学生がいっぱいになって、歌に踊り、演劇、料理などなど…楽しんじゃおう!

■Vocabulario  
スペイン語辞書  
「語彙が足りない!」と思ったことない? 足りないなら増やしちゃう。

■Español general  
スペイン語なんでもトレーニング  
スペイン語始めたばかり、だからとにかくスペイン語に触れること、使うこと、これが大事。

■Español práctico  
サバイバルスペイン語  
留学前に、知っておくと役立つトラブル解決のためのスペイン語、大学の窓口で、銀行で、家主と…よい関係を保つために、また、損をしないために。



**スナナ先生からのメッセージ** (スペイン語はp.06をチェック!)

スペインの有名な詩人であるMachadoが「私の前に道はない、私が歩いた後に道ができるのだ」と言いました。グローバル時代に生きる私たちにとって、他の言語や文化を知ることが大切です。世界で50カ国もの人々が話すスペイン語でコミュニケーションすれば、必ずあなたの未来の扉が開かれるでしょう! よろしい世界市民になるために、一緒に勉強しましょう。iCoToBaのスペイン語コースでいきましょう。

13 iCoToBa

## ドイツ語 Deutsch

■Deutsche Alltagssprache  
日常生活に生かすドイツ語(初級文法編)  
「こうやって使えばいいんだ!」授業で習った単語や文法のしくみも、もう怖くない。

■Fokus - hören und lesen  
口頭表現につながる読解、聴解  
目と目で捉えたキーワードを、自分の口から発音できる表現に変えてみよう。

■Deutsche Landeskunde - Ein Blick hinter die Kulissen  
ドイツ語圏(国)事情  
「これって、あえて聞けなかった…」そんなトピックを集めて、みんなでチャット。

■Meine Heimat und ich  
Anlässe zu interkultureller Kommunikation  
自分(の国)をもっと知って、もっと海外でよく聞かれるのは自分のこと、自分の国のこと、説明の練習を、ロールプレイ形式でレッスン。

■Interkulturelle Kommunikation - Arbeitsleben  
異文化間コミュニケーションと職業生活  
海外生活、抱負の気づきの宝庫。将来を見据えて、学生同士で討論しよう。

■Hörverständnisübung  
日常生活に生かすドイツ語(ヒアリング編)  
みんなて持ちった身の周りの物たち、ドイツ語でなんと言おう?

■Praktische Schreibübungen  
表現の多様性を書きながら学ぶ  
よくみる表現も、相手や状況で様式が変わるもの、めざせ、スマートなドイツ語!

■Vorbereitungskurs für das Zertifikat  
検定試験対策  
留学や海外での仕事に必要な言語学の能力を、キャンパスでもブラッシュアップ。

■"Subkulturen" in Japan und Deutschland  
日独サブカル事情  
サブカルチャーを糸口に、ドイツと日本のイメージについてディベートしよう。

■Survivaltips für das Leben in Deutschland  
学生生活のサバイバル  
留学中に体験するあらゆる困難な状況を、シミュレーションから解決!



**フンク先生からのメッセージ** (ドイツ語はp.06をチェック!)

一緒にドイツ語を楽しみながら練習しましょう! ドイツをはじめオーストリアやスイスに留学したい学生をiCoToBaでサポートします。いつでも私に会いに来てください。可能性が無限に広がるグローバル世界に、はばたきましょ!

14 iCoToBa

## 中国語 中文

■学发音  
発音特訓講座  
「中国語、発音良ければ、半ばよし」、懇切丁寧に発音を指導。発音克服はココで。

■生活汉语 A2班  
日常生活で役立つ中国語  
さらにワンステップアップ! ネイティブと内容豊かなやりとりができるレベルをめざそう。

■汉语考试补习班  
検定対策補講クラス  
留学や就職の武器になる検定試験。苦手問題を克服しながら、合格をめざそう。

■了解中国亚文化  
日中サブカル事情  
中国人の友だちとの話になるには、サブカルネタが役に立つ! 身近なサブカルについて、調べたり話したりしよう。

■生活汉语 A1班  
日常生活で役立つ中国語  
さまざまな生活の場面で用いられる会話表現を学ぼう。

■学习惯用语和谚语  
慣用語、ことわざを通して中国文化を学ぼう  
会話表現を広げる慣用語表現やことわざ、会話の中で使うと上級者!

■了解日本、介绍日本  
中国語で日本を知る、紹介する  
外国で、日本について聞かれたら家外客えられないもの。きちんと調べて、中国語で相手に伝えてみよう。

■了解中国生活和文化  
中国人の生活と文化  
考え方、生活習慣、アイテム等を切り口に、中国語圏に暮らす人々の多様性について知ろう。



**曲先生からのメッセージ** (中国語はp.06をチェック!)

中国語担当の曲明です。どんな言語でも、上手になるためにはたくさん使うことが必要です。iCoToBaに中国語を使いに来てくださーい!一緒に話し、一緒に学び、一緒に中国の世界を探索しよう。

15 iCoToBa

## アドバイジング&カウンセリング

iCoToBaでは、経験豊かなアドバイザーが常駐し、あなたの外国語学習と留学を強力にバックアップします! 詳しいスケジュールは、iCoToBaのWebサイトまたはiCoToBa掲示板で確認してください。

語学学習アドバイザーよりひとこと

**カスタムメイドな感覚でアドバイスします。**

外国語の学習についてのカウンセリングを担当しています。留学前の準備としての外国語学習や留学後の外国語学習のフォローアップ、TOEFL・TOEIC・IELTSの検定試験対策など、外国語の学習に関することから、どんな質問も相談を受け付けます。効率的かつ効果的な学習方法をカスタムメイドな感覚でアドバイスします。気軽に声をかけてください。

語学学習アドバイザー  
Kimie Terazawa

留学アドバイザーよりひとこと

**留学前も留学後もしっかりサポートします。**

留学に関する相談とサポートを行っています。私自身、長年留学事業に従事し、高校・大学時代に1年の留学を体験しました。必要に応じてiCoToBa所属の外国人教員のアドバイスも受けられます。留学前のオリエンテーションも実施されます。留学中はManabaを利用してサポートを受けられますので、安心して海外留学に飛びたってください。Bon Voyage!

留学アドバイザー  
Morio Ohyama

16 iCoToBa

## ネイティブ教員よりアドバイス

### 外国語能力を身につけるには?



英語担当  
Fern Edebohls

What do you need to become proficient in a foreign language?  
① Resources & opportunities. ② The desire to use them.  
iCoToBa will take care of ①, ② is up to you! If you really want to communicate, **don't** be afraid of mistakes, and **do** keep on trying. I guarantee that you will succeed!

外国語が上手になるために必要なことは、①学習リソースと機会②これらを使いたいと願うこと。iCoToBaでは①を提供しています。②はあなた次第! 本場にコミュニケーションしたいと思ったら、間違えをおそれず、トライし続けましょう。そうすれば、きっとうまくいくと保障します。



フランス語担当  
Morgan Dalin

Prenez du plaisir à communiquer et exprimez-vous spontanément sans avoir peur de vous tromper! Sur le campus, vous aurez bien des occasions de nouer des contacts et de communiquer dans une ambiance chaleureuse. Vous verrez vite qu'apprendre une langue, ce n'est pas aussi difficile qu'on peut l'imaginer.

外国語を学べば、周りの世界が大きく広がります。県大にはいろいろな国の人がいて、さまざまな言語が飛び交っています。言語を習得するには、まず、外国語を話したいという強い気持ちを持ち続けることが大切です。そして、思ったことを恥ずかしがらずに言ってみよう。外国語を楽しく学び、あなたの世界を広げてください。



## e-Learningプログラム

e-Learningの魅力は、自分のペースやレベルに合わせて、好きな時に、好きな場所で学べること。上手に活用しましょう。

### ALC NetAcademy 2

「スタンダード」と「TOEIC(R)テスト演習2000」の2つのコースを導入しています。まず「スタンダード」コースで「レベル診断テスト」を受け、速読・速聴、英語の総合的な力を身に付け、次に「TOEIC」コースで実践形式の演習を行って、TOEICのスコアアップにつなげましょう。

### Rosetta Stone

「聞いて話す」訓練を徹底的に繰り返すことによって、日本語に訳したり単語や文法の丸暗記をすることなく、海外で暮らすように自然に言語を習得する環境が再現されています。また「スピーチ解析機能」により、自分の発音が実際にネイティブに通じる発音かどうかを確認しながら効率的に学習できます。何といてもすごいのは、勉強できる言語が30もあること！

### Workout フランス語検定

ゲーム感覚でフランス語の聞き取りや書き取りの練習ができます。フランス語検定の級ごとにレベル分けされているから、目標の級を集中して特訓。これで仏検対策もバッチリ！仏検(フランス語検定試験)は春と秋(6・11月)の年2回です。

### AVE (スペイン語オンラインコース)

スペイン語e-LearningコースAVE(アベ)は、Aula Virtual de Españolの略。「バーチャル教室」の名前の通り、「読む」「聞く」「書く」「話す(録音する)」の練習ができます。動画で視聴する会話も早く聞けるかもしれませんが、これが聞き取れるようになれば上達したということ。レベルはヨーロッパ共通参照枠に基づいて、DELE(デレ)の対策もばっちり、AVE仲間とチャットもできます。

### Workout ドイツ語検定

初学者がドイツ語の読み取りや書き取りの練習を無理なくできるよう、レベルに応じた問題が、少しずつパターンを変えて画面に現れます。独検(ドイツ語検定試験)は毎年、春・秋(6・11月)の2回行われます。大学で身につけたドイツ語能力を、力だめしの感覚で確かめてみましょう！

### 中国語検定 過去問Web

日本中国語検定協会が毎年3月、6月、11月に開催する日本中国語検定の過去問題を学べるWeb。1級から4級までの大量の過去問を備えています。リスニング・筆記と一つ一つ地道に解きながら過去問の傾向を感じ取ってください、とにかくやりこないと、合格を勝ち取りましょう！

### e-Learningの 活用法

#### 疑問に思ったことは、その場で質問。

e-Learningのよいところは、自分のペースやレベルに応じて、好きな時に、自宅など学外からでもアクセスできるという点です。県大では、英語のみならず、中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語の検定試験対策教材と、その他さまざまな言語を学べる多言語学習教材が導入されています。毎日少しずつ継続して学習するのよし、まとまった時間がある時に集中的に取り組むのよし、各自の学習スタイルに合わせて活用してください。ただし、自分で学習する中で疑問に思ったことはそのままにせず、iCoToBa教員に質問して解決していくようにしましょう！



## iCoToBaをもっと活用

### a パソコンやiPadを活用して…



#### プレゼンテーションの準備もばっちり

空き時間がきたら、iCoToBaのパソコンエリアもぞいてください。無線LANが利用できるエリアもあります！各国語でプレゼンテーションを行う授業にも対応。PCを使ってiCoToBaと図書館にある教材を探すのにも便利です。

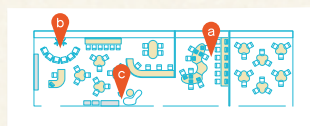


#### 自主学習やサイト検索にも便利

e-Learningの各種プログラムの自主学習、各国語の映画DVDを原語の字幕でじっくり鑑賞、iCoToBaのWebサイトから入って、海外のサイトから秘密のお気に入り情報を発掘…などなど、新しいブックマークをつけるのはあなたです。

#### iPadをもって、学内から自由にアクセス!!

iCoToBaでは、iPadの貸し出しサービスをしています。写真や動画を撮ってプレゼンテーションに活かしたり、仲間とディスカッションしながら、作品をつくってみよう。



### b 授業の合間に、世界の映画でリラックス



#### ソファでくつろぎながら 大型スクリーンでゆったりと

ゆったりとくつろげるソファに座って、各国語のDVDやBlu-rayを大型スクリーンで楽しめます。英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、ロシア語など各国語のテレビ放送もCHECK!

### c 雑誌、書籍、DVD貸し出しサービス



#### おなじみの雑誌が各国語でラインナップ

ELLEやCosmopolitanなど、おなじみの雑誌が各国語でラインナップ。各国語で書かれた日本のガイドブックもあるので留学先での日本の紹介にも便利です。iPadやノートパソコンの貸し出しサービスもぜひ活用してください。



## iCoToBaのイベント

iCoToBaでは、外国語の授業以外にも、さまざまなイベントを計画しています。イベントカレンダーをチェックして、ぜひ参加してみてください。

#### 留学生との交流会

県大や近隣地域に住む留学生とコミュニケーションしませんか？これこそ、グローバルキャンパス！

#### 留学体験談を聞く会

海外留学をした先輩たちの生の声を聞く会です。先生も知らない、リアルで現在進行形の情報が聞けるかも！

#### 地域に住む 外国人との交流会

実は、愛知県は全国で3番目に外国人が多い県なんです！地域の外国人と交流し、多文化共生社会の実現に必要なこと、私たちにできることを考えてみましょう。

#### 文化講座

海外の食文化に触れるパーティ、ミニコンサートや外国の文化を体験するワークショップなど、大学の枠を超えたイベントを企画します。リクエストがあれば、iCoToBaスタッフまで！

#### 映画鑑賞会

ネイティブの先生のおすすめの映画や海外の連続ドラマを一睹に見て、感想を話し合ってみよう！



## Manabaについて

iCoToBaでは、インターネット・ポートフォリオシステム「Manaba(まなば)」を利用してみなさんの学習をサポートします。

#### 先生やクラスメートへの相談

Manabaを利用している授業では、授業外の時間でも、先生やクラスメートにアドバイスを求めたり、意見をやりとりすることができます。

#### 留学している県大生との プロジェクトワーク

海外にいる県大生と、Manabaを使ってやりとりし、アンケート調査やインタビューを通して、プロジェクトワークをします。これこそ、バーチャルなグローバルキャンパス！

#### 共通の趣味・目標を持つ 仲間とのネットワークづくり

Manabaでは、サークルや共通の趣味を持った仲間とグループをつくり、交流することができます。自分たちの活動を発信して、仲間の輪を広げましょう。

### Manabaを 使って できること

#### ポートフォリオ (portfolio)ってなあに？

ポートフォリオとは、学習記録を蓄積したものを指します。学習内容を記録することで、自身の成長をふりかえり、次の課題を見つけたようになります。これ続けることで、自律学習能力を身につけることができます。

23 iCoToBa

## iCoToBa利用のアドバイス

iCoToBaは、語学力アップの授業プログラムに出席するだけでなく、さまざまな目的での利用が可能です。授業の空き時間やアルバイトまでの時間、ちょっとした待ち時間をiCoToBaで生きた時間にしましょう。

### 「余暇や情報収集」に

「外国」とゆっくりと向き合う時間も大切です

1年生から3年生の外国語学部のカリキュラム、「外国」とゆっくり向き合う時間も大切です。iCoToBaでは、専攻語を含む多言語のカルチャー雑誌や旅行ガイド、DVDを取りそろえ、学生の皆さんがそれぞれのアンテナで「面白い」と感じられるようなトピックを提供していきます。新しいところの場(Ba)=iCoToBaへ、どうぞお立ち寄り下さい。



### 「異文化体験」も

自ら表現し、発信する力を育てます

iCoToBaの語学プログラムでは、外国の料理をつくって食べたり、歌を歌ったり、最大にしながら異文化体験ができるイベントも計画中。知識を身につけるだけでなく、自ら発信する時代、日本の文化や社会について自分が学んでいる言語で表現、発信できるよう、語学力と表現力を鍛えるプログラムが満載です。留学先で自分の出身地域をアピールしたり、就活でのプレゼンにも役に立ちます。

24 iCoToBa

## iCoToBa Q&A

**Q 「留学する予定がありません」**

**A** iCoToBaでは、いろいろな商業やアクティビティを通じて、少しでも留学を身近に感じてもらいたいと思っています。でも、どうしても留学が難しい場合、iCoToBaでの活動を通して、海外の文化や生活を知ることができ、将来の留学に役立つ知識やスキルを身につけることができます。また、iCoToBaでは、海外の大学や企業と提携しています。将来の留学や就職に役立つ情報を提供しています。

**Q 「留学の費用は高額だけど、何か楽しいことがあるのか」**

**A** そんなあなたにはiCoToBaで実際に体験できるイベントがおすすめ。身体力行で異文化体験をするランチョン・チャットや、コーヒー片手におしゃべりできるコーヒートーク、また、外国語のCMや動画を観ながら楽しむCMや動画制作は、どうですか？日本人相手が多いけれど、英語力アップ、プレゼン力アップを目的とした海外旅行や海外研修も企画しています。イベントに参加しているうちに、本格的に海外生活の経験になるかも！

**Q 「TOEICや留学検定試験の勉強の仕方がわかりません」**

**A** iCoToBaでは、最新のe-Learningプログラムのほか、コーディネーターの先生によるTOEIC、TOEFL試験を予定しています。また、留学検定試験の勉強法がわかりました。プログラムも用意されています。まずは講座に参加して、勉強の仕方を学んでみては？

25 iCoToBa

## iCoToBaの基本ルール

1. iCoToBaを利用するときは、受付カウンターで学生証を提示してください。
2. iLoungeには食べ飲み持ち込みOKですが、カップ麺など汁物はNGです。
3. iLounge以外では、飲食禁止です。
4. 外国語ONLY時間は、日本語使用を禁止します。



### How to join the iCoToBa program?

#### プログラムの参加方法

STEP1: 自分にあったクラスをiCoToBaで検索する  
STEP2: クラスの開催状況をHPや掲示でチェックする  
STEP3: iCoToBaで参加したいプログラムを予約する

※クラスによっては、予約が必要なものもあります。詳しくは、iCoToBaの受付カウンターで確認してください。

### Borrowing Rule

#### 機材等貸し出しのルール

iCoToBaでは、iPad、PC、DVDなどをカウンターで貸し出しています。カウンターで申込み、学生証を提示してください。返却は当日のiCoToBa閉館時間内にてください。

26 iCoToBa

## iCoToBaはココ！



### Opening Hours

#### 開館時間

Mon-Fri 月曜-金曜 8:50-19:30  
Sat, Sun, Holiday 土日-祝日 閉館

※各館中庭・館内中心メニューはiCoToBa  
※受付は各館中庭・館内中心メニューはiCoToBa

iCoToBa (多言語学習センター) / 6階2階 / 1階2階

## 愛知県立大学

### iCoToBa (多言語学習センター)

〒480-1198 愛知県豊橋市市役所南隣1522番3  
TEL: 0561-76-8834 FAX: 0561-64-1107  
icotoba@for.aichi-pu.ac.jp  
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/>

# iCoToBa 年報 第 1 号

2014(平成 26)年 3 月

発行:愛知県立大学 iCoToBa

〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522-3E 棟 2 階

Tel: 0561-76-8833 Fax:0561-64-1107

E-mail: [icotoba@for.aichi-pu.ac.jp](mailto:icotoba@for.aichi-pu.ac.jp)

<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/>

印刷 株式会社 あるむ

iCoToBa Annual Report  
Aichi Prefectural University